

■

第二次北本市環境基本計画策定に係る アンケート結果報告書

調査の目的

北本市では、平成 10 年 6 月に環境の保全及び創造に関する基本理念や市・市民・市民団体・事業者の責務などを定めた「北本市環境基本条例」を制定し、この条例に基づき、平成 12 年 3 月に「北本市環境基本計画（第一次計画）」を策定しました。そして、平成 20 年 3 月にその改訂を行い、「緑豊かな自然と共生する安全で健康な文化都市・北本」を望ましい環境像として、その実現に向けたさまざまな取り組みを進めてまいりました。

この第一次環境基本計画の計画期間が平成 27 年度で終了すること、また、この間、地球温暖化対策や生物多様性の保全に向けた地球規模での新たな取り組みをはじめ、東日本大震災や原子力発電所事故に伴う放射性物質の影響など、安全で健康な生活環境の確保、省エネ・省資源や再生可能エネルギー利用の一層の普及など、新たな課題も踏まえて、計画を見直し、第二次北本市環境基本計画を策定していくことになりました。

この新たな環境基本計画の策定に向けて、市民・事業者の地域の環境に対する意識や環境問題に対する考え方、日常生活や事業活動での環境保全等に向けた取組状況などについて把握し、計画に反映させいくことを目的に、満 18 歳以上の市民 2,000 人、市内で事業活動を行っている事業所 200 社、市内の小学校に通う小学 5 年生の全児童と親を対象に、調査を実施しました。

目次

I 市民アンケート結果	I-1
調査方法と回収結果	I-1
問1 あなた自身について（回答者の属性）	I-1
(1) 性別	I-1
(2) 年代	I-2
(3) 家族構成	I-2
(4) 居住地域	I-3
(5) 住居の種類	I-3
問2 自家用自動車の所有状況について	I-4
問3 省エネや自然エネルギー設備の導入状況	I-4
問4 北本市環境基本計画について	I-5
問5 最も大切に感じる北本市の環境について	I-6
問6 環境や環境保全への取り組みの変化について	I-7
(1) 市域の環境の変化	I-7
(2) 東日本大震災後の節電など省エネや環境保全への取り組みの変化	I-10
問7 日常生活での環境に配慮した取り組みについて	I-11
(1) エネルギーを大切に使うために	I-11
(2) 水資源を大切に使うために	I-13
(3) ごみの減量化・資源化のために	I-14
(4) まちの美化や生態系の保護のために	I-15
北本市の環境を良くしていく取り組みについて	I-17
問8 北本の雑木林に対する考え	I-17
(1) 民有林からなる雑木林に対する考え	I-17
(2) 雑木林を残していくために必要だと思うこと	I-18
問9 まちづくりに向け優先すべき取り組み	I-19
問10 地球温暖化防止に向け優先すべき取り組み	I-21
【自由記載意見】	I-23
II 親子アンケート結果	II-1
調査方法と回収結果	II-1
問1 あなたのこと	II-1
(1) 学校名	II-1
(2) 性別	II-2
問2 北本市がどのようなまちであつたらよいか	II-2

問 3	学校の放課後や休みの日の外での遊びについて.....	Ⅱ-7
問 4	外でよく遊ぶところ.....	Ⅱ-8
問 5	環境についてのことばについて.....	Ⅱ-10
問 6	毎日の生活について.....	Ⅱ-11
問 7	北本市の環境で大切にしていきたいこと.....	Ⅱ-15
問 8	子育てしていくうえで改善してほしい環境.....	Ⅱ-16

Ⅲ 事業者アンケート結果 Ⅲ-1

調査方法と回収結果.....	Ⅲ-1
問 1 事業所のことについて（回答事業所の属性）.....	Ⅲ-1
(1) 主たる業務.....	Ⅲ-1
(2) 就業者数.....	Ⅲ-2
(3) 所在地.....	Ⅲ-2
(4) 市内での活動年数.....	Ⅲ-3
(5) 延べ床面積.....	Ⅲ-3
(6) 環境マネジメントの実施状況.....	Ⅲ-3
問 2 改正省エネ法による指定.....	Ⅲ-4
(1) 事業所全体での指定.....	Ⅲ-4
(2) エネルギー管理指定工場等について.....	Ⅲ-4
問 3 事業活動に関連し関心のある環境のテーマ.....	Ⅲ-5
問 4 東日本大震災後の節電や省エネなどの対策変化.....	Ⅲ-7
問 5 省エネや再生可能エネ利用に向けた環境整備状況.....	Ⅲ-8
問 6 地球温暖化対策への対応.....	Ⅲ-10
問 7 地球温暖化対策に向けて推進している対策・活動.....	Ⅲ-11
問 8 ごみの減量・リサイクルへの対応.....	Ⅲ-12
問 9 ごみの減量・リサイクルに向けた対策・活動.....	Ⅲ-13
問 10 有害な化学物質の適正使用と管理への対応.....	Ⅲ-14
北本の環境を良くしていく取り組みについて.....	Ⅲ-15
問 11 魅力を感じる北本市の環境.....	Ⅲ-15
問 12 まちづくりに向けて優先すべき取組内容.....	Ⅲ-17
問 13 地球温暖化対策に向けて優先すべき取組内容.....	Ⅲ-19
問 14 環境保全活動への参加について.....	Ⅲ-21
【自由記載】意見の内容.....	Ⅲ-22

I 市民アンケート結果

調査方法と回収結果

調査対象は、平成 27 年 6 月 1 日現在の住民基本台帳をもとに、年齢別、性別、居住地域別の人口割合を基本に、市内に居住する満 18 歳以上の市民 2,000 人を無作為に抽出し、郵送法で調査を実施しました。

調査対象者	市内に居住する 18 歳以上の市民
対象数	2000 人（平成 27 年 6 月 1 日現在住民基本台帳より無作為抽出）
調査方法	郵送法 ※督促状等による督促は行っていない
調査期間	平成 27 年 6 月 16 日（発送）～平成 27 年 6 月 30 日
宛先不在等返信数	8 人
回収数	729 人
回収率	36.6%

第一次北本市環境基本計画の中間見直し時の平成 19 年度にも同じ調査方法と対象数で同様のアンケート（以下、「H19 調査」という。）を実施しています。その時の回収結果は次ようになっており、ほぼ同じ回収率となっていました。

参考 （H19 調査との比較）	平成 19 年 11 月実施、郵送法 市民 2,000 人対象、回収数 709 人、回収率 35.5%
--------------------	--

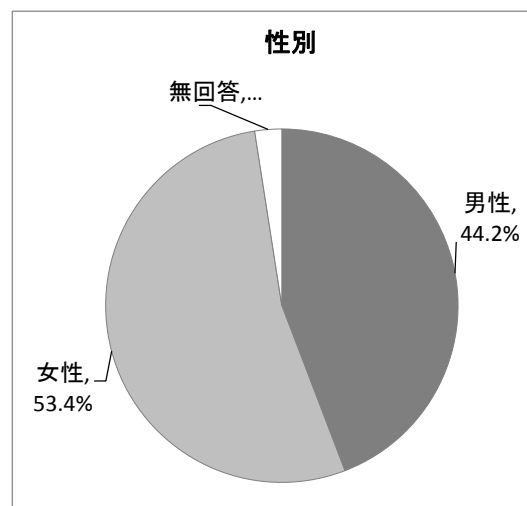
問 1 あなた自身について（回答者の属性）

（1）性別

回答者の性別では、女性 53.4%と男性の 44.2%に対して約 9 ポイント高くなっていました。

H19 調査結果と同様、女性の回答者が多くなっていますが、割合は 8 ポイント狭くなっています。

選択肢	回答数	割合	H19 調査
男性	322	44.2%	41.0%
女性	389	53.4%	58.1%
無回答	18	2.5%	0.8%
合計	729	100.0%	709 100.0%

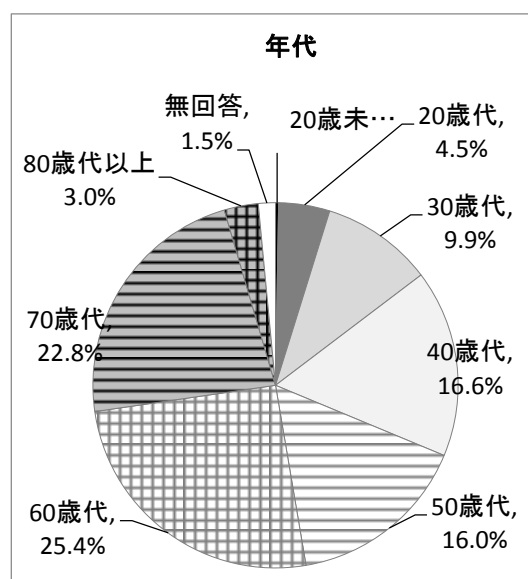


(2) 年代

回答者の年代は、60 歳代が 25.4%と最も高く、全体の 4 分の 1 を占めています。次いで 70 歳代が 22.8%となっており、60 歳代以上が回答者全体の半数以上を占めています。反面、20 歳代以下は 5%未満と低く、30 歳代と合わせても 15%程度となっています。なお、40 歳代と 50 歳代の回答者は合わせて 32.6%と全体の約 3 分の 1 を占めています。

H19 調査でも 60 歳代が 24.2%と最も高く、次いで 50 歳代が 20.7%となっていました。今回の調査では、H19 調査の年代別回答者の割合が、ほぼ、そのまま年代が繰り上がった状況となっています。

選択肢	回答数	割合	H19 調査
20 歳未満	2	0.3%	1.3%
20 歳代	33	4.5%	8.0%
30 歳代	72	9.9%	15.9%
40 歳代	121	16.6%	15.1%
50 歳代	117	16.0%	20.7%
60 歳代	185	25.4%	24.2%
70 歳代	166	22.8%	14.2%
80 歳代以上	22	3.0%	
無回答	11	1.5%	0.4%
合計	729	100.0%	709 100.0%

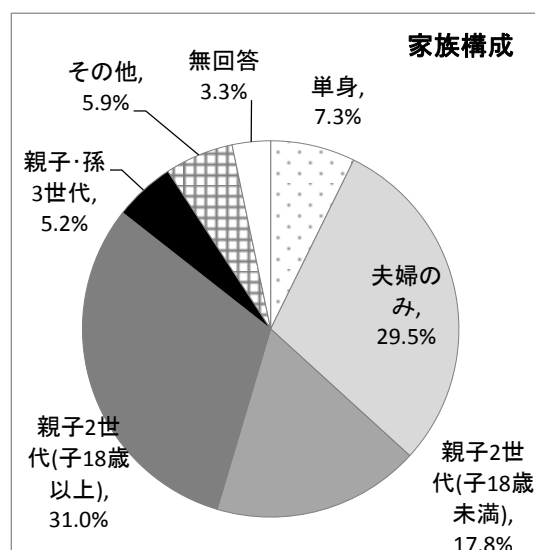


(3) 家族構成

回答者の家族構成では、親子 2 世代の家族が 48.8%と全体の約半数を占めています。そのうち、子どもの年齢が 18 歳以上の世帯が 6 割以上となっています。

また、夫婦のみの世帯が 29.5%と約 3 分の 1 となっています。

選択肢	回答数	割合
単身	53	7.3%
夫婦のみ	215	29.5%
親子 2 世代（子 18 歳未満）	130	17.8%
親子 2 世代（子 18 歳以上）	226	31.0%
親子、孫 3 世代	38	5.2%
その他	43	5.9%
無回答	24	3.3%
合計	729	100.0%

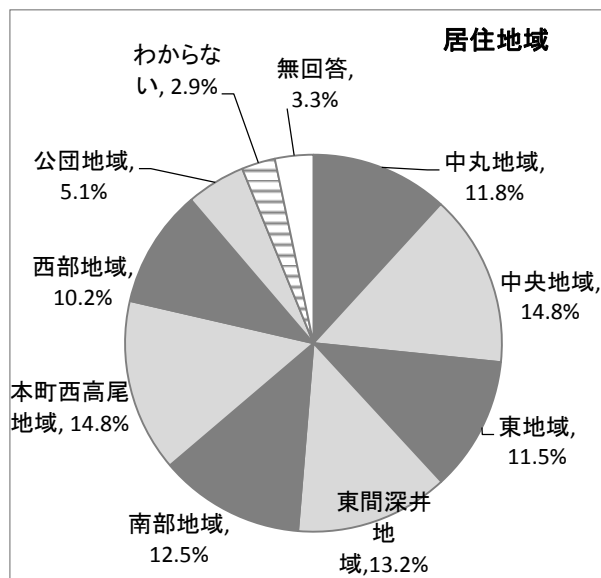


(4) 居住地域

回答者の居住地域別割合は、中央地域と本町西高尾地域がそれぞれ 14.8%と最も高くなっています。また、最も低い割合の地域は公団地域となっています。

H19 調査とも同様の地域別割合となっていますが、中央地域及び西部地域での割合が下がった反面、東間深井地域と南部地域の回答割合が高くなっていました。

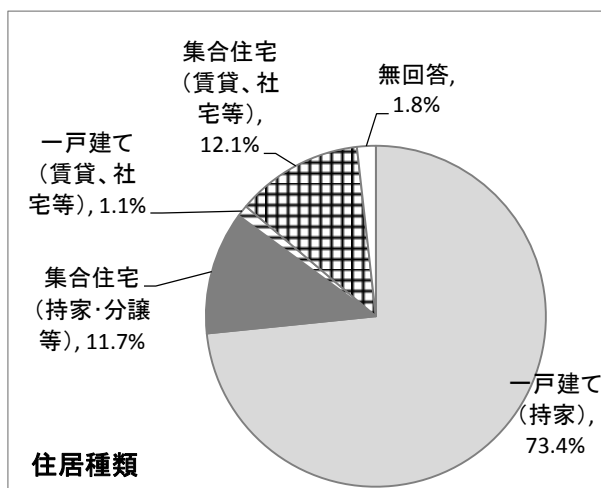
選択肢	回答数	割合	H19 調査
中丸地域	86	11.8%	12.4%
中央地域	108	14.8%	17.4%
東地域	84	11.5%	10.4%
東間深井地域	96	13.2%	11.0%
南部地域	91	12.5%	11.1%
本町西高尾地域	108	14.8%	15.7%
西部地域	74	10.2%	13.0%
公団地域	37	5.1%	5.9%
わからない	21	2.9%	2.1%
無回答	24	3.3%	1.1%
合計	729	100.0%	709 100.0%



(5) 住居の種類

回答者の住居の種類としては、一戸建て（持家）が 73.4%と全体の約 4 分の 3 を占めています。マンション等の集合住宅は、持ち家・分譲と賃貸・社宅を合わせて約 24%と全体の 4 分の 1 となっています。

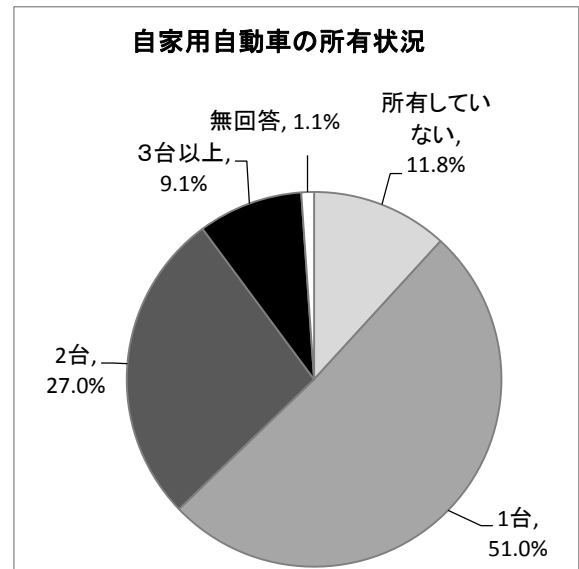
選択肢	回答数	割合
一戸建て（持家）	535	73.4%
集合住宅（持家・分譲等）	85	11.7%
一戸建て（賃貸、社宅等）	8	1.1%
集合住宅（賃貸、社宅等）	88	12.1%
無回答	13	1.8%
合計	729	100.0%



問2 自家用自動車の所有状況について

回答者の9割近くが自家用自動車を所有しています。そのうち約6割が1台の所有ですが、約4割が2台以上所有しています。

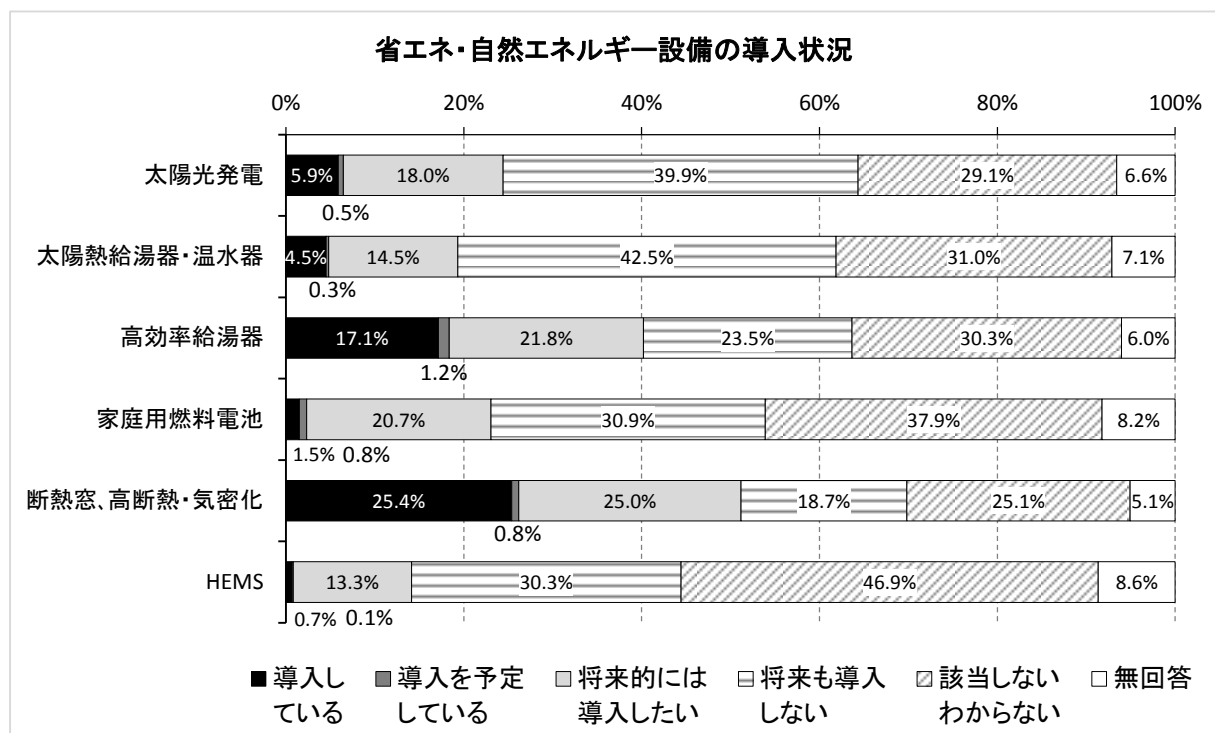
選択肢	回答数	割合
所有していない	86	11.8%
1台	372	51.0%
2台	197	27.0%
3台以上	66	9.1%
無回答	8	1.1%
合計	729	100.0%



問3 省エネや自然エネルギー設備の導入状況

家庭での省エネ設備や自然エネルギー設備の導入状況としては、「導入済み」との回答が多かったのは断熱窓や高断熱・気密化で約4分の1の回答者が導入済みとしています。次いで高効率給湯器は17.1%の方が導入していると回答しています。

また、太陽光発電や太陽熱給湯機・温水器は、それぞれ約5%の家庭で導入しています。各設備や機器とも、約15~20%の方が将来的には導入したいとしています、それぞれ半数以上の方が将来的にも導入しない、該当しない・分からないとしています。



省エネ・自然エネルギー設備の導入状況

(上段：回答者数、下段アミかけ部：回答割合)

項目	導入している	導入を予定している	将来的には導入したい	将来も導入しない	該当しないわからない	無回答	計
太陽光発電	43 5.9%	4 0.5%	131 18.0%	291 39.9%	212 29.1%	48 6.6%	729 100.0%
太陽熱給湯器・温水器	33 4.5%	2 0.3%	106 14.5%	310 42.5%	226 31.0%	52 7.1%	729 100.0%
高効率給湯器	125 17.1%	9 1.2%	159 21.8%	171 23.5%	221 30.3%	44 6.0%	729 100.0%
家庭用燃料電池	11 1.5%	6 0.8%	151 20.7%	225 30.9%	276 37.9%	60 8.2%	729 100.0%
断熱窓、高断熱・気密化	185 25.4%	6 0.8%	182 25.0%	136 18.7%	183 25.1%	37 5.1%	729 100.0%
HEMS	5 0.7%	1 0.1%	97 13.3%	221 30.3%	342 46.9%	63 8.6%	729 100.0%

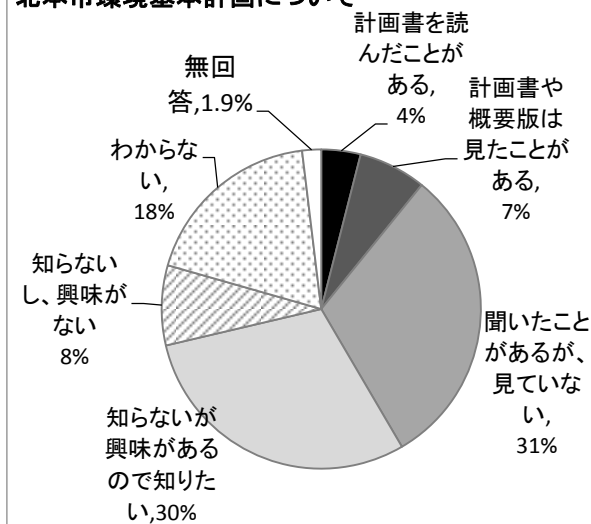
問 4 北本市環境基本計画について

「北本市環境基本計画」について知っているかたずねました。「計画書を読んだことがある」との回答者は4%、「計画書や概要版は見たことがある」が6.9%と、10人のうち1人の割合となっています。

環境基本計画について「聞いたことがあるが、見ていない」が30.7%と最も多く、次いで「知らないが、興味があるので知りたい」が29.8%と、合わせて6割以上の人と考えています。

選択肢	回答数	割合
計画書を読んだことがある	29	4.0%
計画書や概要版は見たことがある	50	6.9%
聞いたことがあるが、見ていない	224	30.7%
知らないが、興味があるので知りたい	217	29.8%
知らないし、興味がない	59	8.1%
わからない	136	18.7%
無回答	14	1.9%
合計	729	100.0%

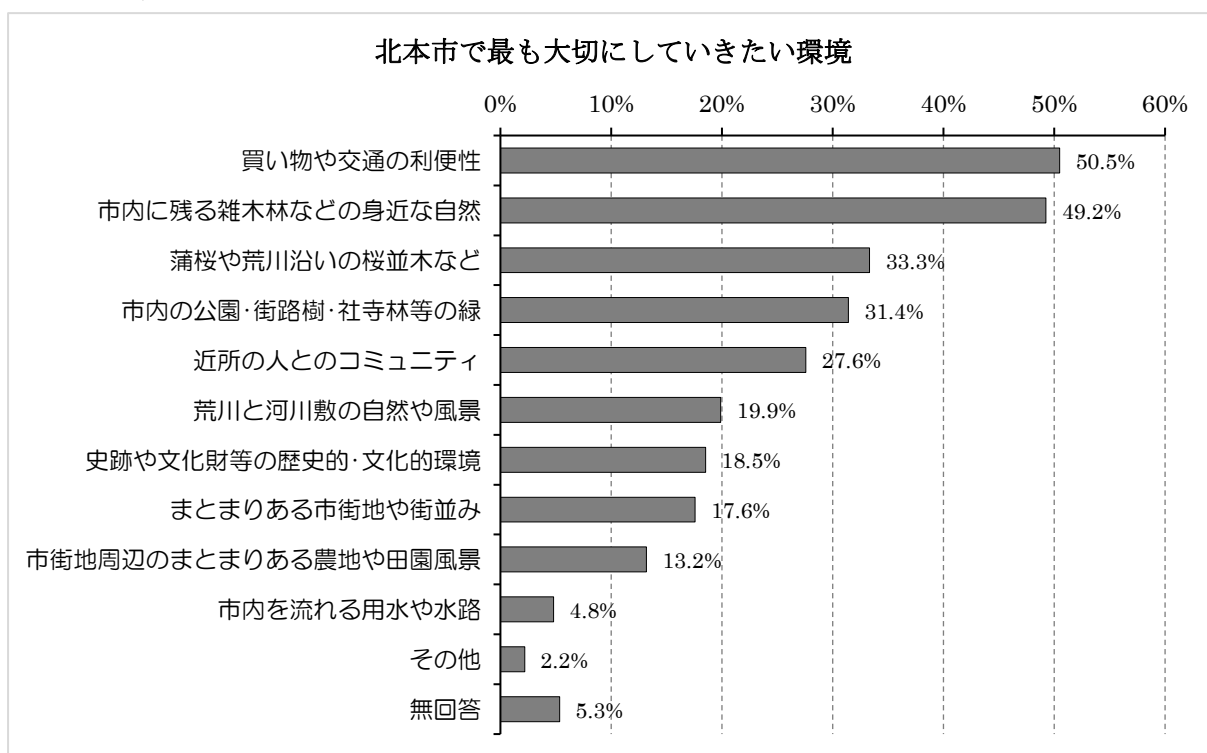
北本市環境基本計画について



問5 最も大切に感じる北本市の環境について

北本市の環境で、最も大事に思うものについて3つまで選択していただきました。回答が最も多かったのは「買い物や交通の利便性」で2番目は「市内に残る雑木林などの身近な自然」となっていますが、それぞれ50%前後とほぼ同じ割合の方が選んでいます。次いで回答が多かった項目としては、3番目が「蒲桜や荒川沿いの桜並木など」、4番目が「市内の公園・街路樹・社寺林等の緑」、5番目が「近所の人とのコミュニティ」となっています。

H19調査では、最も大事に思うものを1つだけ選んでいます。1番目が「市内に残る雑木林などの身近な自然」で、2番目が「買い物や交通の利便性」と、順位は若干異なりますが、上位5項目は同じでした。



選択肢 (3つまで選択)	回答数	割合	H19 調査 (1つ選択)	
			順位	割合
買い物や交通の利便性	368	50.5%	(2)	15.7%
市内に残る雑木林などの身近な自然	359	49.2%	(1)	28.9%
蒲桜や荒川沿いの桜並木など	243	33.3%	(4)	8.6%
市内の公園・街路樹・社寺林等の緑	229	31.4%	(3)	10.0%
近所の人とのコミュニティ	201	27.6%	(5)	7.8%
荒川と河川敷の自然や風景	145	19.9%	(8)	4.4%
史跡や文化財等の歴史的・文化的環境	135	18.5%	(9)	2.7%
まとまりある市街地や街並み	128	17.6%	(6)	7.6%
市街地周辺のまとまりある農地や田園風景	96	13.2%	(7)	4.7%
市内を流れる用水や水路	35	4.8%	(10)	1.6%
その他	16	2.2%		2.1%
無回答	39	5.3%		6.1%
回答者数		729		

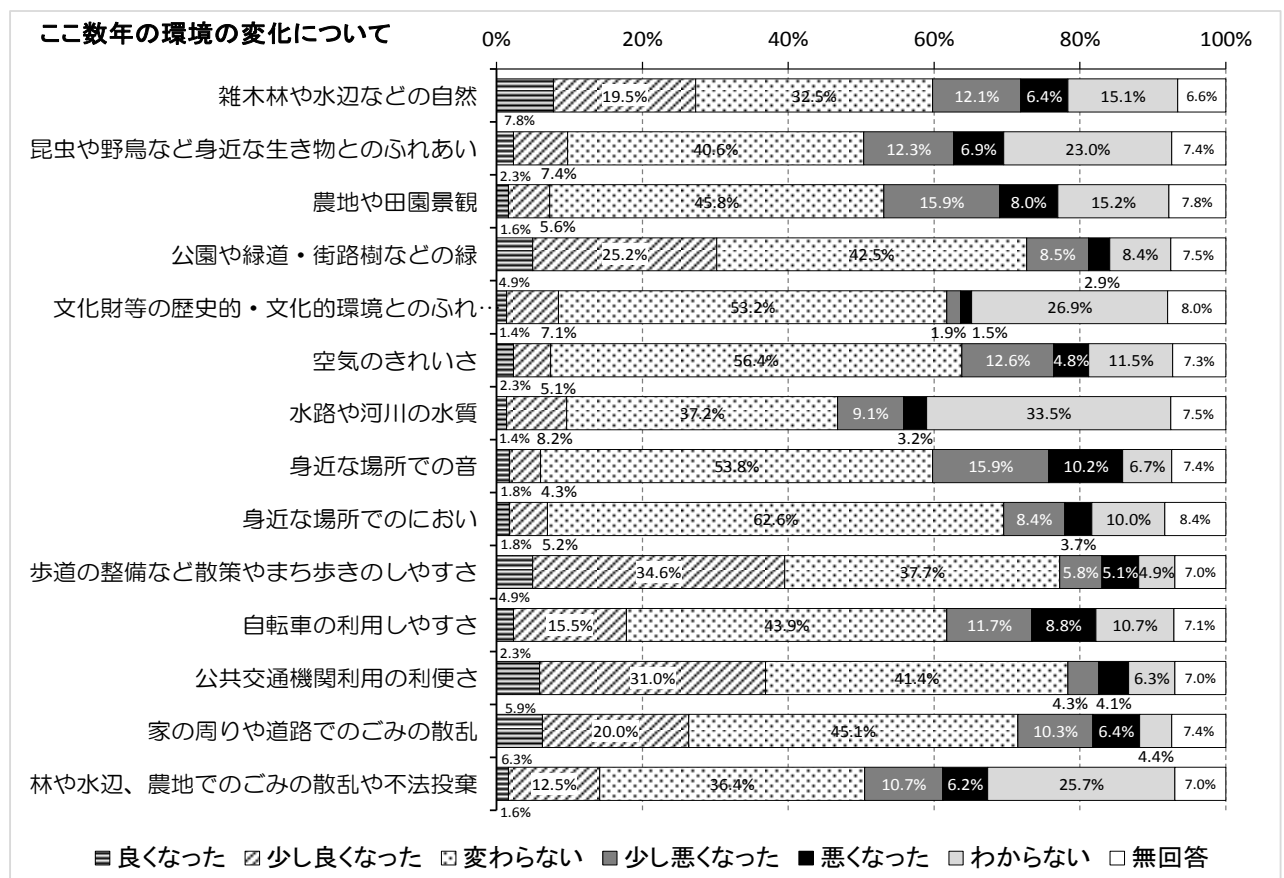
【その他】の自由記載内容の意見としては次のような内容があげられました。

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・新駅建設 ・歩道の完備（道幅も含め） ・総合診療科のある病院、特養老人ホームなどの充実 ・雑木林などもう少し管理できないか ・安全な道づくり ・子どもたちの遊び場の確保 ・消滅都市対策 ・災害などに対する備え、安全面 ・閑静 ・若者が住みやすい環境 ・幹線道路の整備 ・歩道と自転車道の整備（旧中仙道は特にひどい） ・ほどほどに田舎なところ | <ul style="list-style-type: none"> ・防犯 ・自然と同時に、近代的都市化。 ・都市化が無理なら徹底したバリアフリー ・住みやすさ ・災害地の瞬時の対応 ・日程・時間が合えば積極的に参加したい ・新駅の設置 ・上で選んだ「利便性」は医者通い、通院・通所を含む。 ・治安 青少年の暴走族が多い ・北本駅周辺の喫煙所の移動。公道での歩きタバコの禁止 ・北本駅周辺の喫煙所の移動。公道での歩きタバコの禁止 |
|---|--|

問 6 環境や環境保全への取り組みの変化について

(1) 市域の環境の変化

ここ数年（5～6年）で市の環境の変化については、ほとんどの項目で「変わらない」が40～50%と多くなっています。



「良くなった」と「少し良くなった」を合わせた割合が高い項目は、「歩道の整備など散策やまち歩きのにやすさ」39.5%、「公共交通機関利用の利便さ」36.9%、「公園や緑道・街路樹などの緑」30.2%となっています。

反面、「少し悪くなった」と「悪くなった」を合わせた割合が高い項目は、「身近な場所での音」26.1%、「農地や田園景観」23.9%となっています。

なお、「わからない」との回答が多かった項目は、「水路や河川の水質」33.5%、「文化財等の歴史的・文化的環境とのふれあい」26.9%、「林や水辺、農地でのごみの散乱や不法投棄」25.7%、「昆虫や野鳥など身近な生き物とのふれあい」23.0%と、3～4 人のうち 1 人がわからないとしています。

市域の環境の変化について

(上段：回答者数、下段アミかけ部：回答割合)

	良くな った	少し良 くなった	変わら ない	少し悪 くなった	悪くな った	わから ない	無回答
1 雑木林や水辺などの自然	57 7.8%	142 19.5%	237 32.5%	88 12.1%	47 6.4%	110 15.1%	48 6.6%
2 昆虫や野鳥など身近な生き物とのふれあい	17 2.3%	54 7.4%	296 40.6%	90 12.3%	50 6.9%	168 23.0%	54 7.4%
3 農地や田園景観	12 1.6%	41 5.6%	334 45.8%	116 15.9%	58 8.0%	111 15.2%	57 7.8%
4 公園や緑道・街路樹などの緑	36 4.9%	184 25.2%	310 42.5%	62 8.5%	21 2.9%	61 8.4%	55 7.5%
5 文化財等の歴史的・文化的環境とのふれあい	10 1.4%	52 7.1%	388 53.2%	14 1.9%	11 1.5%	196 26.9%	58 8.0%
6 空気のきれいさ	17 2.3%	37 5.1%	411 56.4%	92 12.6%	35 4.8%	84 11.5%	53 7.3%
7 水路や河川の水質	10 1.4%	60 8.2%	271 37.2%	66 9.1%	23 3.2%	244 33.5%	55 7.5%
8 身近な場所での音	13 1.8%	31 4.3%	392 53.8%	116 15.9%	74 10.2%	49 6.7%	54 7.4%
9 身近な場所でのにおい	13 1.8%	38 5.2%	456 62.6%	61 8.4%	27 3.7%	73 10.0%	61 8.4%
10 歩道の整備など散策やまち歩きのにやすさ	36 4.9%	252 34.6%	275 37.7%	42 5.8%	37 5.1%	36 4.9%	51 7.0%
11 自転車の利用しやすさ	17 2.3%	113 15.5%	320 43.9%	85 11.7%	64 8.8%	78 10.7%	52 7.1%
12 公共交通機関利用の利便さ	43 5.9%	226 31.0%	302 41.4%	31 4.3%	30 4.1%	46 6.3%	51 7.0%
13 家の周りや道路でのごみの散乱	46 6.3%	146 20.0%	329 45.1%	75 10.3%	47 6.4%	32 4.4%	54 7.4%
14 林や水辺、農地でのごみの散乱や不法投棄	12 1.6%	91 12.5%	265 36.4%	78 10.7%	45 6.2%	187 25.7%	51 7.0%

H19 調査でも同じ設問を行っています。今回の調査と同じ項目では、H19 調査で「良くなった」と「少し良くなった」を合わせた割合が高かった項目は、「公園や緑道・街路樹などの緑」「公共交通機関利用の利便さ」と今回と同じ項目で良くなっているとなっていました。反面、「少し悪くなった」と「悪くなった」を合わせた割合では、「農地や田園景観」や「身近な場所での音」が今回調査と同様に多くなっていました。

また、H19 では悪化している項目として「林や水辺、農地でのごみの散乱や不法投棄」、「雑木林や水辺などの自然」「昆虫や野鳥など身近な生き物とのふれあい」が上げられていましたが、今回調査ではその割合はやや減少し、良くなった等の割合が若干高くなりましたが、反面、「わからない」との回答割合が大きく増加しています。

【参考】H19 調査と今回調査（H27 調査）との比較

（単位：％）

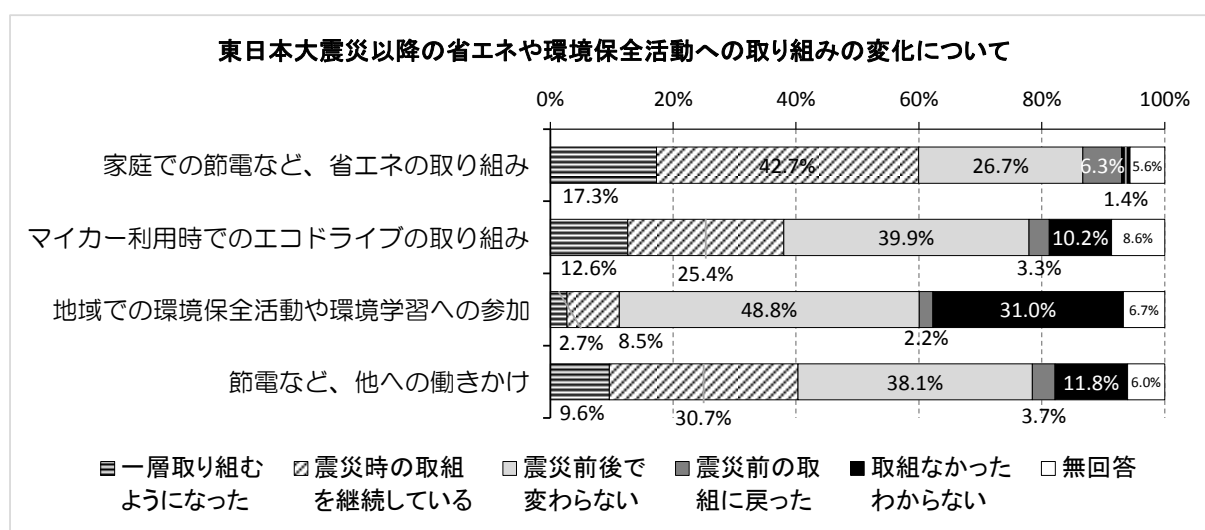
H19 調査結果				項目	H27 調査結果			
少し良くなった	良くなった	変わらない	少し悪くなった		少し良くなった	良くなった	変わらない	少し悪くなった
13.1	33.6	39.1	7.5	雑木林や水辺などの自然	27.3	32.5	18.5	15.1
6.5	37.0	36.4	12.7	昆虫や野鳥など身近な生き物とのふれあい	9.7	40.6	19.2	23.0
5.1	39.5	40.8	7.8	農地や田園景観	7.3	45.8	23.9	15.2
29.3	39.9	20.5	3.7	公園や緑道・街路樹などの緑	30.2	42.5	11.4	8.4
9.7	58.3	5.2	18.1	文化財等の歴史的・文化的環境とのふれあい	8.5	53.2	3.4	26.9
4.5	51.2	31.3	6.3	空気のきれいさ	7.4	56.4	17.4	11.5
5.7	34.1	26.4	25.5	水路や河川の水質	9.6	37.2	12.2	33.5
3.0	47.8	38.9	3.4	身近な場所での音	6.0	53.8	26.1	6.7
4.1	60.9	22.3	5.8	身近な場所でのにおい	7.0	62.6	12.1	10.0
22.2	44.1	24.4	3.0	歩道の整備など散策やまち歩きのにやすさ	39.5	37.7	10.8	4.9
				自転車の利用しやすさ	17.8	43.9	20.4	10.7
24.4	53.7	11.0	3.2	公共交通機関利用の利便さ	36.9	41.4	8.4	6.3
23.1	41.2	28.1	1.4	家の周りや道路でのごみの散乱	26.3	45.1	16.7	4.4
9.6	28.6	39.7	15.4	林や水辺、農地でのごみの散乱や不法投棄	14.1	36.4	16.9	25.7
36.8	35.5	18.3	2.5	街並み				
7.6	33.4	48.1	3.5	身近な道路での自動車の交通流（渋滞等）				
38.9	45.6	8.2	0.7	買い物や公共施設等への便利さ				
39.8	38.5	14.0	2.7	ごみの分別やごみ出し状況				

(2) 東日本大震災後の節電など省エネや環境保全への取り組みの変化

東日本大震災後に取り組んでいた節電などの省エネや環境保全活動への取り組みが、どのように変わったかをたずねています。

「家庭での節電など、省エネの取り組み」については約6割の方が、また、「マイカー利用時でのエコドライブの取り組み」については約4割の方が、「震災時での取り組みを継続している」及び「一層、取り組むようになった」としています。なお、「マイカー利用時でのエコドライブの取り組み」では、約4割の方が「震災前後で変わらない」としています。

「地域での環境保全活動や環境学習への参加」については、震災時前後においても「取り組まなかった」が3割以上、「震災前後で変わらない」が約5割となっていました。



東日本大震災後以降の節電などの省エネや環境保全活動への取り組みの変化

(上段：回答者数、下段アミかけ部：回答割合)

	一層、取り組むようになった	震災時の取り組みを継続している	震災前後で変わらない	震災前の取り組みに戻った	取り組まなかった、わからない	無回答
1 家庭での節電など、省エネの取り組み	126 17.3%	311 42.7%	195 26.7%	46 6.3%	10 1.4%	41 5.6%
2 マイカー利用時でのエコドライブの取り組み	92 12.6%	185 25.4%	291 39.9%	24 3.3%	74 10.2%	63 8.6%
3 地域での環境保全活動や環境学習への参加	20 2.7%	62 8.5%	356 48.8%	16 2.2%	226 31.0%	49 6.7%
4 節電など、他への働きかけ	70 9.6%	224 30.7%	278 38.1%	27 3.7%	86 11.8%	44 6.0%

問 7 日常生活での環境に配慮した取り組みについて

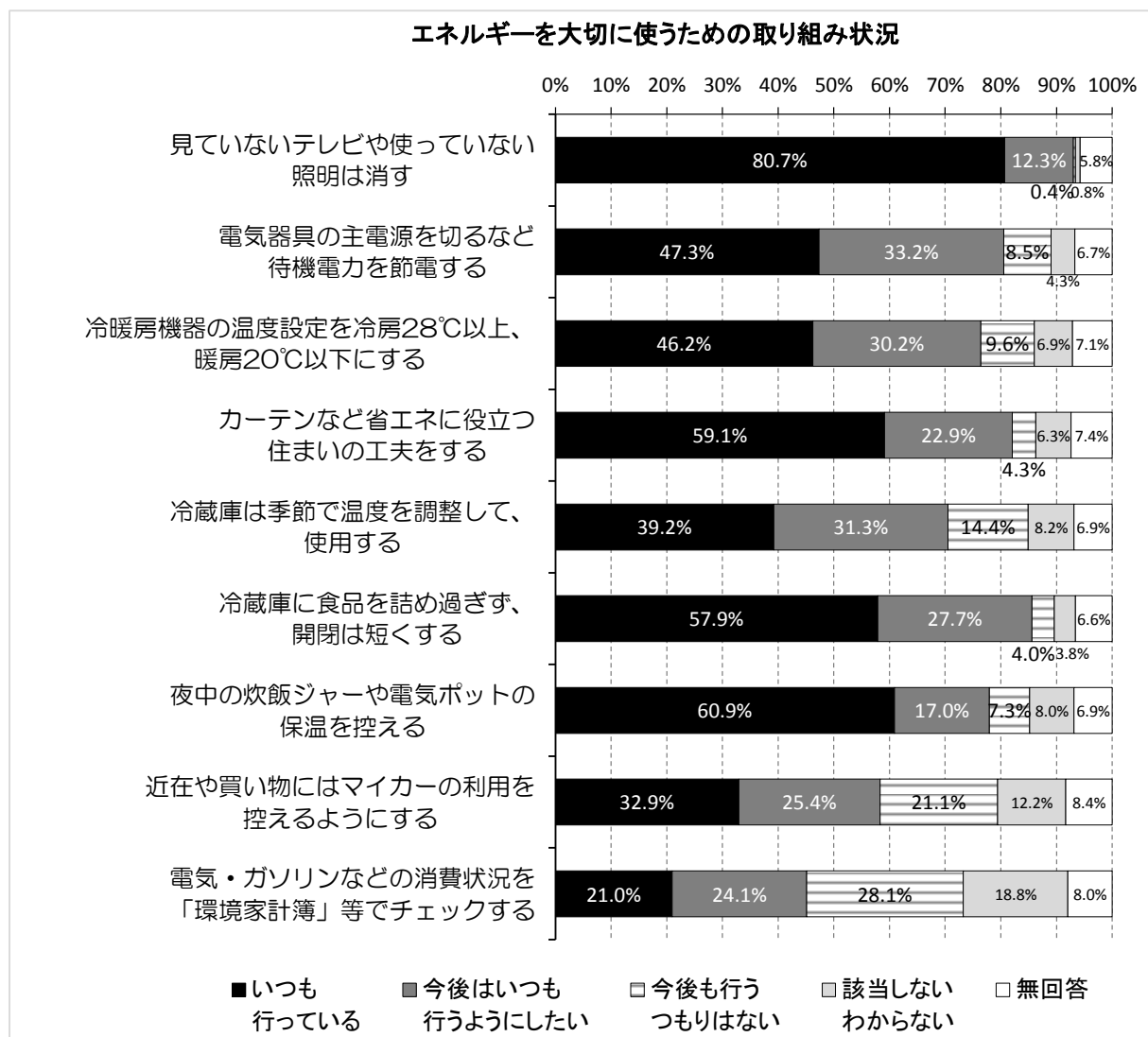
(1) エネルギーを大切に使うために

省エネ行動のうち「いつも行っている」との回答が多かったのは、「見ていないテレビや使っていない照明は消す」が80.7%、次いで「夜中の炊飯ジャーや電気ポットの保温を控える」60.9%、「カーテンなど省エネに役立つ住まいの工夫をしている」59.1%となっています。

節電効果の高い「電気器具の主電源を切るなど待機電力を節電する」や「冷暖房機器の温度設定を冷房28℃以上、暖房20℃以下で、それぞれ1℃高く、1℃低くする」については、約半数の市民が「いつも行っている」としています。

また、これらの取り組みについては、「今後はいつも行うようにしたい」との回答も含めると75%以上の市民が取り組みを進めていくことを意識しています。

「近在や買い物にはマイカーの利用を控えるようにする」は「いつも行っている」は32.9%ですが、「今後も行うつもりはない」も21.1%と最も多くなっています。



エネルギーを大切に使うために

(回答数=729) (上段:回答者数、下段アミかけ部:回答割合)

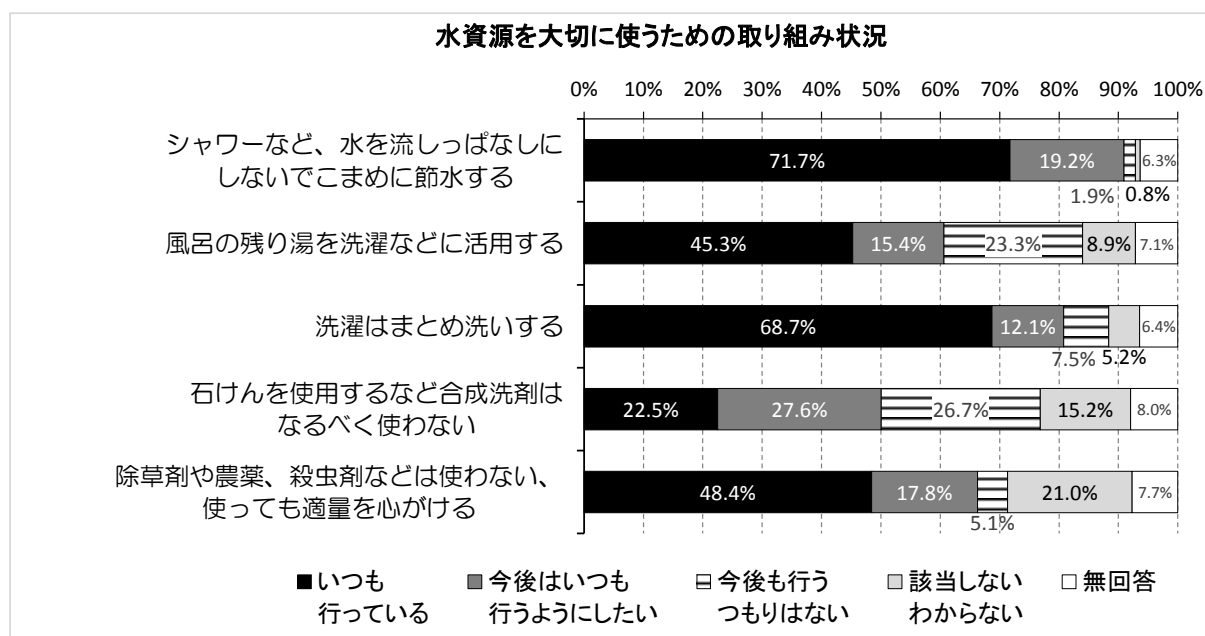
取り組み(行動)	いつも行っている	今後はいつも行うようにしたい	今後も行うつもりはない	該当しない、わからない	無回答
1 見ていないテレビや使っていない照明は消す	588 80.7%	90 12.3%	3 0.4%	6 0.8%	42 5.8%
2 電気器具の主電源を切るなど待機電力を節電する	345 47.3%	242 33.2%	62 8.5%	31 4.3%	49 6.7%
3 冷暖房機器の温度設定を冷房 28℃以上、暖房 20℃以下にする	337 46.2%	220 30.2%	70 9.6%	50 6.9%	52 7.1%
4 カーテンなど省エネに役立つ住まいの工夫をする	431 59.1%	167 22.9%	31 4.3%	46 6.3%	54 7.4%
5 冷蔵庫は季節で温度を調整して、使用する	286 39.2%	228 31.3%	105 14.4%	60 8.2%	50 6.9%
6 冷蔵庫に食品を詰め過ぎず、開閉は短くする	422 57.9%	202 27.7%	29 4.0%	28 3.8%	48 6.6%
7 夜中の炊飯ジャーや電気ポットの保温を控える	444 60.9%	124 17.0%	53 7.3%	58 8.0%	50 6.9%
8 近在や買い物にはマイカーの利用を控えるようにする	240 32.9%	185 25.4%	154 21.1%	89 12.2%	61 8.4%
9 電気・ガソリンなどの消費状況を「環境家計簿」等でチェックする	153 21.0%	176 24.1%	205 28.1%	137 18.8%	58 8.0%

平成 19 年度における調査 (H19 調査) においても、若干回答内容は異なりますが、同じような設問を行っています。同じ項目で「いつも行っている」との回答割合は、今回の調査結果では、H19 調査結果に比べ、それぞれ概ね 10 ポイント程度上昇しています。特に「見ていないテレビや使っていない照明は消す」及び「冷蔵庫に食品を詰め過ぎず、開閉は短くしている」の取り組みは 15 ポイント上昇となっていました。

(2) 水資源を大切に使うために

水資源の有効利用で「いつも行っている」との回答が多かったのは、「シャワーなど、水を流しっぱなしにしないでこまめに節水している」が71.7%、次いで「洗濯はまとめて洗いしている」68.7%と7割近くの方が取り組んでいるとしています。また、「石けんを使用するなど、合成洗剤はなるべく使わない」では「いつも取り組んでいる」が22.5%となっていますが、「今後も行うつもりはない」も26.7%と高くなっています。

H19 調査と比べて、「シャワーなど、水を流しっぱなしにしないでこまめに節水している」は「いつも行っている」では12ポイント、「洗濯はまとめて洗いする」は約5ポイントの上昇となっています。「石けんを使用するなど、合成洗剤はなるべく使わない」は変化なしで、「風呂の残り湯を洗濯などに活用する」は5ポイントの低下となっていました。



水資源を大切に使うために

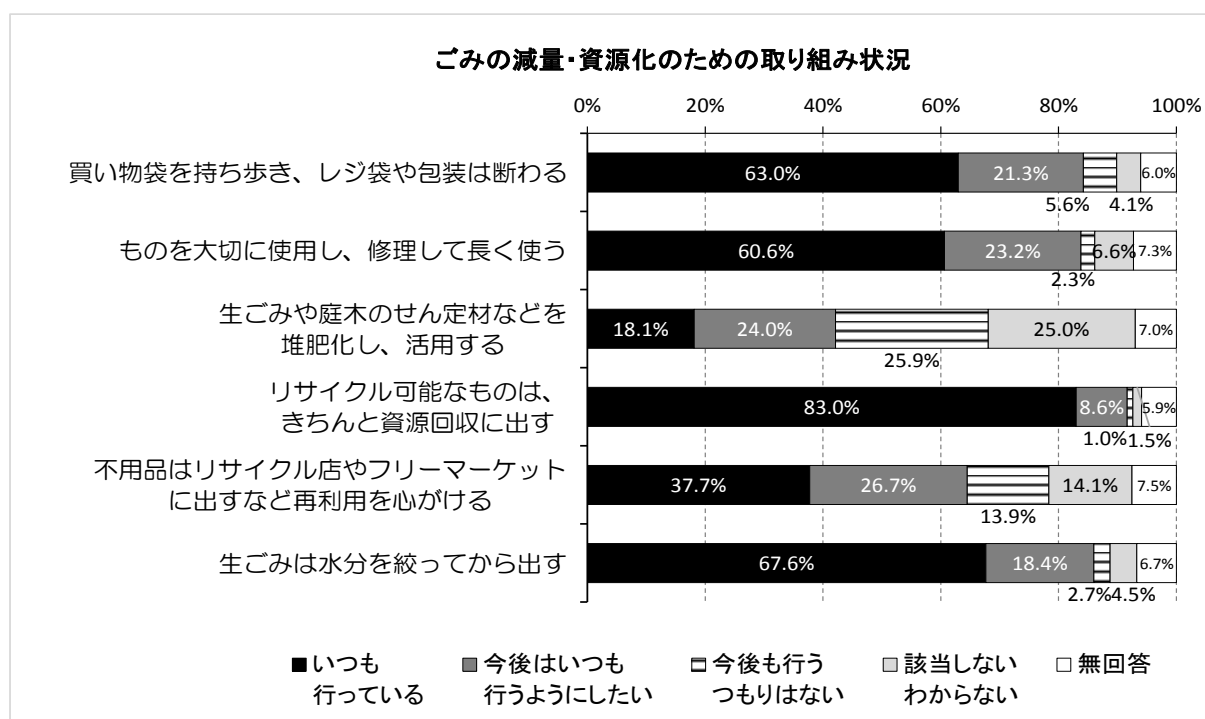
(回答数=729) (上段:回答者数、下段アミかけ部:回答割合)

取り組み(行動)	いつも行っている	今後はいつも行うようにしたい	今後も行うつもりはない	該当しない、わからない	無回答
10 シャワーなど、水を流しっぱなしにしないでこまめに節水する	523 71.7%	140 19.2%	14 1.9%	6 0.8%	46 6.3%
11 風呂の残り湯を洗濯などに活用する	330 45.3%	112 15.4%	170 23.3%	65 8.9%	52 7.1%
12 洗濯はまとめて洗いする	501 68.7%	88 12.1%	55 7.5%	38 5.2%	47 6.4%
13 石けんを使用するなど、合成洗剤はなるべく使わない	164 22.5%	201 27.6%	195 26.7%	111 15.2%	58 8.0%
14 除草剤や農薬、殺虫剤などは使わない、使っても適量を心がける	353 48.4%	130 17.8%	37 5.1%	153 21.0%	56 7.7%

(3) ごみの減量化・資源化のために

ごみの減量・資源化に向けての取り組みでは、「リサイクル可能なものは、きちんと資源回収に出す」で「いつも行っている」は 83.0%とほとんどの市民が取り組んでいるとしています。また、「生ごみは水分を絞ってから出す」や「ものを大切に使用し、修理して長く使う」は 60%以上となっています。反面、「不用品はリサイクル店やフリーマーケットに出すなど再利用を心がける」では 37.7%と他の項目より低くなっています。なお、「生ごみや庭木のせん定材などを堆肥化し、活用する」は、「今後も行うつもりはない」「該当しない、わからない」が 50%以上と住宅状況などの制約もあります。

H19 調査と比べ、各項目とも 15 ポイント以上の上昇と取り組みが進んできています。とくに「買物袋を持ち歩き、レジ袋や包装は断わる」は 39 ポイントの上昇となっています。



ごみの減量化・資源化のために

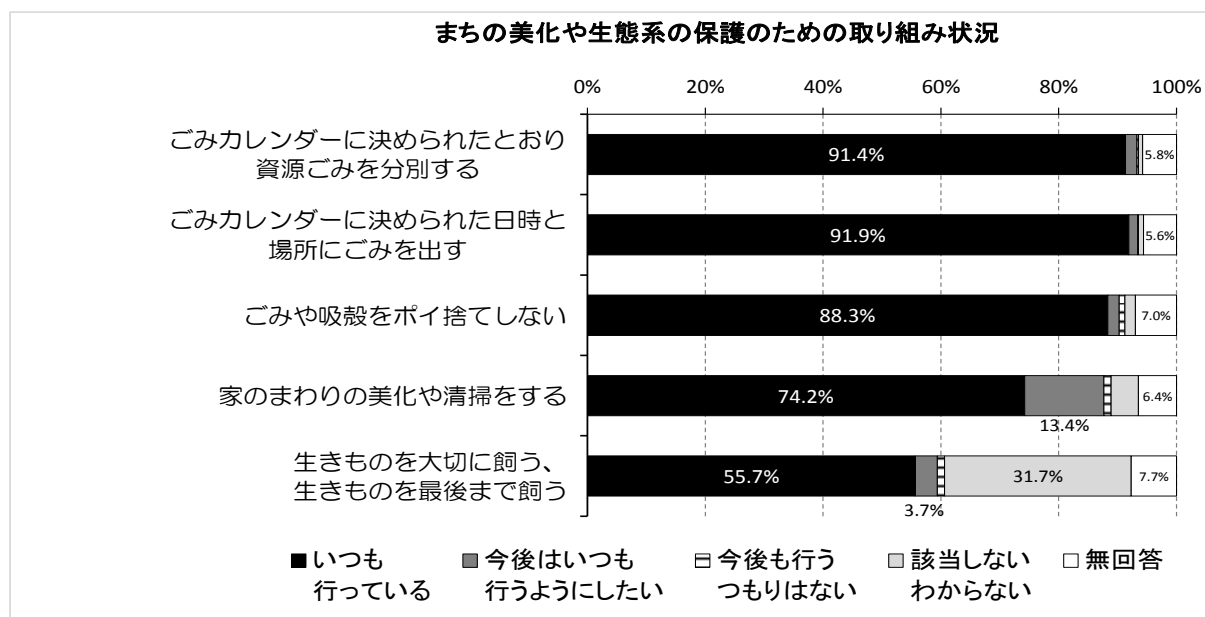
(回答数=729) (上段:回答者数、下段アミかけ部:回答割合)

取り組み(行動)	いつも行っている	今後はいつも行うようにしたい	今後行うつもりはない	該当しない、わからない	無回答
15 買物袋を持ち歩き、レジ袋や包装は断わる	459 63.0%	155 21.3%	41 5.6%	30 4.1%	44 6.0%
16 ものを大切に使用し、修理して長く使う	442 60.6%	169 23.2%	17 2.3%	48 6.6%	53 7.3%
17 生ごみや庭木のせん定材などを堆肥化し、活用する	132 18.1%	175 24.0%	189 25.9%	182 25.0%	51 7.0%
18 リサイクル可能なものは、きちんと資源回収に出す	605 83.0%	63 8.6%	7 1.0%	11 1.5%	43 5.9%
19 不用品はリサイクル店やフリーマーケットに出すなど再利用を心がける	275 37.7%	195 26.7%	101 13.9%	103 14.1%	55 7.5%
20 生ごみは水分を絞ってから出す	493 67.6%	134 18.4%	20 2.7%	33 4.5%	49 6.7%

(4) まちの美化や生態系の保護のために

「生きものを大切に飼う、生きものを最後まで飼う」を除く、ゴミ出しやまちの美化についての取り組みは、すべての項目で「いつも行っている」との回答割合が75%以上と高くなっています。

H19 調査との比較では、ごみカレンダーに決められたとおりに資源ごみを分別したり、日時と場所にごみを出しているは、「いつも行っている」が90%以上と大きな変化はありませんでしたが、「家のまわりの美化や清掃をする」は21ポイント、「ごみや吸殻をポイ捨てしない」は10ポイントの上昇と、取り組みが進んでいます。



まちの美化や生態系保護のために

(回答数=729) (上段:回答者数、下段アミかけ部:回答割合)

取り組み(行動)	いつも行っている	今後はいつも行うようにしたい	今後も行うつもりはない	該当しない、わからない	無回答
21 ごみカレンダーに決められたとおり資源ごみを分別する	666 91.4%	14 1.9%	2 0.3%	5 0.7%	42 5.8%
22 ごみカレンダーに決められた日時と場所にごみを出す	670 91.9%	11 1.5%	1 0.1%	6 0.8%	41 5.6%
23 ごみや吸殻をポイ捨てしない	644 88.3%	14 1.9%	7 1.0%	13 1.8%	51 7.0%
24 家のまわりの美化や清掃をする	541 74.2%	98 13.4%	9 1.2%	34 4.7%	47 6.4%
25 生きものを大切に飼う、生きものを最後まで飼う	406 55.7%	27 3.7%	9 1.2%	231 31.7%	56 7.7%

参考：H19 調査結果と今回調査（H27 調査）結果との比較

（単位：％）

H19調査			エネルギーを大切に使うために	H27調査	
いつも 行っ てい る	とき ど き 行っ てい る	行っ てい ない が、 今後 した い	取り組み内容	いつも 行っ てい る	今後は いっ つも 行っ よう に した い
65.3	23.4	7.1	見ていないテレビや使っていない照明は消す	80.7	12.3
38.6	32.4	19.5	電気器具の主電源を切るなど待機電力を節電する	47.3	33.2
37.4	32.9	18.5	冷暖房機器の温度設定を冷房 28℃以上、暖房 20℃以下で、それぞれ 1℃高く、1℃低くする	46.2	30.2
50.9	22.8	16.8	カーテンなど省エネに役立つ住まいの工夫をしている	59.1	22.9
30.2	21.2	31.7	冷蔵庫は季節で温度調整して使用している	39.2	31.3
42.7	32.0	15.8	冷蔵庫に食品を詰め過ぎず、開閉は短くしている	57.9	27.7
53.6	17.1	14.8	夜中の炊飯ジャーや電気ポットの保温を控える	60.9	17.0
45.3	35.8	11.3	冷暖房機器はできるだけ使わないようにし、電気・ガス・灯油等をこまめに節約している	—	—
—	—	—	近在や買い物にはマイカーの利用を控えるようにする	32.9	25.4
—	—	—	電気・ガソリンなどの消費状況を「環境家計簿」等でチェックする	21.0	24.1

水資源を大切に使うために

59.7	28.3	7.3	シャワーなど、水を流しっぱなしにしないでこまめに節水している	71.7	19.2
50.9	14.2	18.1	風呂の残り湯を洗濯などに活用している	45.3	15.4
64.0	20.5	5.1	洗濯はまとめて洗っている	68.7	12.1
23.3	19.6	30.0	合成洗剤の使用は控えるにしている	22.5	27.6
73.9	11.3	4.7	流しから油等を流さないようにしている	—	—
48.9	28.2	11.3	風呂は家族が続けて入るようにしている	—	—
—	—	—	除草剤や農薬、殺虫剤などは使わない、使っても適量を心がける	48.4	17.8

ごみの減量化・資源化のために

23.8	35.3	29.6	買物袋を持ち歩き、レジ袋や包装は断わる	63.0	21.3
40.9	41.7	10.9	ものを大切に使用し、修理して長く使用する	60.6	23.2
12.3	16.8	40.5	生ごみや庭木せん定材などを堆肥化し活用する	18.1	24.0
68.3	21.6	4.7	リサイクル可能なものは資源回収に出している	83.0	8.6
20.0	32.0	29.5	不用品はリサイクル店やフリーマーケットに出すなど再利用に心がけている	37.7	26.7
—	—	—	生ごみは水分を絞ってから出す	67.6	18.4

まちの美化や生態系の保護のために

90.8	4.7	0.4	決められたとおり資源ごみを分別している	91.4	1.9
94.1	1.4	0.0	決められた日時と場所にごみを出している	91.9	1.5
78.1	3.8	0.3	ごみや吸殻をポイ捨てしない	88.3	1.9
52.8	31.0	9.6	家のまわりの美化・清掃をしている	74.2	13.4
—	—	—	生きものを大切に飼う、生きものを最後まで飼う	55.7	3.7

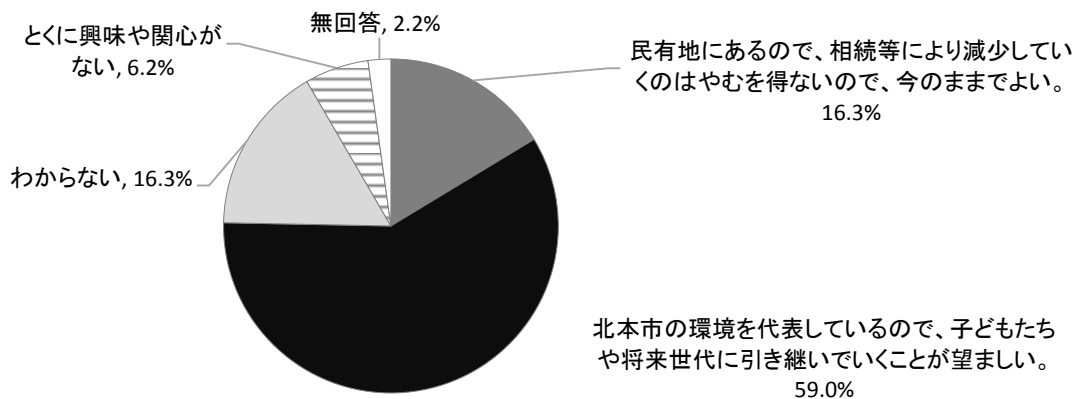
北本市の環境を良くしていく取り組みついて

問 8 北本の雑木林に対する考え

(1) 民有林からなる雑木林に対する考え

北本市の雑木林の大半は、民有地にあります。この雑木林に対するあなたの考えに近いものを、一つだけ選んでいただきました。

約 6 割の市民が「北本市の環境を代表しているので、子どもたちや将来世代に引き継いでいくことが望ましい。」としています。反面、「民有地にあるので、相続等により減少していくのはやむを得ないので、今のままでよい。」と「わからない」がそれぞれ 16%となっています。



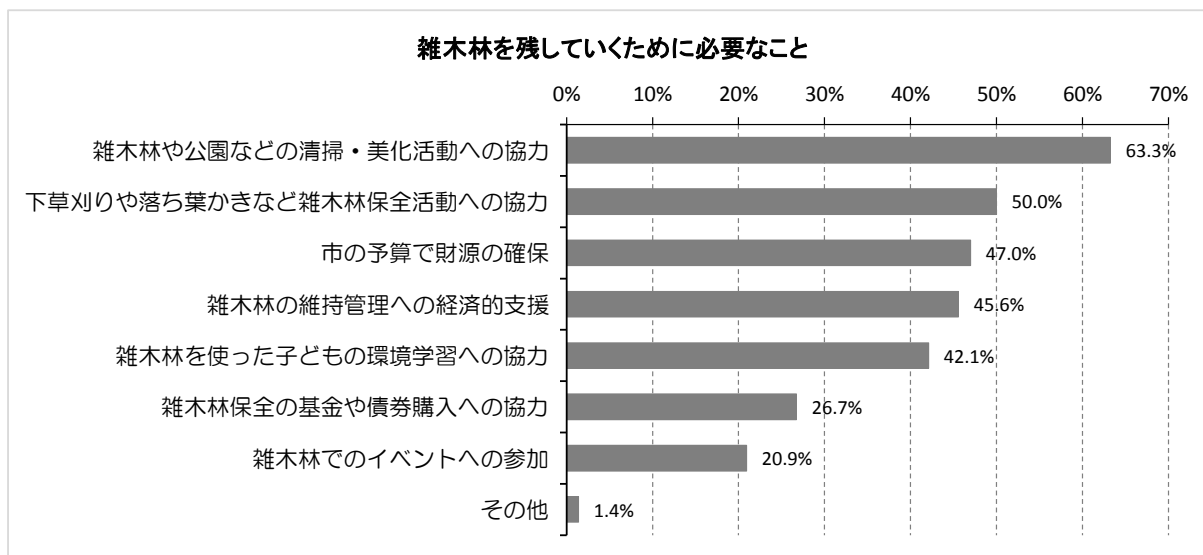
項目	回答数	割合
① 民有地にあるので、相続等により減少していくのはやむを得ないので、今のままでよい。	119	16.3%
② 北本市の環境を代表しているので、子どもたちや将来世代に引き継いでいくことが望ましい。	430	59.0%
③ わからない。	119	16.3%
④ とくに興味や関心がない	45	6.2%
無回答	16	2.2%
合計	729	100.0%

(2) 雑木林を残していくために必要だと思うこと

問8の(1)で「北本市の環境を代表しているので、子どもたちや将来世代に引き継いでいくことが望ましい。」を選んだ方に、雑木林を残していくために、必要だと思うことを選んでいただきました。

雑木林を残していくためには、「雑木林や公園などの清掃・美化活動への協力」が63.3%、「下草刈りや落ち葉かきなど雑木林保全活動への協力」が50%と、回答者の半数以上の方が必要としています。また、「市の予算で財源の確保」や「雑木林の維持管理への経済的支援」なども必要としています。

なお、H19調査では設問形式が異なりましたが、雑木林の保全と活用に向けて協力や参加できることとして、「余暇時間などに雑木林を訪れるなど、雑木林とのふれあう機会を増やす」や「雑木林や公園・緑地などの清掃・美化活動などへの参加や協力」、「みどりと花の基金への寄付など、雑木林の維持管理のための経済的支援や協力」が上げられていました。



雑木林を残していくために必要だと思うこと		(回答者数=430)	
項目	回答数	割合	
雑木林保全の基金や債券購入への協力	115	26.7%	
市の予算で財源の確保	202	47.0%	
雑木林の維持管理への経済的支援	196	45.6%	
下草刈りや落ち葉かきなど雑木林保全活動への協力	215	50.0%	
雑木林や公園などの清掃・美化活動への協力	272	63.3%	
雑木林を使った子どもの環境学習への協力	181	42.1%	
雑木林でのイベントへの参加	90	20.9%	
その他	6	1.4%	

「その他」の意見としては次の内容がありました。

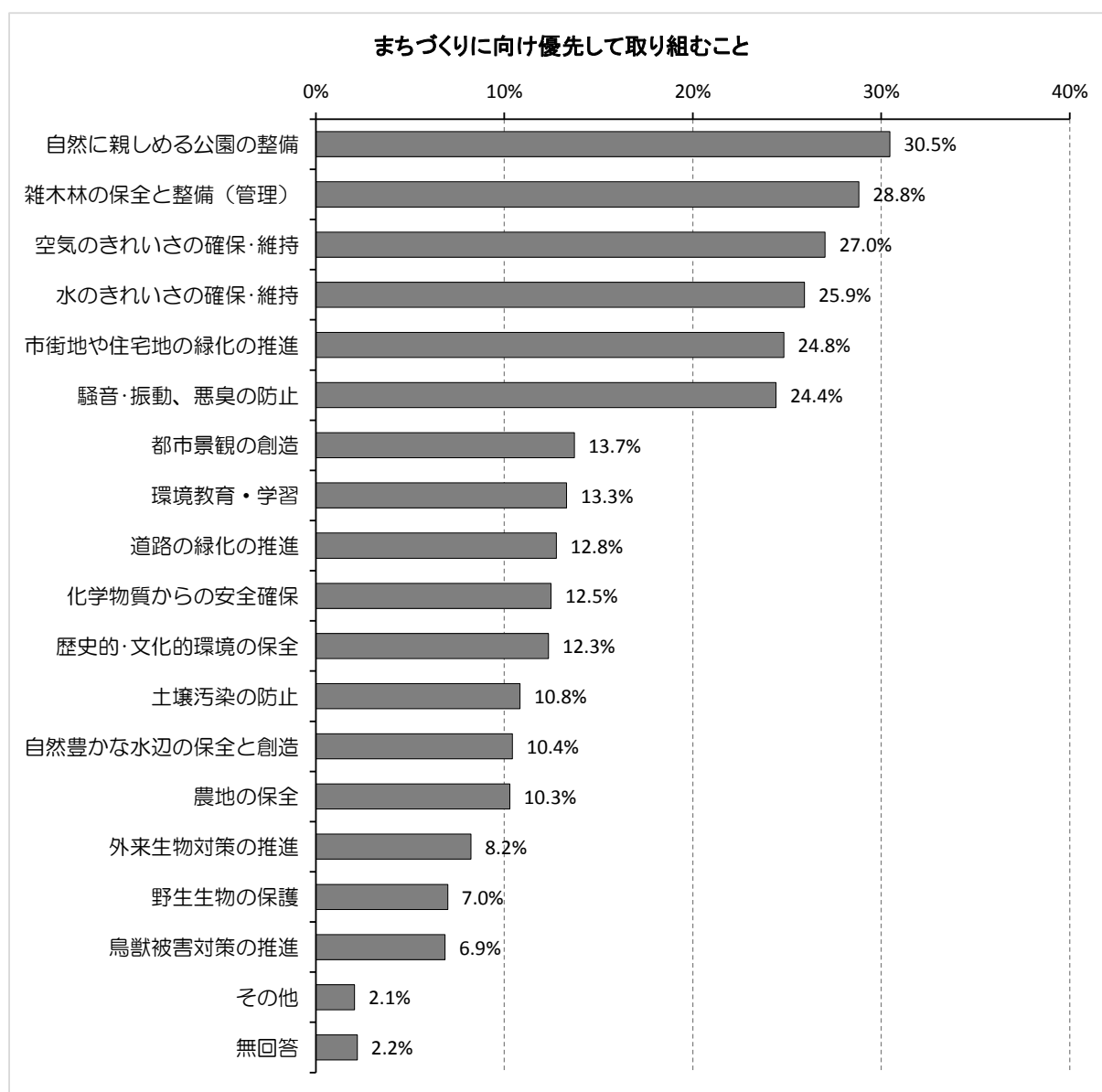
- ・①or②つまり All or Nothing の発想は良くない。
- ・キャンプや焚き火の認可をボーイスカウト等の団体への利用
- ・雑木林はもはや県の財産です。県の協力も必要では。
- ・雑木林所有者への税の軽減。
- ・民有地だと管理が大変だ。市である程度管理したほうがよい。

問9 まちづくりに向け優先すべき取り組み

これからのまちづくりに向けた環境に関する取り組みについて、優先して取り組む必要がある取り組みを選んでいただきました。

まちづくりに向けて優先すべき取り組みとしては「自然に親しめる公園の整備」や「雑木林の保全と整備（管理）」、「市街地や住宅地の緑化の推進」など、自然とのふれあいや雑木林などみどりのあるまちづくりをはじめ、「空気のきれいさの確保・維持」や「水のきれいさの確保・維持」、「騒音・振動、悪臭の防止」など良好な生活環境の維持・確保などが高くなっています。

H19 調査とは設問形式や項目が変わっており、一概に比較はできませんが、H19 調査でも「自然環境の保全と創造」が最も高く、次いで「空気の清浄さの維持」、「公園の整備」、「水の清浄さの維持」、「道路の緑化の推進」となっており、今回調査と同じような取り組み内容が上げられていました。



まちづくりに向けて優先して取り組む必要がある取り組み

項目	回答数	割合
雑木林の保全と整備（管理）	210	28.8%
自然豊かな水辺の保全と創造	76	10.4%
農地の保全	75	10.3%
自然に親しめる公園の整備	222	30.5%
市街地や住宅地の緑化の推進	181	24.8%
道路の緑化の推進	93	12.8%
野生生物の保護	51	7.0%
外来生物対策の推進	60	8.2%
鳥獣被害対策の推進	50	6.9%
歴史的・文化的環境の保全	90	12.3%
都市景観の創造	100	13.7%
土壌汚染の防止	79	10.8%
空気のきれいさの確保・維持	197	27.0%
水のきれいさの確保・維持	189	25.9%
化学物質からの安全確保	91	12.5%
騒音・振動、悪臭の防止	178	24.4%
環境教育・学習	97	13.3%
その他	15	2.1%
無回答	16	2.2%
(回答者数)		729

「その他」の意見としては次の内容がありました。

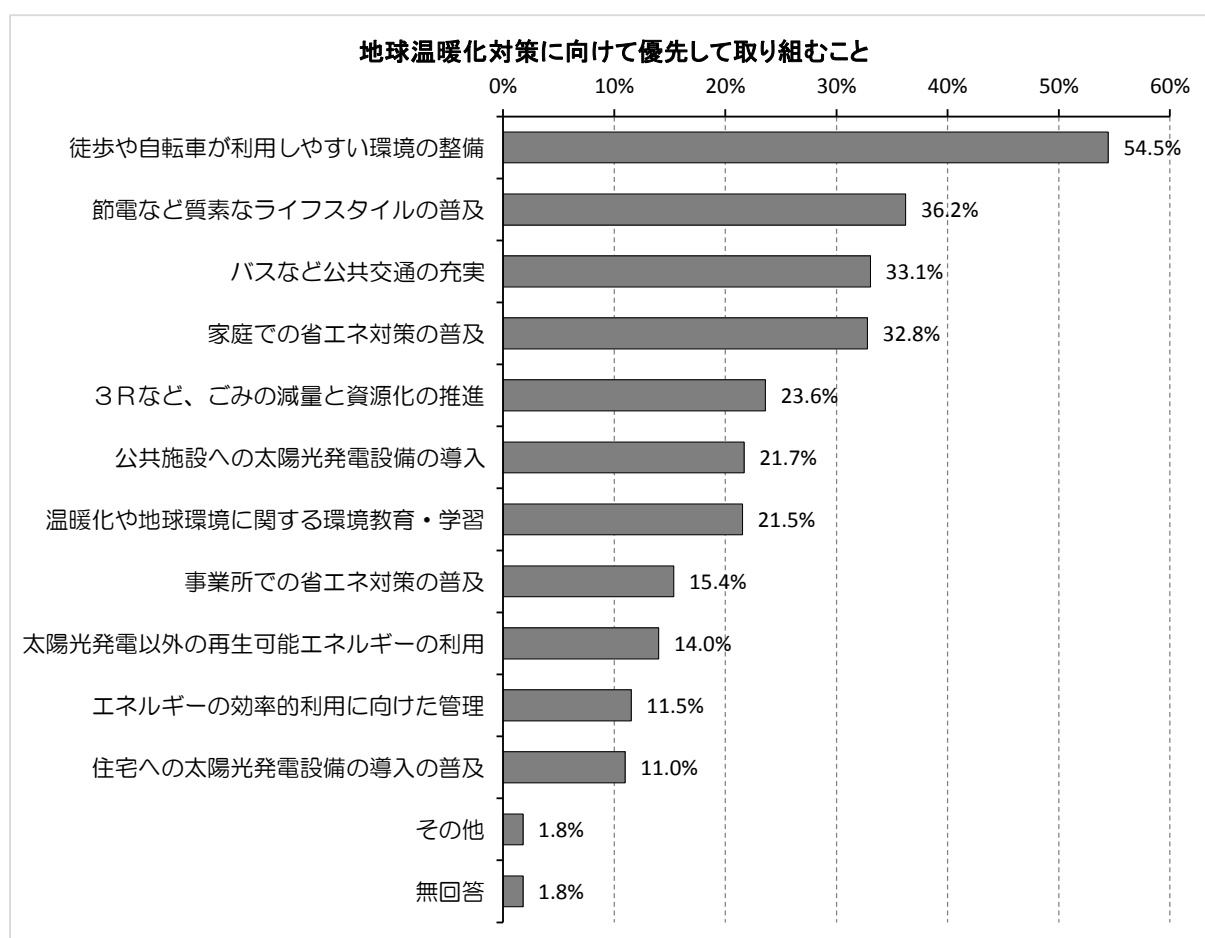
・新駅建設 ・防災対策 ・さくら公園の景観 ・建物の高さ制限をつくる ・中丸地区に公園がほしい ・道路整備 ・道路排水溝の整備、雨天時の水たまり多い ・子どもたちがボールを使って遊べる場所の確保	・ウォーキングの出来る遊歩道（雑木林の整備による） ・青年が楽しめる街づくり ・ごみをあらすカラスの対策 ・道路整備 ・歩道の整備 ・歩道の整備 ・駅前広場に水辺がある
--	--

問 10 地球温暖化防止に向け優先すべき取り組み

H19 調査において「これからの市の環境保全に向けた取り組み」について、「自然環境の保全と創造」に次いで優先順が高い取り組みとして上げられていた「地球温暖化対策への取り組み」について、今回の調査では、地球温暖化対策に向けて優先して取り組んでいく必要があると思う取組についてたずねています。

優先すべき取り組みとしては、「徒歩や自転車が利用しやすい環境の整備」が 54.5%と最も高く、次いで、「節電など質素なライフスタイルの普及」、「バスなど公共交通の充実」、「家庭での省エネ対策の普及」がそれぞれ 30%以上となっています。

また、「3R など、ごみの減量と資源化の推進」や「公共施設への太陽光発電設備の導入」、「温暖化や地球環境に関する環境教育・学習」も 20%以上となっています。



「その他」の意見としては次の内容がありました。

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・市役所公民館等で率先して省エネに取り組む ・家庭での省エネルギー対策への補助金の支給 ・企業の包装バックなどやめる ・駐車場の無料化 ・荒川桜公園下 ・水力発電タービンを回す | <ul style="list-style-type: none"> ・循環型の社会づくり ・南北本駅 ・駅周辺の車（公共、契約以外）の乗り入れ禁止。歩く街並づくり ・電気自動車の公共交通の導入 ・通勤・通学の時だけ走るバスは利用者が少ないので無駄です。 |
|---|--|

地球温暖化対策に向けて優先する必要がある取り組み

(回答数=729)

項目	回答数	割合
節電など質素なライフスタイルの普及	264	36.2%
家庭での省エネ対策の普及	239	32.8%
事業所での省エネ対策の普及	112	15.4%
公共施設への太陽光発電設備の導入	158	21.7%
住宅への太陽光発電設備の導入の普及	80	11.0%
太陽光発電以外の再生可能エネルギーの利用	102	14.0%
エネルギーの効率的利用に向けた管理	84	11.5%
3Rなど、ごみの減量と資源化の推進	172	23.6%
徒歩や自転車が利用しやすい環境の整備	397	54.5%
バスなど公共交通の充実	241	33.1%
温暖化や地球環境に関する環境教育・学習	157	21.5%
その他	13	1.8%
無回答	13	1.8%

【自由記載意見】

① 環境基本計画等への意見

基本計画そのものの進捗状況や具体的事例等広報を通して市民へ知らせる

本計画の早期実現を期待します

市の取り組みが市民によく伝わるような取り組みがほしい

環境保全については個々の家庭が実施することが必要と考えるため家庭で積極的に推進できる施策を進めることができればと思う

環境の保護推進にも個々人のモラルを低下させないことも重要と思う

公園、緑地、地域安全、コミュニティのための場所の確保に市の協力・財政出動等、計画のあるものから実現してほしい（宮内緑地公園）

環境保全の大切さについて既に色々取り組んでおられると思いますがもっと市民にわかりやすくPR（特に用語）していただきたい

地域ごとにニーズは違うと思います、全てにおいてそこに住む人が求めているものをしっかりと見極めて様々な計画を進めて下さい

もっとやる気を出して頑張ってください

市民の意見が反映される環境基本計画をお願いします

緑地の維持・保全及び都市景観の創造に力点を置いてほしいと思います

長期間、将来に向けたビジョン、イメージを決めて市民全員参加で進められると良い

まず自分でできることからやっていきたいと思います

環境計画のアピールがなさすぎる。今まで実際に市として何をやってきたのかまったくわからない。市民総参加運動でやるべき。隣接市より遅れている

市内は当然ながら、近隣の市町とともに推進すべき大きな問題・課題だと思います

子どもや老人にやさしい住みやすい環境をつくってほしい

市長が替わった今年度、推進加速を期待する。ここが変わったとアピールも必要

利便性を求めるときりがありませぬ。多少の不便は我慢してでも失うと取り返しのつかない自然や資源を守るべき

個人個人が普段から気をつけることが大事だが中には反対する人もいるので難しい

昨年末に取得した国際規格「セーフコミュニティ」を止めると新聞で見たがなぜ止めるのか。止めるのであれば今年度400万の予算は途中で他に回すべきだ。何もない北本市ではこれを基本計画に入れ大いに活用すべきではないか

エコに関する助成を充実してほしい

より良い街づくりをお願いします

まず人を育てる環境づくり（教育や若い世代への補助）が最優先であると考えます

市民にもっと環境基本計画のPRが必要だと思います

北本市の将来を担う子どもたちにも環境・エネルギーについて学習の機会を増やしてほしい

いまある自然環境は守っていききたいと思います。ただお金もかかると思うので、うまく財源を確保できればと思います

できるだけ手をかけすぎない自然保護を望みます

計画の実効性が把握できない

環境という言葉がどの範囲までを指しているのか、もう少し呼び方を考えてほしい。都市政策も環境づくりの一つですから

自然を残すのはよいことだが、管理者による手入れが必要。ただ残すだけでは市の外観も良くない

② 北本市のイメージに係る内容

問8について。他県より移り住んだ者には北本＝雑木林のイメージはほとんどありません。雑木林に固執しすぎないほうが良いと思います

北本市は住宅地、市街地、農地そして自然が残されている土地のバランスがよいところなので、そのバランスを将来に向けても維持できるような保全をしていただきたい

とても良い自然が残っている街だと思います。このまままとめて残していくためにはやはり行政の力が不可欠だと思います。

北本駅西口を整備した際、大木を失くしたことはイメージダウン。緑を大切にという内容の看板のある雑木林の隣で伐採されていたこともあった。北本市の緑が急減していることに憤りを感じている人は少なくない

桶川の住民が北本は環境が良いといって移っているようです。しかし道路整備は遅れており、狭い道路に大型車が侵入しており住宅地域は考えてもらいたい

北本の自然に関しての取り組みを誇りに思っていました。便利であることはたしかに大切だけど自然がゆたかであることよりは大切ではない

緑豊かな自然と共生するまち、この姿勢を貫くことが北本の生き残る道だと思う。他市にまねのできないまちづくり。今ある自然を残してさらにつなげることが大事ではないかと思います

自然環境整っていれば人口は増えるのか、若い世代が何を望むのかを考えるべきでは

みどりの多い北本を維持してほしい、だんだん住宅が多くなり雑木林が減っている

桜をもっと植えて桜並木といえれば北本と言われるようにしたい。トマトが中途半端なんで市民全員で育てる

緑を求めて北本市に住み始めて40年、自然との共生を願っています。他市に比べ公園等が少ないと感じます

北本らしさとは何かを考えたとき、自然（雑木林）は重要なキーワードになると考えます。他のマネではなくすべての北本市民が普通の生活をおくるための環境を整える施策を期待します

将来もずっとみどりの多い北本市であってほしい

価値観がバラバラでは北本市の将来像は見出し難い。北本で生活していく上でどんな環境を求めていくか。ゆったりとみどりの多い落ち着いた時間の流れる環境の街

小川に魚が泳ぎ野原にトンボが飛び交うみどりゆたかな街北本を将来に繋ぎたい

③ 緑・雑木林・自然

東間地区では貸農園や畑が次々に宅地となりアスファルトにおおわれ家で埋まっていきます。家の周辺はアスファルトでおおわず花や木を植えてもらいたいので引っ越してきた方に植木のプレゼント等があると良いかと思う。

市の財政負担をしないで一般家庭の緑化、公園雑木林等のボランティア清掃。上尾バイパス周辺の農地の工業団地化、都市計画、縮小

都市計画・地目変更等により緑地の減少、人口増につながっていない、相続税法の改悪を止めるようお願いしたい

緑が少なくなったので保全してほしい

街中がコンクリート化しない都市にして下さい

雑木林の管理は景観の改善や動植物の保護にもつながると思います。ポイ捨てがめだっているのになか施策があると思います

雑木林については地区指定等市の行政力を使い、残す所は保全願いたい

JR線両側のみどりのトンネルは是非このまま維持していきたい。北本市の顔でありパンフレット等でこの写真を見ると良さがわかる

問8と9に代表される設問の仕方が良くないと思う。市の狙いだけで片寄らない中立第三者的な立場の方がアンケートを作成されていますか

雑木林にあるベンチでのんびりする時間が大好きです。いつまでも残してほしい

市保有の雑木林がどこにあるのか知りたいので立て札を明示してほしい。民有林は将来徐々に失われていくのではないか

問6の1～3については少なくなったと思うが悪くなったとは思わない

この設問は、雑木林保護の方向に巧みに誘導されている気がする。

野良猫・犬などみかけなくなりましたが反面アライグマ、ハクビシン等が出没し、被害が発生しているようです。対策をしていただきたい

雑木林が整備されてきもちいいです。遊具のある公園が少ないので、雑木林の遊歩道に設置するのはいかがですか。大人も子供も喜ぶ雑木林へ

樹木を植え、夏に木陰になる場所を多くつくる、今ある樹木を切らない。花や草では環境に影響を与えない

公道を覆い隠すような大木類の放置→持ち主への改善要請

歩道の幅を広げる取り組みに一部の地区が放置されている（県道だが）

④ 生活環境に係る内容

北本は都心から 50km 圏内で緑豊かで農産物もおいしく空気のきれいな街だと思います。これからも維持していただきたい

遊休農地をトラクターで表面をひっかいて土ぼこりを立てている。所有者には環境対策を推進させ、税制を考えるべき

町内を流れる水路の水の悪さ、虫がわく、市のフェンスがいたんでいるのでなんとかしてほしい

北里研究所は大変な細菌を扱っていると聞いておりますが、日に何回も流れている排水口の水は安心なのか心配です

環境を良くするには排ガスをおさえること。新駅を早く設置し公共交通を整備、乗用車を少なくするよう取り組む

市街地以外の汚水下水道の整備を推進する

ドブが古くずれているので直してほしい

私の家前は私有地のため舗装されず、本下水にもされていません。生活するのにとても不便です、何とかしてもらいたい

西小学校の南北に流れている大きな下水をふさいで下さい

⑤ 交通・公園・まちづくりに係る内容

北本駅周辺の再開発ができない。新駅ができる予定として 20 年前から住宅地が増えた。しかし駅に隣接した施設がほしい（便利に利用できる）。人の流れが集中する（他の市から移動）ものがほしい

市街化区域の方は環境が良くなっていくが調整区域の方はいろいろな面で良くなっていかず取り残されることが多く見られる、どちらも均等によくなってほしい

南北本駅設置案がなくなったことにより南部地区の高齢化による外出時の足の確保が必要です。桶川市の巡回バスのように利用しやすい交通機関をお願いしたい

南北本駅設置必要（市の活性化）駅ができない場合は地上部をすべて緑地公園に

南部の公共交通機関を考えて下さい。非常に不便です

まちづくり（特に駅周辺）に真剣に取り組んでほしい

中山道、駅周辺のみきれいになりましたが、歩道の整備がまだまだです。二ツ家周辺への徒歩・自転車での買い物が不便です。

駅のクリスマスツリーが寂しすぎる、もうやめたらどうか

駅まわりの公共トイレの状況はひどい。

自転車で歩道を走っていたら通行人から「6月1日から車道を走れ」といわれた。南大通りは大型車が多くとても危険。自転車専用道路をつくってほしい

タクシー、バス路線等が充実しているので、デマントバスは本当に無駄です。経済効果なしです。廃止してほしい

世帯数が多く高齢者も多くなっているのに、市循環バスが通らない現状、車を利用するしかないのでしょうか。

徒歩、自転車の利用環境整備

自転車専用道路の整備が必要不可欠

自転車利用の推進のためにも自転車道の整備をしてほしい

街路樹が強剪定のより樹形がくずれて見苦しいものが増えたので改善してほしい

中丸1丁目の歩道橋、古くて穴があいていたりしています。また車でとバーミヤンから岡野歯科まで信号がなくいつまで待っても出れません。老人が使えない。ベビーカーが通れない

細い道ですごいスピードでとばしてくる車が多いので、徒歩、自転車が危ない。ドキッとする人が多いのでなんとかしてほしい。あずま通りは子供も多いので、気をつけてほしい。

環境の整備と都市化を総合的におこない、これからの高齢化に対応した都市づくりをしていくことが大切、まずは交通の整備をし公共交通機関が充実し老人がマイカー利用しなくてもよいようにしてほしい。農地を転換して住宅地に転換してほしい

車道、歩道の整備推進

歩道の対策（特に駅前）タイルが浮いている

南小通りで台原～南団地の凹凸を至急なおして下さい

駅前通りの照明がもう少し明るいほうが良いと思います

買い物道路整備の充実

自転車の法律が決まった以上、歩行者専用、自転車専用の各道路をつくらないと事故がおきるおそれがある。

道路が狭いののに車が多く危ないところがあります（北本宿）

自分が高齢なので何事も歩きか自転車を利用しています。歩道のほうが広いのはおかしいと思う
雨が降ると雨水がたまっている道路があります。子どもたちの通学路です。20年前から変わっていません

道路の整備（特に歩道）段差をなくし緑化の推進（日陰を確保する）

生活道路と中山道の歩道が狭くて危険

旧中仙道の整備、歩行者、自転車を利用するもののストレスを軽減してほしい、この20年全く変わらない

道路の整備（自転車の通るところが狭い）公園や芝生のあるところをふやしてほしい

道路整備等により桜の木が切られているのが不満。植え替え等によって桜を増やしてほしい

バス利用ができるようになってよかったです

北本駅の南から北へバスで乗り換えなしでいけるようにしてほしい

道路がつぎはぎだらけで困る。平らにしてほしい。

家への振動も大きく亀裂が入ってしまったし、歩きにくい

子供のためにも小さい公園でなくこれから先高齢者が増えるのでくつろげる公園がほしい。みどりがあり花が咲き美しい公園を望みます

子どもたちが優先使用できる運動施設（芝生）の新設、木陰のある散歩道の新設、木陰のあるパークゴルフ場の新設

子どもたちが自由に遊べる公園が少ない。道路が狭くて子供を自転車に乗せるのがあぶないので道をひろげてほしい

市街地には子どもたちが遊べる公園が少なく思う。若い家族の人口増加のためにも公園の増加が必要ではないか

ボールを使って遊べる場所が少ない。二丁目公園でボール遊びをしていたら近隣住民に苦情を言われた

スケートボードなどのスポーツを安心して遊べる場所をつくっていただきたい

街路樹があっても良いと思うが植える場所が悪く道路の見通しが良くないので木を植える場合をもっと考えてもらいたいと思います

雨が多い時期に水辺公園へ行くと水路と遊歩道が水であふれて歩けない

中山道沿いの歩道幅を広くし溝をなくし平らにしてほしい、カーブミラーがずれているのか必要な方向に向いていなかったり、民家の木が伸び、見通しが悪いところがある。

圏央道でつぶれた利便性を元に戻してほしい。お店がなくなり道路も混雑するようになってしまった。老人ホームばかりが増え若い人が集まりにくくなっている

空き家対策を積極的に進めてほしい。貸すか売るかしないと負担が重くなるように税金を高くしてほしい。子育て世帯が増える対策も重要

空き家が目立ちます。今後の高齢化、人口減少に伴い防犯等の不安を感じています

市内に散見される空き家対策

⑥ 廃棄物・循環型社会に係る内容

ごみの減量化の促進（特に量販店、コンビニ、スーパー等）

ごみ回収場所にカラスがいつもきていて荒らしている。地域によってはきちんとした囲いやボックスがおいてあるが、市では一括して共通のものを配布するなどしていただけたら見た目にもスッキリして美しくなるのではないかな

最近カラスが多くごみをあらしています美化のため対応をお願いします

プラスチックごみ（ビニール、トレーなど黄色の袋）が家庭で一番量が多くて困っている。現在2週間に1回ではなく週1回、回収してほしい

高齢化が進んでいるせいかゴミ出しが雑だ。若い人もきちんと出していない。カラス被害がひどい
民有地の整備を市で推進して下さい（ごみが捨てられています）。道路にまで立木がかかって通行にさしつかえることがあります

道路脇の不要な植木が多すぎて手入れもできずゴミ捨て場となっていたり、見通しが悪くなり小さな人はかげになりあぶないです

⑦ エネルギー、地球温暖化に係る内容

我が家の給湯器が急にこわれてエコキュートに交換した際、補助が急に交換した場合は対象外というのはおかしい。急の交換も対象にすべき

スマートシティ計画を立ててほしい

スマートシティやエネルギーグリッドなどエネルギー問題を地方（市）で実施し、成功させなければならない。

市全世帯の屋根に太陽光発電設備を設け北本市で使用する

問3については市の助成があれば検討したい

公共交通機関が充実して自動車を運転できなくても大型店に買い物に行ってこれるような環境になってほしい、バスがたくさんあればいい

電力の地産地消（小電力の開発、水力と火力発電）とくに火力発電（案）サツマイモを燃料として発電、荒川の河川敷を利用した太陽光発電これは鴻巣市と共同で運用する

地区発電推進事業

年式のかなり古い市有車は更新すべき

市役所の照明をできるかぎり節電してほしい

新築住宅の低炭素建築物義務化

⑧ その他

少子高齢化に伴い、地域に認知症カフェを設置していただきたい

今後は高齢者が多くなるので住みやすい環境づくりをお願いします

少子化対策、産婦人科がなく若者の流入がない

市政とともに新市長には大いに期待しております

本宿8丁目には市のスピーカーがなく市からの放送が聞きにくい

Ⅱ 親子アンケート結果

調査方法と回収結果

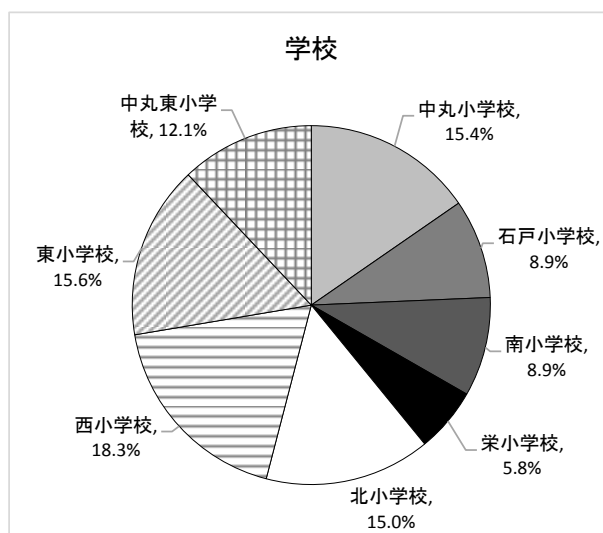
調査対象は、市内の小学校に通う小学 5 年生全員を対象として、地域の環境状況や放課後・休日における外での遊びの状況など、また親子で一緒に考え、相談しながら環境への取り組み状況などについてのアンケートを行いました。

調査対象者	市内小学校に通う小学 5 年生全員と親							
調査方法	学校での配布及び回収							
調査期間	平成 2 7 年 6 月 1 6 日（発送）～平成 2 7 年 6 月 3 0 日							
協力学校名	中丸小学校	石戸小学校	南小学校	栄小学校	北小学校	西小学校	東小学校	中丸東小学校
対象者数	544 名 平成 27 年 7 月 1 日児童数							
回収数	481 名 協力児童 481 名と親							
回収率	88.4%							

問 1 あなたのこと

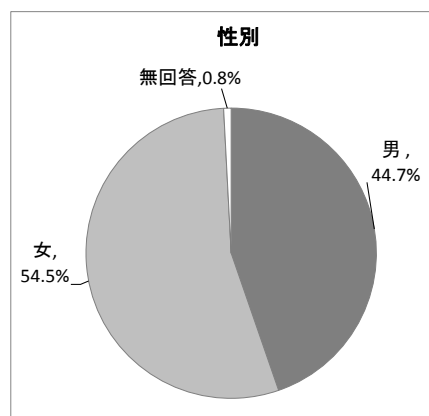
(1) 学校名

学校名	割合
中丸小学校	15.4%
石戸小学校	8.9%
南小学校	8.9%
栄小学校	5.8%
北小学校	15.0%
西小学校	18.3%
東小学校	15.6%
中丸東小学校	12.1%
計	100.0%



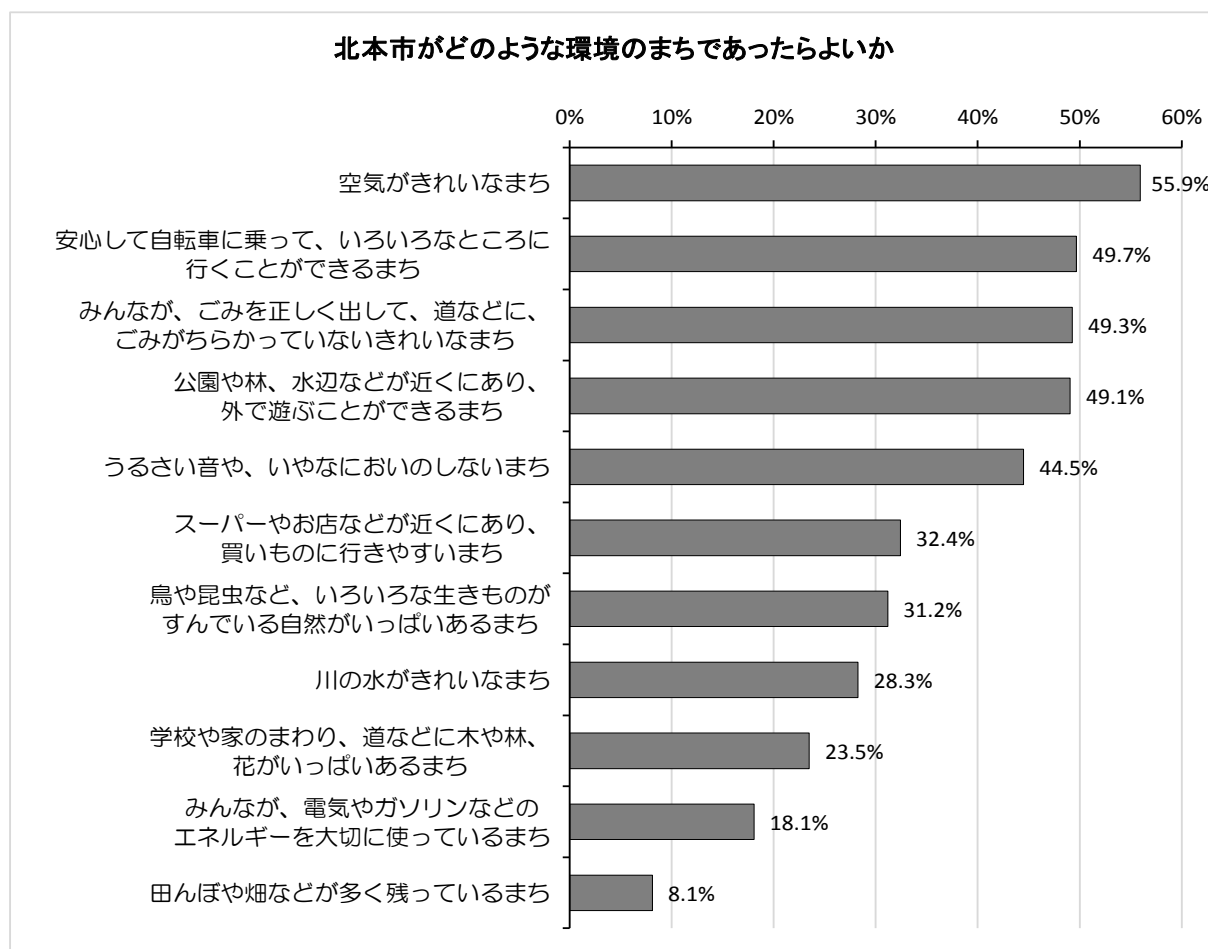
(2) 性別

選択肢	割合
男	44.7%
女	54.5%
無回答	0.8%
合計	100.0%



問2 北本市がどのようなまちであつたらよいか

どのようなまちであつたら良いかとして、「空気がきれいなまち」が55.9%と最も多く、次いで、「安心して自転車に乗って、いろいろなところに行くことができるまち」や「みんなが、ごみを正しく出して、道などに、ごみがちらかっていないきれいなまち」、「公園や林、水辺などが近くにあり、外で遊ぶことができるまち」が約50%となっています。



北本市がどのようなまちであつたらよいか

選択肢	回答数	割合
空気がきれいなまち	269	55.9%
川の水がきれいなまち	136	28.3%
うるさい音や、いやなおいのしないまち	214	44.5%
みんなが、ごみを正しく出して、道などに、ごみがちらかっていないきれいなまち	237	49.3%
みんなが、電気やガソリンなどのエネルギーを大切に使っているまち	87	18.1%
鳥や昆虫など、いろいろな生きものがすんでいる自然がいっぱいあるまち	150	31.2%
学校や家のまわり、道などに木や林、花がいっぱいあるまち	113	23.5%
田んぼや畑などが多く残っているまち	39	8.1%
公園や林、水辺などが近くにあり、外で遊ぶことができるまち	236	49.1%
安心して自転車に乗って、いろいろなところに行くことができるまち	239	49.7%
スーパーやお店などが近くにあり、買いものに行きやすいまち	156	32.4%
無効値	2	0.4%
無回答	1	0.2%
回答者数	481	

その他の内容（その他にどんなまちであつたら良いか自由に書いていただきました。）

他市に誇れることの多いまち

エコなまち

住みやすい北本市

子供がたくさんいて、活気のある市。子どもがたくさん住んでもらえるよう、他にはないアピールをしてほしい。東小と東中の図書館がもっと広くきれになってほしい。

ずっと住み続けたいと思う町

有名な町

ゆう名なまち

自然もたくさんありながら発展しているまち。

上のこう目全部あてはまるような町がいい

みんなが幸せなまち。まだあるけど、一番は平和なまちですね。よびかけだけでじゃむり。

北本市に住んでいる人が楽しく、明るく、仲良く、くらせるような町になってほしい！

すみやすい町

みんなが住みやすく、人の事をきづかうまち

なかよく、助けあうことができるまち

みんなが気持ちよくなるあいさつをできる町にしたい。

みんなが楽しく えがおな所になってほしいです。

みんなが、やさしく、だれとでも協力できるようになったらいいです。

みんなで協力するまち

みんなが協力し合うまち

とにかく明るいまち

みんながたのしく くらせるまち

きずながふかまるすてきな町

みんなが安全に楽しくくらせるまち。笑顔がいっぱいのまち。高れい者の方がくらしやすいまち

協力し、助け合う北本市

仲良くお互い助けあえるような町
みんなで協力し合えるまち
みんながなかよく、まちがきれいになってほしい
みんながしんせつで、やさしい人がいっぱいいるまち
みんながやさしくて、たのしいまち
住んでいる人が楽しく笑って安全に遊べる町になってほしい。
みんなが協力できて楽しい町
笑顔いっぱいな町
みんながすごしやすい町
笑顔輝く北本市。親切で優しい北本市。
町の人々が全員が仲良しのまち
北本市民がみんなで仲良しで、安心して暮らせるまちになってほしいです。

子育てのしやすいまち。お年寄りの暮らしやすいまち。
子どもがふえる町
子どもや大人やお年よりの人たちがみんなで楽しく差別のないまち
みんなが人に思いやりがあって、ゆずりあえる町
もう少し子供にお金を出してほしい。子育てしやすい街にしてほしいです。

生き物を大切にする町。自然を大切にする町
自然がたくさんあるまちになってほしい。
自然がいっぱいで、畑や公園が残っているまち
自然がいっぱい
まち田舎の環境を観光や子育て世代にアピールするイベントや企画へのサポートに期待します。
きれいなまちでみんなが好きになったらいいなと思います。
とてもきれいで ごみがちらかっていなく安心してくらせる場所。
自然（緑）がいっぱいあり、花もいっぱいあるきれいな町（北本にいっぱいある）
都心への通勤圏にありながら、緑が多く残る。住宅街の雑木林は貴重だと思います。
半分は林や森があって生き物がすんでいる場所、半分は商店街などかっきにあふれているまちがいいです。
緑が多い所
緑がもっと多くなったらいい
人間1 動物9ありで、自然をはかいせず、世界一安全でくらせるような建ちく物のみがある、だれもが幸せな市
都会的だけれど自然も多くあるまち。
みんながいろいろな物や生き物を大切にするまち！
自然が多い町
自然がたくさんあり、きれいな町
トマト＝北本市のようにトマトが全国的に知られている町
自然がたくさんある町にしたい。
自然いっぱいのまち
花や植物などを大切にする町
動物がいっぱいいる町。
自然のきれいなまち
ほかの埼玉の町よりも自ぜんが多い町
お花がいっぱいのきれいな町
今ある自然をそのまま残してほしい。
住宅地が増えているので あまり密集しすぎず、自然と住宅がバランスよく整えられている。
自然ゆたかで、ごみなどもちらかっていないきれいで、安心できる町。
ドッグランとゴルフ場の近くの広い畑が2ついっきになくなり、工事がはじまりました。なので、このままじゃ畑が少なくなってしまうので、畑が何年たっても多く残るまちがいいです。

べんりな道具がたくさんある。日があたらなく、ねっちゅうしょう（熱中症）にならないようにするため、ドームの公園上にてんじょう（天井）がある。

外で遊ぶ時、ボール遊びをする所がない。近くに公園があっても、車の通りなどがあり、安心して遊ばせられない。

子育てがしやすい町。公園でボールあそびや、スケボーができる。

将来、学校に近い広い公園があるまちになってほしいです。

（外で）子供同士で遊ぶことができる街。お店の人でも、近所でも子供を見守れることや環境整備

こうえんの中にも川のある市

楽しく外で子どもが遊べるようなまち

子どもが中であそべる自由なじどうかん

子供たちが遊べる町（室内、児童館施設一大きい子用）…

子どもがたくさん遊べるようなところがいっぱいある町

ゆうえんちがある町

「ボールが使える」広くて周りに自然がある広場

広い公園が近くにあるまち

川や小さな池など水や近くの公園にいろいろなものがあるまち

公園があったらいい

公園が近くにいっぱいある。

水害のないまち

じけんや、じこがないまち

事件のない町

事などがまったくないまち

治安のよいまち

事などが少ない市。

ふしん者がいなくて安心してらせるまち

刃物を持った人、変質者がいないまち

はんざいのないまち

とてもじこが少なく、不審者もいない安全なまち

子どもたちみんなが安心して外にでられるように ふしんしゃなどがいないまち

通学路にガードレールがほしいです。街灯を増やし、不審者がいなくなるように。

通学路の街灯を増やし子供達の安全第一。街灯が少なく暗いまちでは変質者が増える。絶対実現して欲しいです。

思いやりのあるまち、交通ルールを正しく守れる街。

車の事故や自転車、歩行者などのじこが少ないまち

事故が少なく、安心安全にらせるまち

事故がない町

がいとうがおおい町

事件や事故がなく安心・安全なまち

不しん者が一人もいない すみごちがよい町

けんかや事けんがない町

安全的にしやすいまち

事故ゼロの町

事故や事件のない街

いじめのないまち

交通事故ゼロ。きれいなかんきょうをたもつ。

安心してらせてすみよい町

安心・安全・買い物難民にならず、不自由にならない町になって欲しい。

高速道路の工事、早めに終えて、安全に通行（人・車・自転車）できるようにしてほしい。

仲仙道の渋滞・混雑を何とかしてほしい。（脇道を作る等…）

ほどが広くたくさんあり、ガードレールなどがついている北本市にしたい。
車などがあまり通らないで安全なまち

人が多いまちにしたい
カフェとかがある市。若い人たちが安いやちんで住みやすい市
ショッピングモールができたらうれしい。
スーパーマーケット、ショッピングモール、レストランや公園がいっぱいあるまち。
ショッピングモールとびょういんを多くしたらいいと思う。
観光客がたくさんきて経済的にはってんしているまち。
昔の建物（今のいんしょう的な建物）がのこるまち。
みなみ北本駅があったら、住みやすいまちになると思います。
仕事がたくさんあるまち
スポーツがさかんになる町
ビルがいっぱいあってほしい。
デパートがあったらいい
プールや映画館があるまち
建物がたくさん建って、住たく街が多く、人口が多いまち。
市内にだかし屋がいっぱいあるまち
エキや公共施設に行くのに もっとバス便を増やしてほしい。
南北本駅があったら便利だなと思います。
交通がべんりな町
車がじどうでうごく
べんりないえやくるまがあって、すべてがきれいなまち

静かで自然が多い町
空気がきれいな町
空気がおいしい町
夜中にバイクの音がしない町

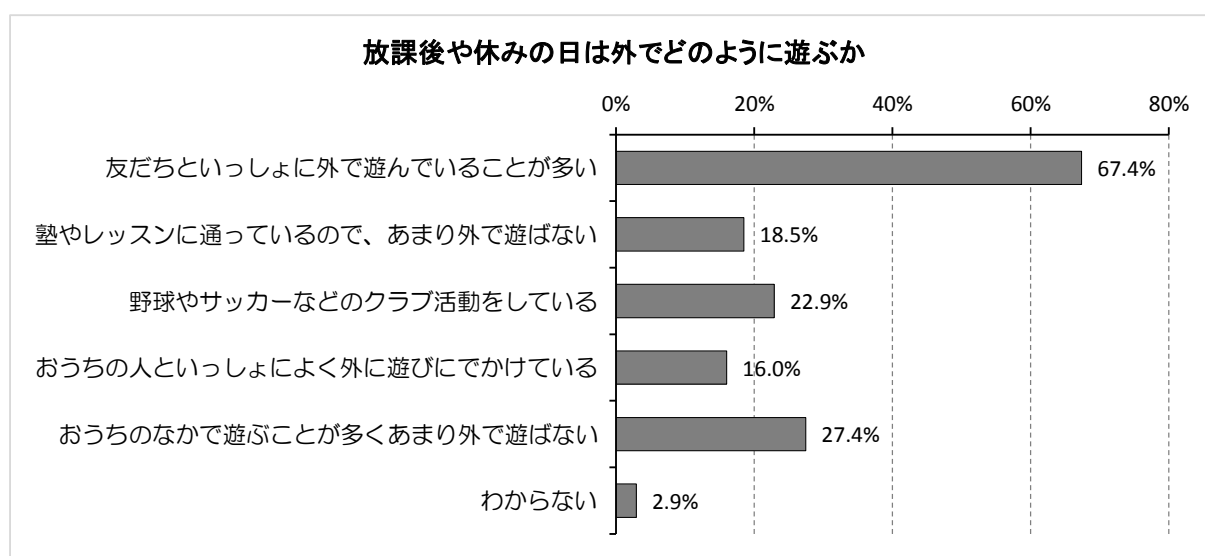
ゴミはちゃんとゴミ箱に捨てて きれいな町になってほしい
ゴミを道にすてない いい町。
公園にゴミばこができるといい。
交通などが整理されていて、道路などにごみが落ちていない北本市。
かんぱんにごみをすてないで！とかいてあるかんぱんがあるのですてないようにするまち
ポイ捨てがない町
ごみがまったくおちていなくて、自然がいっぱいあるまち。
ゴミがすくなく自然とかを大切にしている市

みんなが水や電気などを大切にする町。
節電を心がける人々がたくさんいるまち
家計にやさしいまち
CO₂ を削げんする1週間
エネルギーを大切に使う町

問 3 学校の放課後や休みの日の外での遊びについて

学校の放課後や休みの日の外での遊びについて、「友だちといっしょに外で遊んでいることが多い」が 67.4%と最も多く、次いで「野球やサッカーなどのクラブ活動をしている」が 22.9%となっています。

反面、「おうちのなかで遊ぶことが多くあまり外で遊ばない」が 27.4%、「塾やレッスンに通っているので、あまり外で遊ばない」が 22.9%と、それぞれ約 4 人に 1 人の割合の児童があまり外で遊ばないとしています。



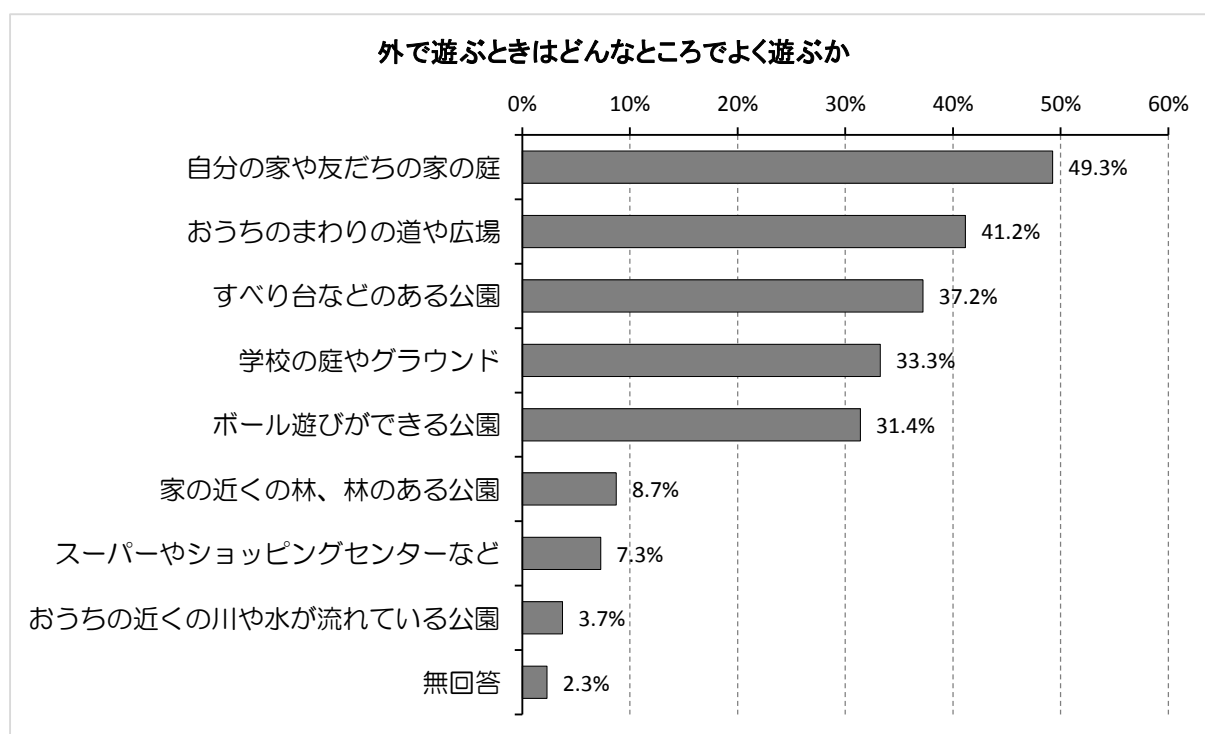
項目	回答数	割合
友だちといっしょに外で遊んでいることが多い	324	67.4%
塾やレッスンに通っているので、あまり外で遊ばない	89	18.5%
野球やサッカーなどのクラブ活動をしている	110	22.9%
おうちの人といっしょによく外に遊びにでかけている	77	16.0%
おうちのなかで遊ぶことが多くあまり外で遊ばない	132	27.4%
わからない	14	2.9%
無回答	4	0.8%
回答者数		481

問4 外でよく遊ぶところ

問3との関係で、外でよく遊ぶところについてたずねています。外で遊ぶときは、「自分の家や友だちの家の庭」が49.3%と最も多く、次いで、「おうちのまわりの道や広場」、「すべり台などのある公園」、「学校の庭やグラウンド」、「ボール遊びができる公園」となっています。

また、「家の近くの林、林のある公園」は8.7%、「おうちの近くの川や水が流れている公園」3.7%と低く、安全面に不安があるところでの遊びは少なくなっているほか、自宅周辺にそのようなところが少ないなどもことも考えられます。

なお、選択項目のほかに、よく遊ぶところを自由に書いていただいた内容でも、公園や児童館、家の中など、同じような傾向が見られます。



選択項目	回答数	割合
学校の庭やグラウンド	160	33.3%
おうちのまわりの道や広場	198	41.2%
ボール遊びができる公園	151	31.4%
すべり台などのある公園	179	37.2%
家の近くの林、林のある公園	42	8.7%
おうちの近くの川や水が流れている公園	18	3.7%
自分の家や友だちの家の庭	237	49.3%
スーパーやショッピングセンターなど	35	7.3%
無回答	11	2.3%
回答者数		481

【ほかに良く遊びに行くところ】

サイクリングです。	家の前。	図書館	駄菓子屋
深井グラウンド	あさち	公みん館（児童室）	だがしやさん
サッカーボールふかいグラウンドであそぶ	児童館	公民館	だがしやさん
野外活動センター	児童館	公民館	だがし屋さん
そう木林	児童館	公民館の部屋や庭。	神社
そうごう公園	児童館	こうみんかん	神社
そうごう公園	児童館	自分の家の近く、友達の家	神社
とても広い公園（何もゆぐない）	児童館	自分の家や友だちの家	西ぶプリンスドーム
ふつうの公園	児童館	家の中	電車
ふつうの公園（ブランコ、すなばなど）	児童館	友だちの家	おじいちゃんの家
ふね公園	児童館	友だちの家、児童館	東京のおばあちゃんの家の前
ブランコがある公園	児童館	友達の家	鬼ごっこ、はっきり言って子供は外で遊んでほしい。帰って来て毎日家でゲームばかり
広い公園	児童館	友達の家の中。	
スケボーや自転車ができる公園	児童館	ともだちの家の中	
遊具などがいっぱいある公園	児童館	商店街	
車で行く公園	児童館にいつも行っている。	商店街	
マンションの下・友達の家の中・自分の家の中	時計台	商店街のアーケード	
エントランス、本屋、コンビニ	学校の校庭	しょうてんがい	
家の近くにある公園。家の前など。	学校の校庭です。	しょうてんがい	
家の近くの公園	学校の校庭	ゲーセン	
家の近くの公園	学校の校庭です。	おうちの人といっしょと友だちといっしょにゲームセンター	
家の前	学童の庭		
家の前	放課後学校の校庭など		

問5 環境についてのことばについて

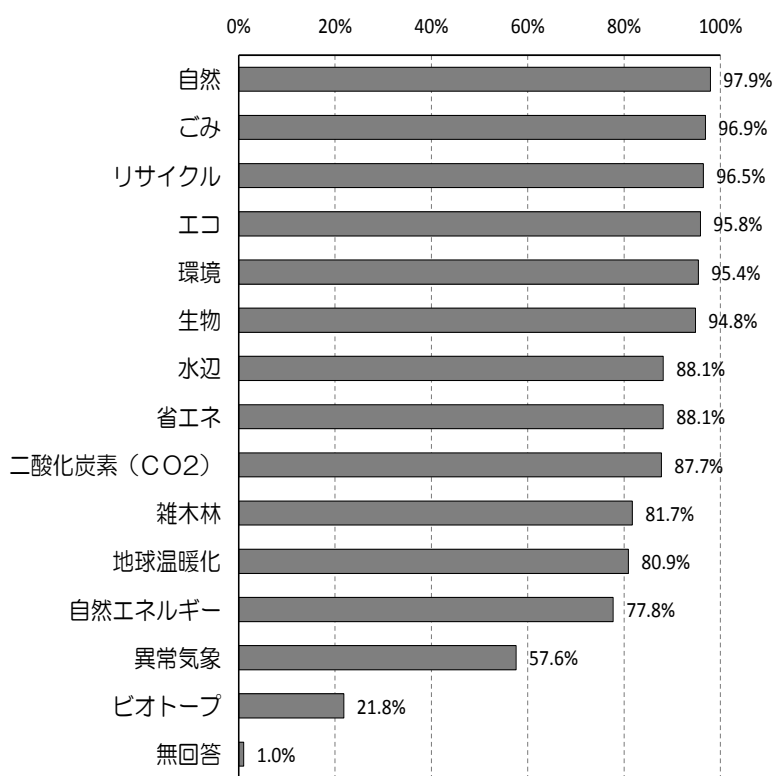
環境に関わる主なことばについて、小学5年生の児童がどのようなことばを「知っている」または「聞いたことがある」か、たずねています。

「自然」は97.9%と最も多く、次いで「ごみ」、「リサイクル」、「エコ」、「環境」、「生物」の順で、それぞれ9割を超えており、これらのことばについては、ほとんどの児童が知っている、聞いたことがあるとなっていました。

その他、「水辺」や「省エネ」、「二酸化炭素(CO₂)」、「雑木林」、「地球温暖化」、「自然エネルギー」も8割前後またはそれ以上となっており、多くのことばについては知っていたり、聞いたたりしたことがあるとなっていました。

なお、「ビオトープ」については、21.8%と最も低く、ほぼ5人のうち4人が知らない、聞いたことがないとなっていました。

知っている環境に関することば



選択肢	回答数	割合
自然	471	97.9%
雑木林	393	81.7%
水辺	424	88.1%
生物	456	94.8%
ビオトープ	105	21.8%
エコ	461	95.8%
環境	459	95.4%
ごみ	466	96.9%
リサイクル	464	96.5%
異常気象	277	57.6%
地球温暖化	389	80.9%
二酸化炭素 (CO ₂)	422	87.7%
自然エネルギー	374	77.8%
省エネ	424	88.1%
無回答	5	1.0%
回答者数	481	

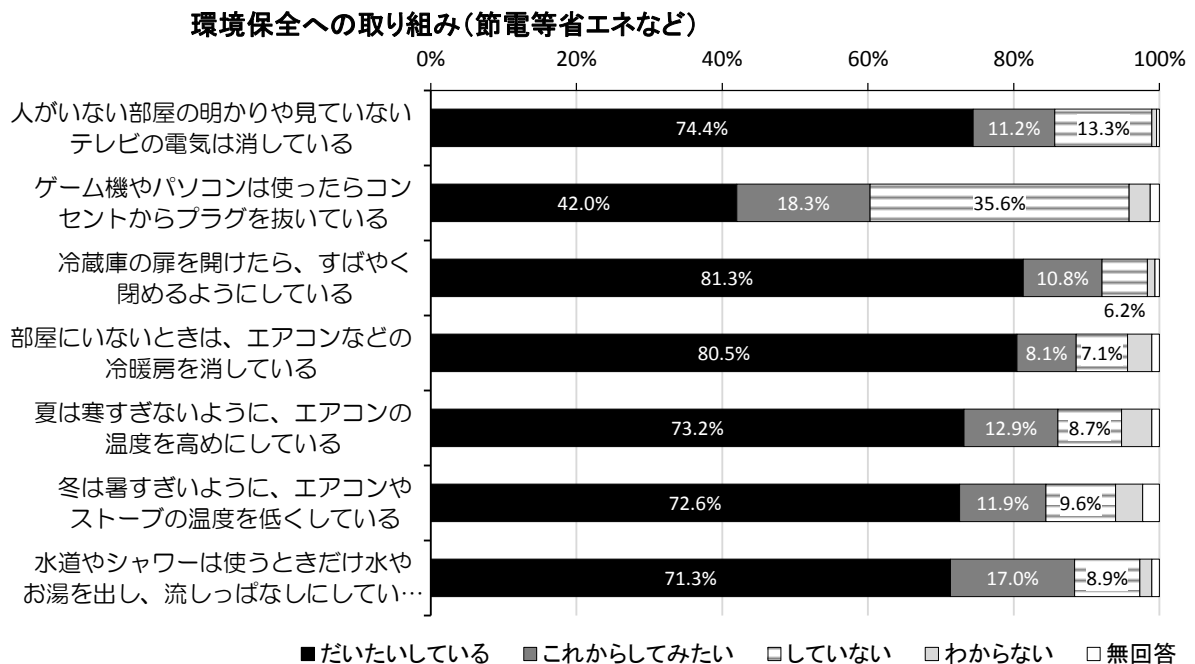
問6 毎日の生活について

～おうちの人に聞いて、つけてみましょう～

節電等省エネなどに関わる行動について

「ゲーム機やパソコンは使ったらコンセントからプラグを抜いている」を除く全ての項目で「だいたいしている」が7割以上になっており、「これからしてみたい」との回答と合わせると8割～9割と、省エネに対する意識は高いといえます。

「ゲーム機やパソコンは使ったらコンセントからプラグを抜いている」は、「だいたいしている」が42.0%、「していない」が35.6%と行動が分かれています。



(回答数=481)

(上段：回答者数、下段アミかけ部：回答割合)

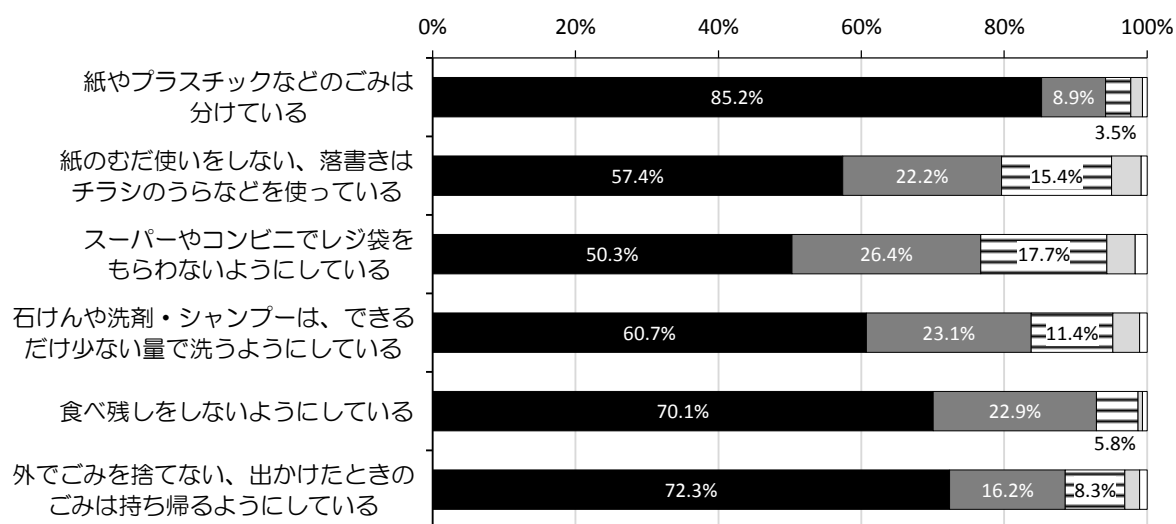
節電等省エネへの取り組み	だいたいしている	これからしてみたい	していない	わからない	無回答
1 人がいない部屋の明かりや見ていないテレビの電気は消している	358 74.4%	54 11.2%	64 13.3%	3 0.6%	2 0.4%
2 ゲーム機やパソコンは使ったらコンセントからプラグを抜いている	202 42.0%	88 18.3%	171 35.6%	14 2.9%	6 1.2%
3 冷蔵庫の扉を開けたら、すばやく閉めるようにしている	391 81.3%	52 10.8%	30 6.2%	5 1.0%	3 0.6%
4 部屋にいないときは、エアコンなどの冷暖房を消している	387 80.5%	39 8.1%	34 7.1%	16 3.3%	5 1.0%
5 夏は寒すぎないように、エアコンの温度を高めになっている	352 73.2%	62 12.9%	42 8.7%	20 4.2%	5 1.0%
6 冬は暑すぎないように、エアコンやストーブの温度を低くしている	349 72.6%	57 11.9%	46 9.6%	18 3.7%	11 2.3%
7 水道やシャワーは使うときだけ水やお湯を出し、流しっぱなしにしない	343 71.3%	82 17.0%	43 8.9%	8 1.7%	5 1.0%

ごみの減量・リサイクルなどに関わる行動について

「紙やプラスチックなどのごみは分けている」では「だいたいしている」が 85.2%と多く、ごみの分別や資源のリサイクルに対する意識は高くなっています。また、「外でごみを捨てない、出かけたときのごみは持ち帰るようにしている」や「食べ残しをしないようにしている」も「だいたいしている」が 70%以上、「これからしてみたい」と合わせると 9割前後となっています。

「スーパーやコンビニでレジ袋をもらわないようにしている」では、「だいたいしている」が 50.3%とほぼ半分が行っているとしています。

環境保全への取り組み(ごみの減量・リサイクルなど)



■だいたいしている ■これからしてみたい □していない □わからない □無回答

(回答数=481) (上段：回答者数、下段アミかけ部：回答割合)

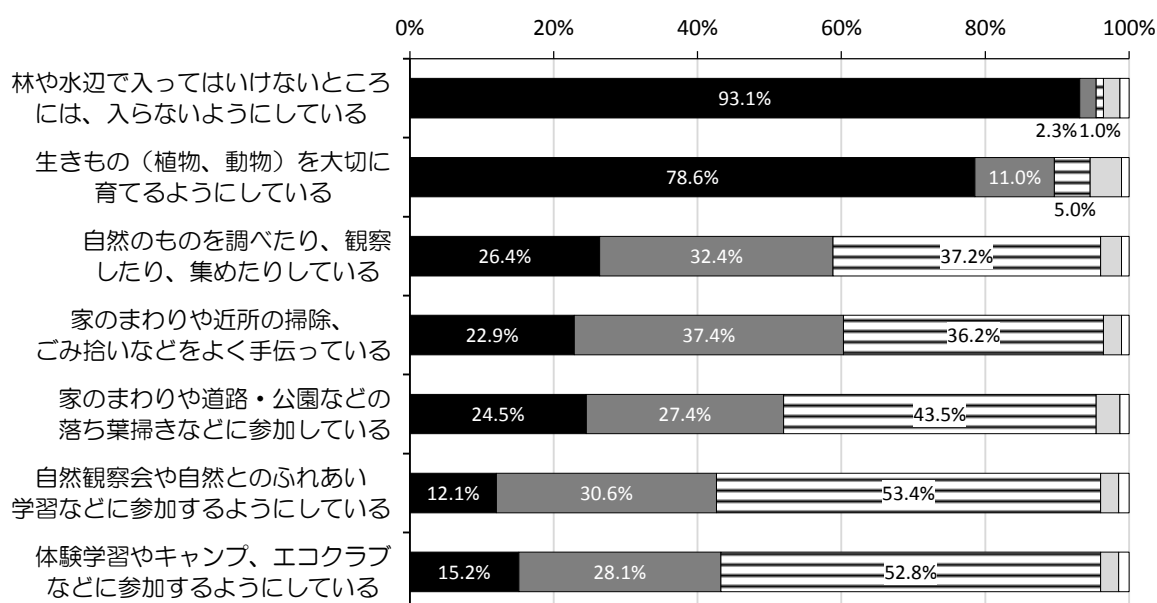
ごみの減量・リサイクルなど	だいたいしている	これからしてみたい	していない	わからない	無回答
8 紙やプラスチックなどのごみは分けている	410 85.2%	43 8.9%	17 3.5%	8 1.7%	3 0.6%
9 物をこわさないよう、大切に使用している	359 74.6%	75 15.6%	31 6.4%	12 2.5%	4 0.8%
10 紙のむだ使いをしない、落書きはチラシのうらなどを使っている	276 57.4%	107 22.2%	74 15.4%	20 4.2%	4 0.8%
11 スーパーやコンビニでレジ袋をもらわないようにしている	242 50.3%	127 26.4%	85 17.7%	19 4.0%	8 1.7%
12 石けんや洗剤・シャンプーは、できるだけ少ない量で洗うようにしている	292 60.7%	111 23.1%	55 11.4%	18 3.7%	5 1.0%
13 食べ残しをしないようにしている	337 70.1%	110 22.9%	28 5.8%	3 0.6%	3 0.6%
14 外でごみを捨てない、出かけたときのごみは持ち帰るようにしている	348 72.3%	78 16.2%	40 8.3%	10 2.1%	5 1.0%

自然とのふれあい、環境美化、環境学習に関わる行動について

「林や水辺で入ってはいけないところには、入らないようにしている」については、93.1%が「だいたいしている」と最も多くなっています。次いで「生きもの（植物、動物）を大切に育てるようにしている」も78.6%と、ほとんどの親子で意識されています。

しかし、積極的なしぜんとのふれあいに関わる活動としての「自然のものを調べたり、観察したり、集めたりしている」や「自然観察会や自然とのふれあい学習などに参加するようにしている」、「体験学習やキャンプ、エコクラブなどに参加するようにしている」は「していない」が「だいたいしている」より多くなっています。

環境保全への取り組み（自然とのふれあい、環境美化・環境学習など）



■だいたいしている ■これからしてみたい □していない □わからない □無回答

(回答数=481) (上段：回答者数、下段アミかけ部：回答割合)

自然とのふれあい、環境美化、環境学習	だいたいしている	これからしてみたい	していない	わからない	無回答
15 林や水辺で入ってはいけないところには、入らないようにしている	448 93.1%	11 2.3%	5 1.0%	11 2.3%	6 1.2%
16 生きもの（植物、動物）を大切に育てるようにしている	378 78.6%	53 11.0%	24 5.0%	21 4.4%	5 1.0%
17 自然のものを調べたり、観察したり、集めたりしている	127 26.4%	156 32.4%	179 37.2%	14 2.9%	5 1.0%
18 家のまわりや近所の掃除、ごみ拾いなどをよく手伝っている	110 22.9%	180 37.4%	174 36.2%	12 2.5%	5 1.0%
19 家のまわりや道路・公園などの落ち葉掃きなどに参加している	118 24.5%	132 27.4%	209 43.5%	16 3.3%	6 1.2%
20 自然観察会や自然とのふれあい学習などに参加するようにしている	58 12.1%	147 30.6%	257 53.4%	12 2.5%	7 1.5%
21 体験学習やキャンプ、エコクラブなどに参加するようにしている	73 15.2%	135 28.1%	254 52.8%	12 2.5%	7 1.5%

【その他】 いつも行っている環境保全行動について

いろいろエコをしている。

環境にやさしい洗剤を使用している。

洗剤よりも石ケンを使っている

ごみをへらすようにしている

ものをあまり買わないようにしています。

物をあまりこわさないようにしている

ペットボトル、カン、ビンをスーパーのリサイクル回しゅう箱やしげんゴミとして出している。

洋服を年齢の近いお母さんと交換している。楽しみながら。

水筒を持ち歩くようにしている

お出かけのときに、水とうを持っていく。

リサイクルをしている。

洋服はリサイクルする。

エコキャップに協力している。

ペットボトルのキャップは、ぶんべつして、エコリサイクルしている。

ペットボトルのふたははずして洗い、学校に持っていくようにしている。

ペットボトルのキャップなどを学校にきふしている。

トイレットペーパーはむだにしない

トイレットペーパーをなるべく短く使っている

ボイステをしていない。

道でごみがおちていたら、ごみばこにすてる。

水はすぐ使ったらとめる。

洗たく洗いを残り風呂の水を使っている。

井戸水を使っている

雨水をためて植木にあげている。お米のとぎじるを植木にあげている。

みどりのカーテン

明るいときに電気をつけないようにしている。

エアコンをすぐにつけないでまどをあけている。

ドライヤーを使っていない。

近くでとれた物を食べるようにしている。

近くでとれた物を食べるようにしている。

できるだけ自転車を使うようにしている

はれの日には自転車でこうどうしている

自転車を使っている。

車にのらないで、自転車をつかっている。

車はなるべくつかわず自転車をつかうようにしている。

車を使わず公共交通や自転車を使う

車ではなく自転車で外出する。

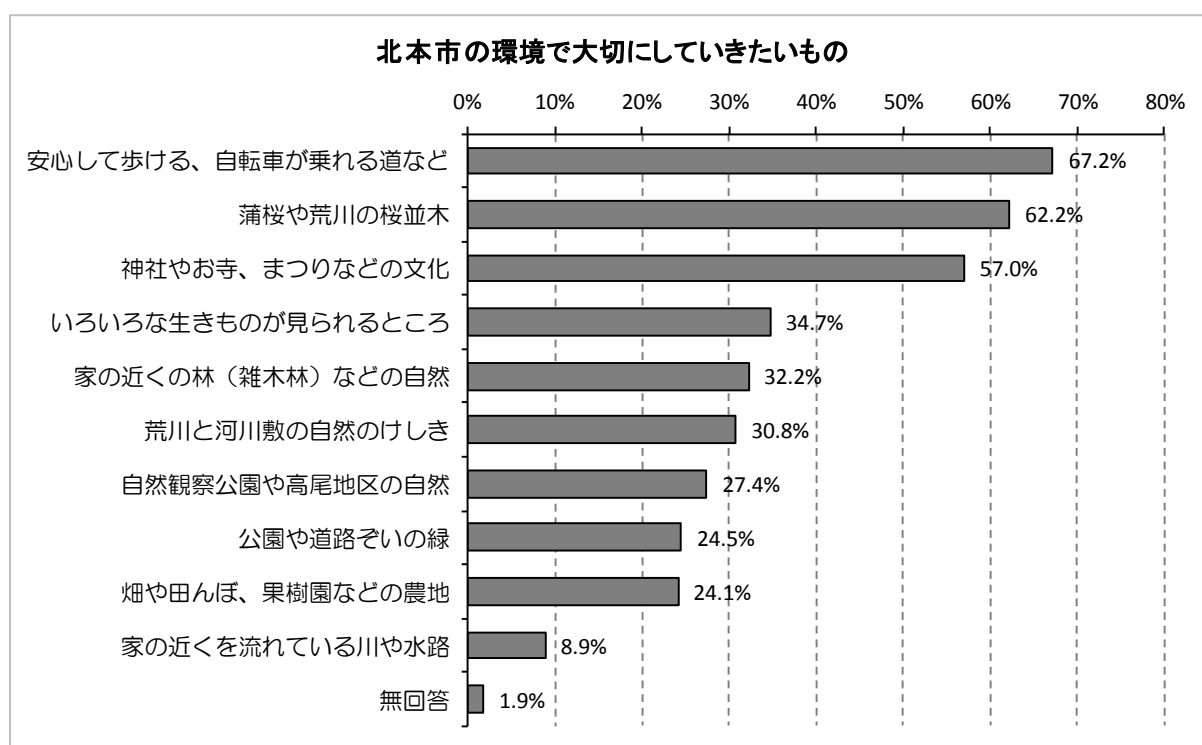
暑い日の車の移動はなるべくエアコンは使わない

問 7 北本市の環境で大切にしていきたいこと

～おうちの人と一緒に考えて、つけてみましょう～

北本市の環境で大切にしていきたいこととして、「安心して歩ける、自転車が乗れる道など」が 67.2%と最も多く、通学や遊びで移動する道の安全の確保が期待されていると考えられます。

次いで、「蒲桜や荒川の桜並木」や「神社やお寺、まつりなどの文化」がそれぞれ 60%前後と多く、北本を代表する景観などが上げられています。また、「いろいろな生きものが見られるところ」、「家の近くの林（雑木林）などの自然」、「荒川と河川敷の自然のけしき」もそれぞれ 30%以上となっており、身近にふれあえる自然の状況によって異なっていることが考えられます。



項目	回答数	割合
家の近くの林（雑木林）などの自然	155	32.2%
神社やお寺、まつりなどの文化	274	57.0%
荒川と河川敷の自然のけしき	148	30.8%
公園や道路ぞいの緑	118	24.5%
家の近くを流れている川や水路	43	8.9%
安心して歩ける、自転車が乗れる道など	323	67.2%
畑や田んぼ、果樹園などの農地	116	24.1%
自然観察公園や高尾地区の自然	132	27.4%
蒲桜や荒川の桜並木	299	62.2%
いろいろな生きものが見られるところ	167	34.7%
無回答	9	1.9%
回答者数	481	

【そのほかに大切にしていきたいこと】

自然	埋蔵文化財（遺跡）の保護・整備。または気軽に触れる、観察することのできる場の整備を望みます。
自然	公園
自然が豊かな所。	子供達が遊ぶ広場
季節を感じることを残したい。	子どもたちが外で安心して遊べるはんざいのないまち。
生き物を大切にする。	小学校の緑
虫	こうみんかんやじどうかん
生き物のすみか	ごみ等を落とさない、マナーを守って暮らす人が多いといいです。
動物・虫がくらす環境	災害時のときの ひなん場所
とんぼ公園	家族
身近な生き物を大切にしていける心を養う。	
そば、トマトの生産。	
子供時代に育った北本の自然や町並み環境・その場所・思い出として残っていて欲しい。	
ほとんど！（問の選択肢のほとんど）	

問 8 子育てしていくうえで改善してほしい環境

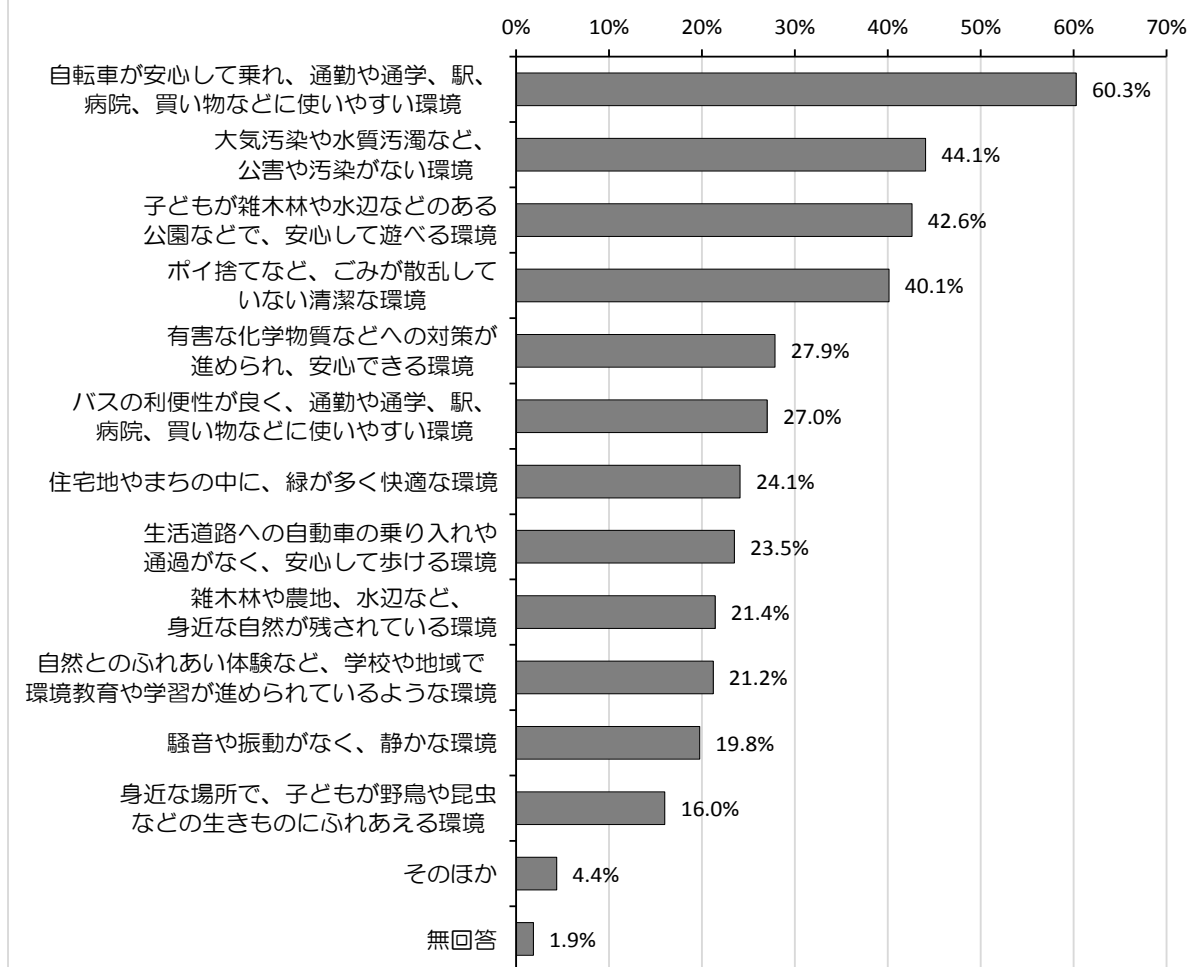
～おうちの人を選んでもらい、つけてみましょう～

子育てしていくうえで改善してほしい環境として、最も多い意見は、「自転車が安心して乗れ、通勤や通学、駅、病院、買い物などに使いやすい環境」が 60.3%となっており、大切にしていきたい環境と同様に、日常生活での安全な自転車利用ができる道路環境の改善などが期待されています。

次いで、「大気汚染や水質汚濁など、公害や汚染がない環境」、「子どもが雑木林や水辺などのある公園などで、安心して遊べる環境」、「ポイ捨てなど、ごみが散乱していない清潔な環境」がそれぞれ 40%以上と、公害のないきれいな快適な環境や、子どもが安心して遊べる場づくりが望まれています。

自由記載の意見でも、子どもが安心して遊べる公園、ボール遊び球技ができる公園などへの要望が多く見られます。

子育てをしていく上で、特に改善してほしい環境



選択肢	回答数	割合
大気汚染や水質汚濁など、公害や汚染がない環境	212	44.1%
騒音や振動がなく、静かな環境	95	19.8%
有害な化学物質などへの対策が進められ、安心できる環境	134	27.9%
ポイ捨てなど、ごみが散乱していない清潔な環境	193	40.1%
雑木林や農地、水辺など、身近な自然が残されている環境	103	21.4%
住宅地やまちの中に、緑が多く快適な環境	116	24.1%
身近な場所で、子どもが野鳥や昆虫などの生きものにふれあえる環境	77	16.0%
子どもが雑木林や水辺などのある公園などで、安心して遊べる環境	205	42.6%
生活道路への自動車の乗り入れや通過がなく、安心して歩ける環境	113	23.5%
バスの利便性が良く、通勤や通学、駅、病院、買い物などに使いやすい環境	130	27.0%
自転車が安心して乗れ、通勤や通学、駅、病院、買い物などに使いやすい環境	290	60.3%
自然とのふれあい体験など、学校や地域で環境教育や学習が進められているような環境	102	21.2%
その他	21	4.4%
無回答	9	1.9%
回答者数	481	

【そのほかに、特に改善してほしいと思う環境】

子供にやさしい気持ちをもつ大人の育成

医療、福祉、教育、環境がトータル的にコーディネートされていくように改善してほしいです。”特色”というより”バランスの良い”

周辺が山に囲まれていた田舎で育ったので、北本市は年々緑が少なくなっていて、もったいないと感じていることが良くあります。

住宅地にも子供が遊べる公園を整備してほしい

子供達が周囲を気にせず遊べる広い公園

ボールを使用できる公園がなく、のびのびと遊べる場所がないので改善して欲しい。

近隣市町村のような大型施設がなく不便なので改善して欲しい。

安心してボールをつかったスポーツなどができる環境、グラウンドなどを増やしてほしい

サッカーや野球などスポーツできる環境を充実させてほしい。ボール等使用してもよい公園がない。少年団の活動場所がなく大変です。

サッカーやバスケ等の球技遊びが誰でも自由に安全に遊べる環境

小学生がボールなどで思いきりあそべるところが少ない。行ける範囲がかぎられるので身近にあそべる場所がほしい。

野球やサッカーなどが安心してできる環境

公園の木がきられて 日かげがなくなり せっかく公園があっても夏は全くあそべない。プラスチックの遊具が多いのでやめてほしい。

小学生も集える児童館や公園の増設

歩道の整備（登下校路が危険な所が多すぎる。TVでも子供が犠牲になっている

事故が多過ぎる。これからの未来は子供達が作っていくもの。その子供達を守るために安全な環境づくり変えていくべき!!

今の高齢者は結構裕福なので、高齢者にかかる予算を子供のために使って欲しい!!

不審者がいない街

子どもが被害者となる犯罪が発生しない環境～発生した犯罪のケースごとに、それらを予防するためのアイデアを多くの方々から募り、施策を立案・実施して頂きたい。

ゴミ置き場がカラスに荒らされて、汚れているので対策して頂きたい。

ゴミ焼却炉があってゴミすてが楽な環境の改善

畑などでゴミを燃やさない環境、けむり等すいこむことがあり、健康面が気がかり

区画整理の整備と見直し（近隣の人たちの意見と、街の整備の適性を見直しして欲しい。

電線の地中下。特に北本駅付近、電線だらけで中山道沿いは景観がわるいです。

街灯を増やす。

北部優先のまちづくりを改善してほしい。南部地域はがまんして北本駅の改修を見ていました。

南北本駅を作してほしい

新駅ができてもらいたい

みなみ北本駅を作してほしい。

産婦人科を市内に作ってほしいです。

Ⅲ 事業者アンケート結果

調査方法と回収結果

調査対象は、平成 26 年経済センサス-基礎調査-の事業所台帳をもとに、市内に事業所を有し事業活動を行っている事業所 200 社を無作為抽出し、郵送法で調査を実施しました。

調査対象者	市内に事業所を有し事業活動を行っている事業所
対象数	200 社（平成 26 年経済センサス-基礎調査-より無作為抽出）
調査方法	郵送法 ※督促状等による督促は行っていない
調査期間	平成 27 年 6 月 1 6 日（発送）～平成 2 7 年 6 月 30 日
宛先不在等返信数	6 社
回収数	75 社
回収率	38.7%

第一次北本市環境基本計画の中間見直し時の平成 19 年度にも同じ調査方法と対象数で同様のアンケート（以下、「H19 調査」という。）を実施しています。その時の回収結果は次ようになっており、回収率は約 9 ポイント上昇しています。

参考 （H19 調査との比較）	平成 19 年 11 月実施、郵送法 事業者 200 社対象、回収数 60 社、回収率 30.0%
--------------------	--

問 1 事業所のことについて（回答事業所の属性）

市内にある事業所（複数ある場合は主たるもの）についてお答えください。

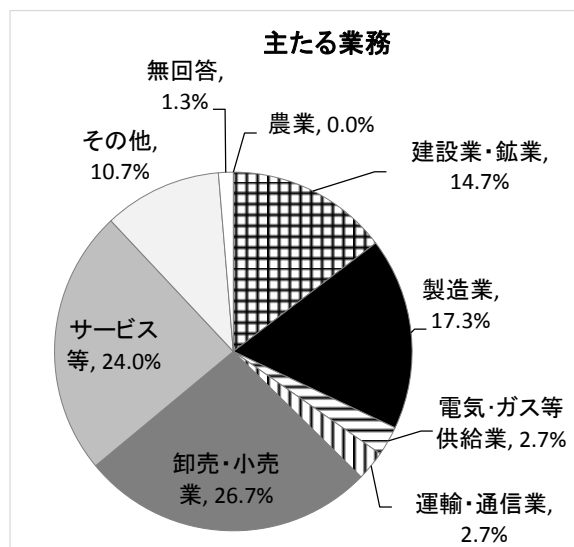
（1）主たる業務

回答事業所を業種別でみると、第一次産業はなく、第二次産業が約 3 分の 1、第三次産業が約 3 分の 2 を占めています。なお、H19 調査では製造業が 38%を占めていました。

選択肢	回答数	割合	H19 調査
農業	0	0.0%	1.7%
建設業・鉱業	11	14.7%	11.7%
製造業	13	17.3%	38.3%
電気・ガス等供給業	2	2.7%	6.7%
運輸・通信業	2	2.7%	0.0%
卸売・小売業	20	26.7%	26.7%
サービス等	18	24.0%	15.1%
その他	8	10.7%	1.7%
無回答	1	1.3%	
合計	75	100.0%	

【その他】の内容

- ・幼稚園
- ・動物病院
- ・社会福祉
- ・不動産
- ・労働組合
- ・産業廃棄物中間処理場

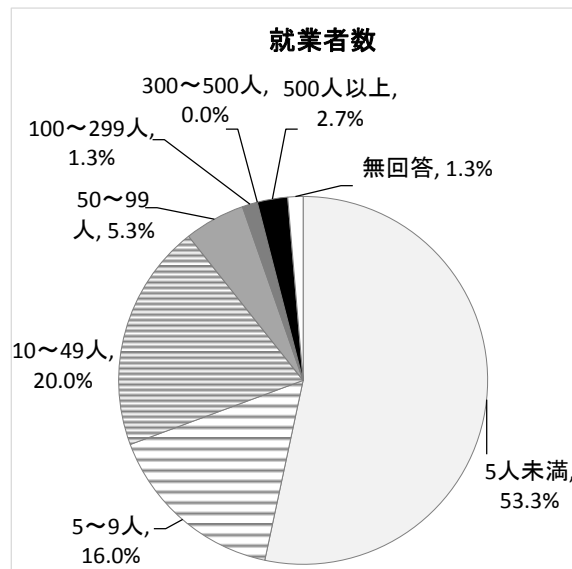


(2) 就業者数

事業所の就業者数では、7 割近くの事業所が就業者数 10 人未満からなっています。H19 調査での約 32%からほぼ倍となっています。また、H19 調査では 10～50 人未満が約 38%を占めていました。

なお、今回のアンケートでは 100 人以上の就業者からなる事業所は 3 社のみでした。

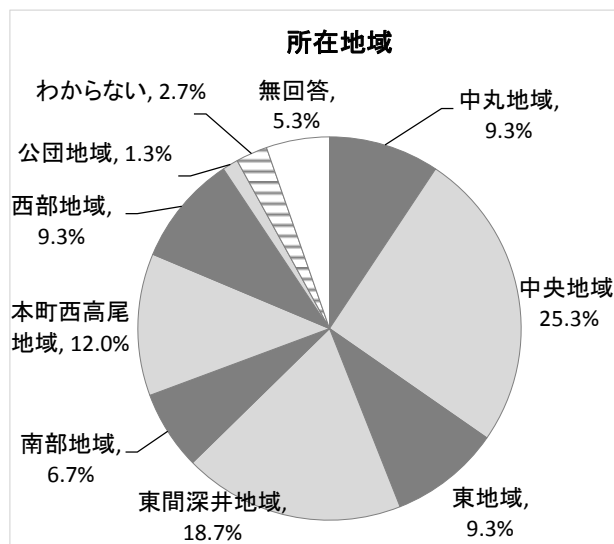
選択肢	回答数	割合	H19 調査
5 人未満	40	53.3%	31.7%
5～9 人	12	16.0%	
10～49 人	15	20.0%	38.3%
50～99 人	4	5.3%	16.7%
100～299 人	1	1.3%	5.0%
300～500 人	0	0.0%	
500 人以上	2	2.7%	8.3%
無回答	1	1.3%	
合計	75	100.0%	100.0%



(3) 所在地

回答事業所の所在地としては、中央地域の 25.3%が最も多く、次いで、東間深井地域の 18.7%となっていました。

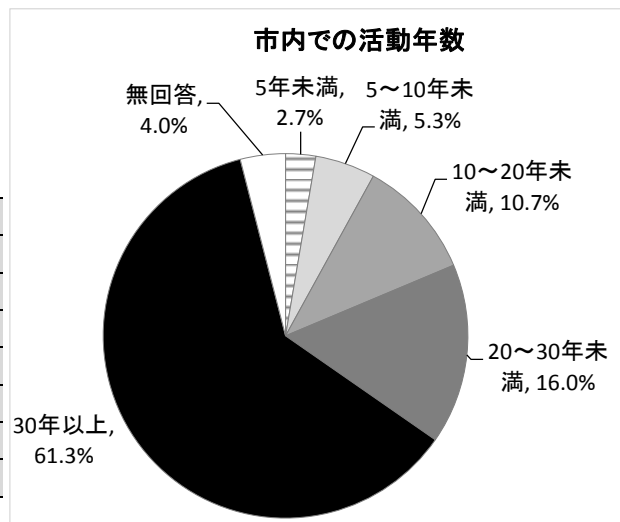
選択肢	回答数	割合
中丸地域	7	9.3%
中央地域	19	25.3%
東地域	7	9.3%
東間深井地域	14	18.7%
南部地域	5	6.7%
本町西高尾地域	9	12.0%
西部地域	7	9.3%
公団地域	1	1.3%
わからない	2	2.7%
無回答	4	5.3%
合計	75	100.0%



(4) 市内での活動年数

回答事業所の市内での活動年数は、30年以上が61.3%と最も多く、10年以上の事業所が9割近くを占めています。

選択肢	回答数	割合	H19 調査
5 年未満	2	2.7%	0.0%
5～10 年未満	4	5.3%	3.3%
10～20 年未満	8	10.7%	31.7%
20～30 年未満	12	16.0%	20.0%
30 年以上	46	61.3%	45.0%
無回答	3	4.0%	
合計	75	100.0%	

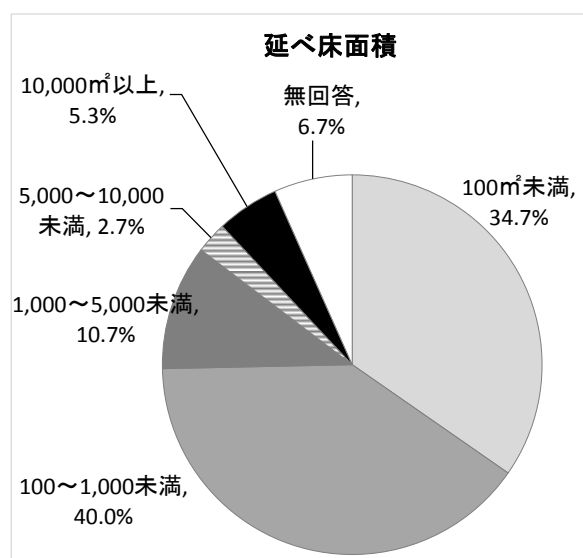


(5) 延べ床面積

延べ床面積では、1,000 m²未満の事業所が約75%を占めています。また、その約半数が100 m²未満の事業所となっています。

延べ床面積(市内所在部分、単位:m²)

選択肢	回答数	割合
100 m ² 未満	26	34.7%
100～1,000 未満	30	40.0%
1,000～5,000 未満	8	10.7%
5,000～10,000 未満	2	2.7%
10,000 m ² 以上	4	5.3%
無回答	5	6.7%
合計	75	100.0%



(6) 環境マネジメントの実施状況

回答事業所の大半は、就業者数及び床面積などの規模が小さな事業所となっており、ISO14001 認証取得など、環境マネジメントシステムによる取り組みを実施していない事業所が8割以上を占めています。

選択肢	回答数	割合
ISO14001 認証取得	4	5.3%
エコアクション 21 を運用	0	0.0%
地球温暖化対策計画制度	2	2.7%
彩の国エコアップ宣言	0	0.0%
その他	1	1.3%
特になし	63	84.0%
無回答	6	8.0%
合計	75	

問2 改正省エネ法による指定

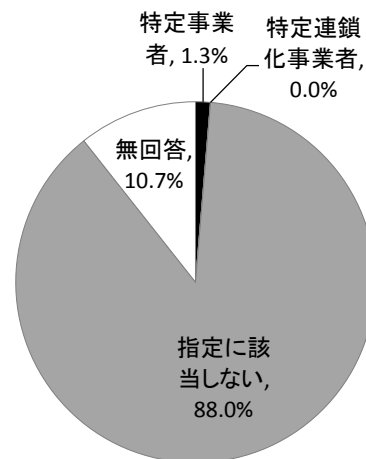
昭和54年（1979年）に石油危機を契機として制定された省エネ法（エネルギーの使用の合理化に関する法律）の改正により、事業者（企業単位）やフランチャイズチェーン事業を行っている事業者で、一定規模以上のエネルギーを使用している事業者は、エネルギー使用量を国に届出、指定を受けるとともに、省エネ措置や合理化計画作成などさまざまな義務が課せられています。

（1）事業所全体での指定

年間エネルギー使用量の合計が1,500kℓ（原油換算）以上の事業所で、改正省エネ法により特定事業者あるいは特定連鎖化事業者として国の指定を受け、定期報告書・中長期計画書の提出、エネルギー管理統括者やエネルギー管理企画推進者の選任等が義務づけられている事業者は1社だけでした。

選択肢	回答数	割合
特定事業者	1	1.3%
特定連鎖化事業者	0	0.0%
指定に該当しない	66	88.0%
無回答	8	10.7%
合計	75	100.0%

「省エネ法」に係る事業者全体の指定

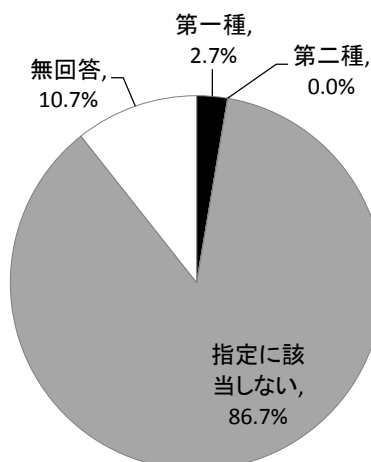


（2）エネルギー管理指定工場等について

特定事業者、特定連鎖化事業者が設置している工場等で、年間エネルギー使用量が3,000kℓ以上の第一種エネルギー管理指定工場等として指定されている事業所は2事業所で、年間エネルギー使用量が1,500kℓ以上3,000kℓ未満の第二種エネルギー指定管理工場等の指定を受けている事業所はありませんでした。

選択肢	回答数	割合
第一種	2	2.7%
第二種	0	0.0%
指定に該当しない	65	86.7%
無回答	8	10.7%
合計	75	100.0%

エネルギー管理指定



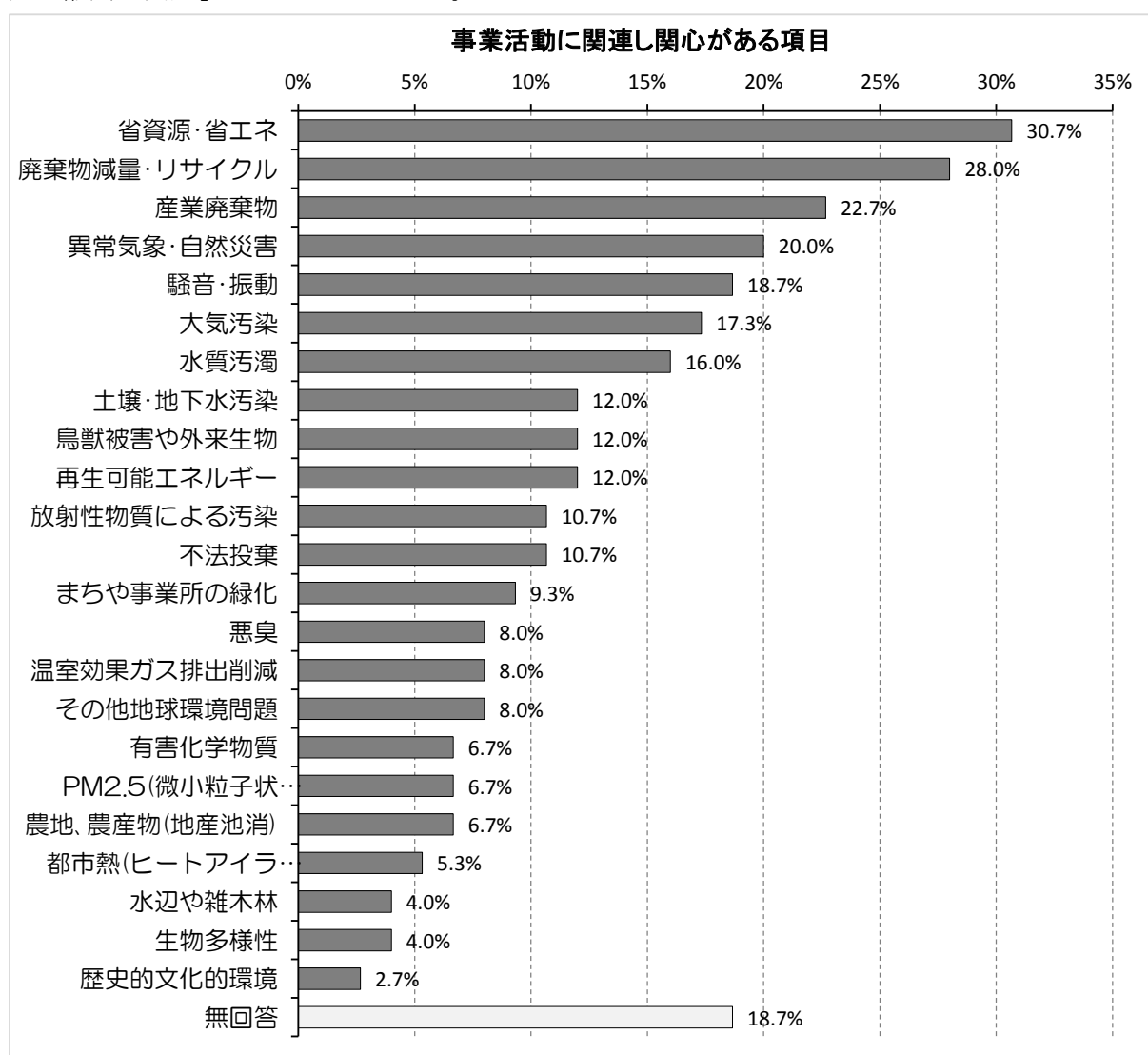
問3 事業活動に関連し関心のある環境のテーマ

事業活動に密接に関連し、事業所として関心の高い環境に関するテーマとしては、「省資源・省エネ」が30.7%と最も多く、次いで「廃棄物減量・リサイクル」や「産業廃棄物」と事業活動に伴う廃棄物処理に関心が高くなっています。

また、近年話題となっている「異常気象・自然災害」が4番目に位置しています。そのほか、「騒音・振動」、「大気汚染」、「水質汚濁」など、良好な生活環境の確保に関わるテーマが続いています。

関心が少ないテーマとしては、「歴史的文化的環境」や「生物多様性」、「水辺や雑木林」が上げられていますが、これらは事業活動と直接的な関係が低い項目として位置づけられていると考えられます。

H19調査とは設問形式、項目が異なりますので一概に比較はできませんが、H19調査では「廃棄物処理に係る問題」への関心が今回調査と同様に高く、次いで「ごみの散乱や不法投棄等、環境マナー問題」、「地球温暖化など地球規模の環境問題」、「食の安全、農林水産物の輸出入問題」となっていました。



事業活動に関連し関心のある環境のテーマ

選択肢	回答数	割合	選択肢	回答数	割合
大気汚染	13	17.3%	生物多様性	3	4.0%
水質汚濁	12	16.0%	歴史的文化的環境	2	2.7%
土壌・地下水汚染	9	12.0%	まちや事業所の緑化	7	9.3%
放射性物質による汚染	8	10.7%	都市熱(ヒートアイランド)	4	5.3%
騒音・振動	14	18.7%	産業廃棄物	17	22.7%
悪臭	6	8.0%	不法投棄	8	10.7%
有害化学物質	5	6.7%	廃棄物減量・リサイクル	21	28.0%
PM2.5(微小粒子状物質)	5	6.7%	温室効果ガス排出削減	6	8.0%
異常気象・自然災害	15	20.0%	省資源・省エネ	23	30.7%
水辺や雑木林	3	4.0%	再生可能エネルギー	9	12.0%
農地、農産物(地産池消)	5	6.7%	その他地球環境問題	6	8.0%
鳥獣被害や外来生物	9	12.0%	無回答	14	18.7%

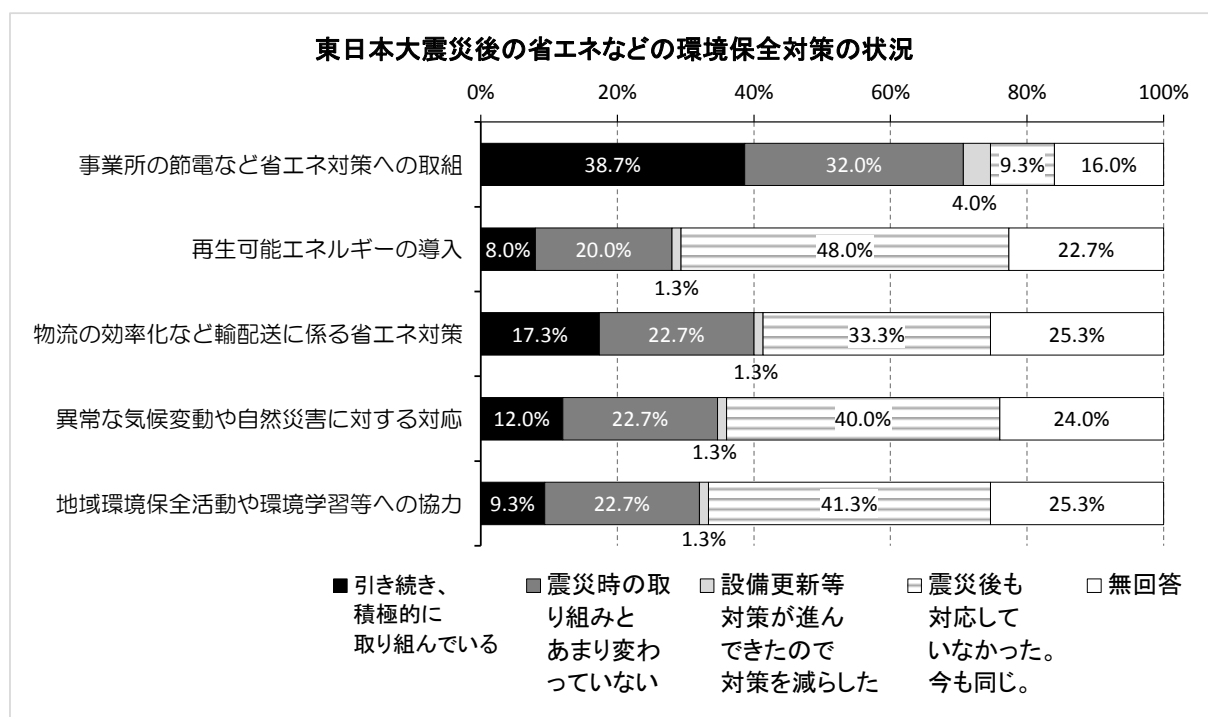
【参考】H19 調査「どのような環境問題に興味や関心がありますか。(2つ選択)」

H19 調査での選択肢	回答数	割合
廃棄物処理に係る問題	30	50.0
ごみの散乱や不法投棄等、環境マナー問題	27	45.0
地球温暖化など地球規模の環境問題	21	35.0
食の安全、農林水産物の輸出入問題	12	20.0
大気汚染や水質汚濁など公害問題	10	16.7
資源の減少や枯渇	7	11.7
有害化学物質使用による環境リスク	5	8.3
野生動植物種の減少や生息生育環境の変化	5	8.3
環境の悪化に伴う自然災害の発生	2	3.3
その他	0	0.0
回答なし	1	1.7

問 4 東日本大震災後の節電や省エネなどの対策変化

東日本大震災後の節電等省エネなどの環境保全対策への取組状況の変化についてたずねています。取り組みが積極的に進められてきた対策としては、「事業所の節電など省エネ対策への取組」で、「引き続き、積極的に取り組んでいる」が38.7%、「震災の取り組みとあまり変わっていない」が32.0%と、合わせて7割以上の事業所で、震災時での取り組みと同程度以上の取り組みを進めているとしています。

その他の項目については、回答なしの事業所も2割以上あるほか、「震災後も対応していなかった、今も同じ」との回答が3割～5割あり、事業所によって対応が異なっていると考えられます。



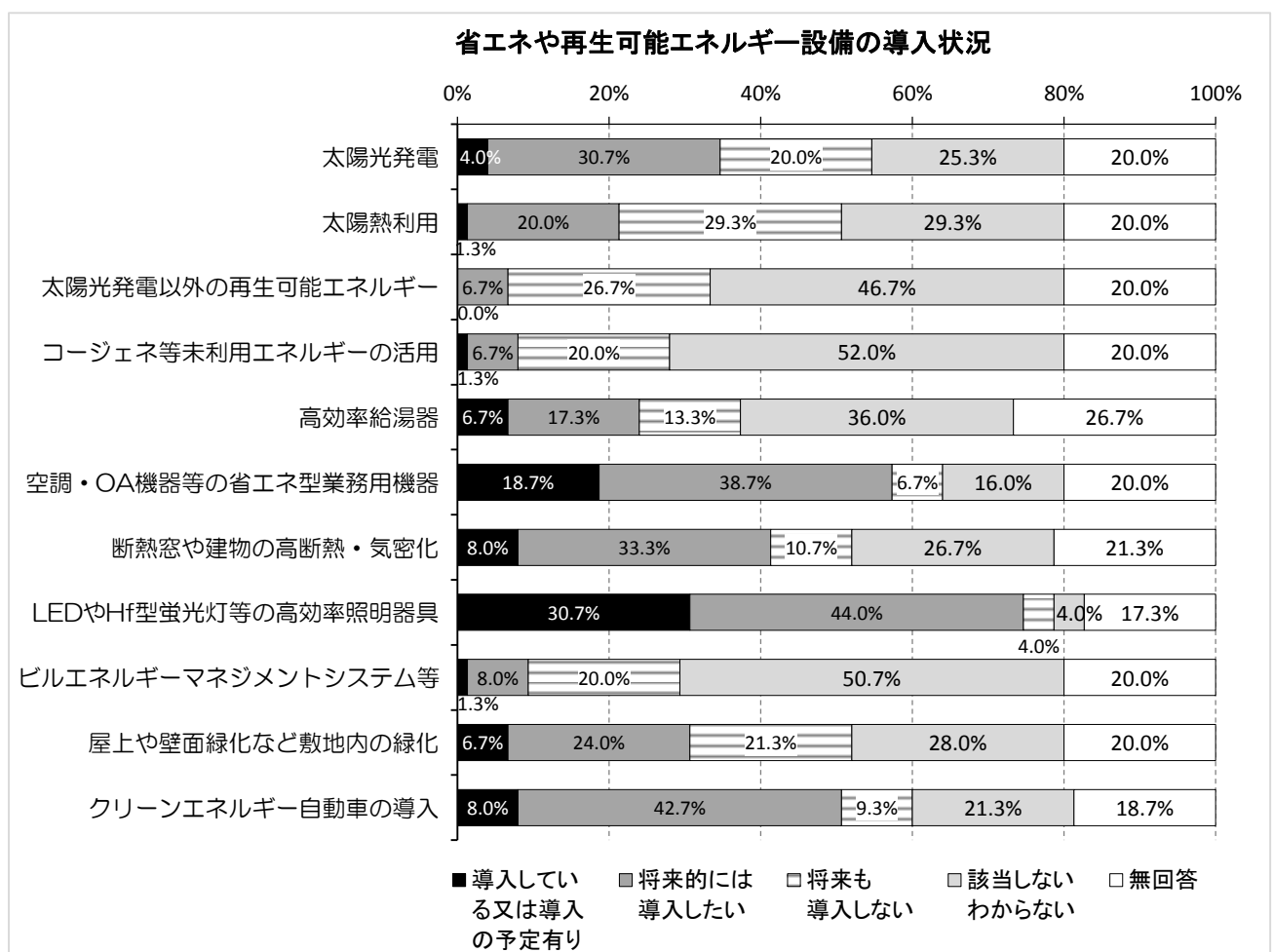
(回答者数=75) (上段：回答数、下段アミかけ部：回答割合)

	引き続き、積極的に取り組んでいる	震災時の取り組みとあまり変わっていない	設備更新等対策が進んだので対策を減らした	震災後も対応していなかった。今も同じ。	無回答
1 事業所の節電など省エネ対策への取組	29 38.7%	24 32.0%	3 4.0%	7 9.3%	12 16.0%
2 再生可能エネルギーの導入	6 8.0%	15 20.0%	1 1.3%	36 48.0%	17 22.7%
3 物流の効率化など輸配送に係る省エネ対策	13 17.3%	17 22.7%	1 1.3%	25 33.3%	19 25.3%
4 異常な気候変動や自然災害に対する対応	9 12.0%	17 22.7%	1 1.3%	30 40.0%	18 24.0%
5 地域環境保全活動や環境学習等への協力	7 9.3%	17 22.7%	1 1.3%	31 41.3%	19 25.3%

問5 省エネや再生可能エネ利用に向けた環境整備状況

省エネや再生可能エネルギーの利用に向けた設備の導入等の状況として、「導入している又は導入の予定有り」と取組が高かったのは、「LED や Hf 型蛍光灯等の高効率照明器具」で、3 割以上の事業所で進められているほか、「将来的には導入したい」も 44%と、合わせて 7 割以上の事業所で関心を持っています。次いで、「空調・OA 機器等の省エネ型業務用機器」の導入、「クリーンエネルギー自動車の導入」などとなっています。

再生可能エネルギー利用としては、太陽光発電システムを「導入している又は導入を予定している」が 4%と少ないですが、「将来的には導入したい」が 30.7%と高くなっています。



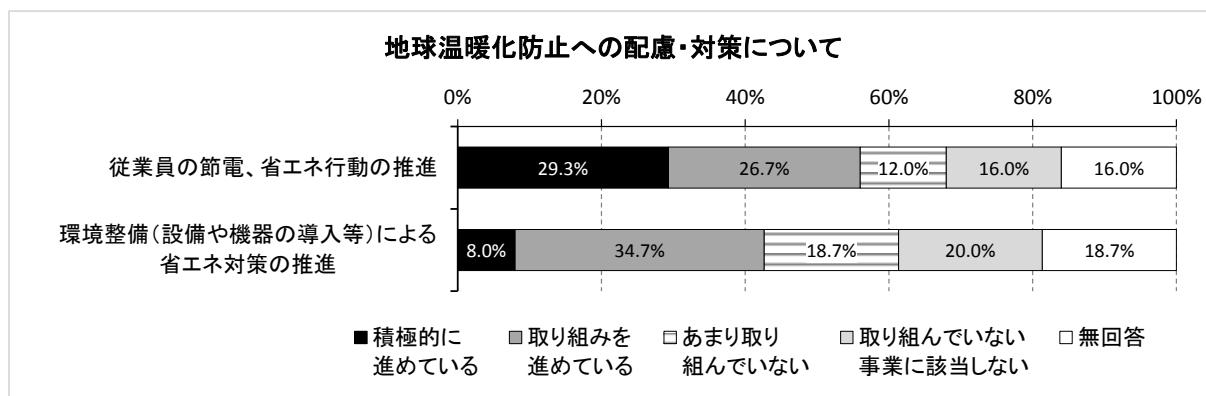
(回答者数＝75) (上段：回答数、下段アミかけ部：回答割合)

項目	導入している 又は導入の 予定有り	将来的には 導入したい	将来も導 入しない	該当しない わからない	無回答	計
1 太陽光発電	3 4.0%	23 30.7%	15 20.0%	19 25.3%	15 20.0%	75 100.0%
2 太陽熱利用	1 1.3%	15 20.0%	22 29.3%	22 29.3%	15 20.0%	75 100.0%
3 太陽光発電以外の再生可能エネルギー	0 0.0%	5 6.7%	20 26.7%	35 46.7%	15 20.0%	75 100.0%
4 コージェネ等未利用エネルギーの活用	1 1.3%	5 6.7%	15 20.0%	39 52.0%	15 20.0%	75 100.0%
6 空調・OA 機器等の省エネ型業務用機器	14 18.7%	29 38.7%	5 6.7%	12 16.0%	15 20.0%	75 100.0%
7 断熱窓や建物の高断熱・気密化	6 8.0%	25 33.3%	8 10.7%	20 26.7%	16 21.3%	75 100.0%
8 LED や Hf 型蛍光灯等の高効率照明器具	23 30.7%	33 44.0%	3 4.0%	3 4.0%	13 17.3%	75 100.0%
9 ビルエネルギーマネジメントシステム等	1 1.3%	6 8.0%	15 20.0%	38 50.7%	15 20.0%	75 100.0%
10 屋上や壁面緑化など敷地内の緑化	5 6.7%	18 24.0%	16 21.3%	21 28.0%	15 20.0%	75 100.0%
11 クリーンエネルギー自動車の導入	6 8.0%	32 42.7%	7 9.3%	16 21.3%	14 18.7%	75 100.0%

問 6 地球温暖化対策への対応

事業所での地球温暖化防止に向けた対応として、「従業員の節電、省エネ行動の推進」については、「積極的に進めている」と「取組を進めている」を合わせて6割近くの事業所が取り組んでいます。そのうち半数以上の事業所が積極的に進めているとしています。

また、「環境整備（設備や機器の導入等）による省エネ対策の推進」の取り組み状況としては、4割以上の事業所が進めているとしています。

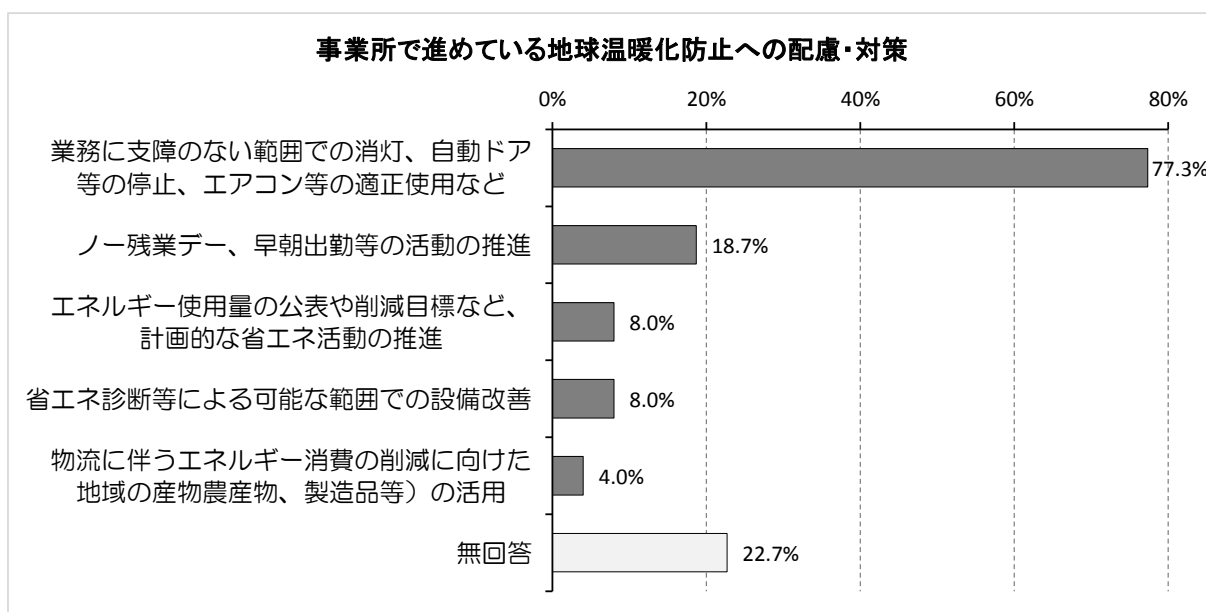


（回答者数＝75） （上段：回答数、下段アミかけ部：回答割合）

項目	積極的に進めている	取組を進めている	あまり取り組んでいない	取り組んでいない事業に該当しない	無回答	計
1 従業員の節電、省エネ行動の推進	22 29.3%	20 26.7%	9 12.0%	12 16.0%	12 16.0%	75 100.0%
2 環境整備（設備や機器の導入等）による省エネ対策の推進	6 8.0%	26 34.7%	14 18.7%	15 20.0%	14 18.7%	75 100.0%

問 7 地球温暖化対策に向けて推進している対策・活動

事業所での地球温暖化防止に向けた対策としては、「業務に支障のない範囲での消灯、自動ドア等の停止、エアコン等の適正使用など」が最も多く 8 割近くの事業所で実施しています。次いで、「ノー残業デー、早朝出勤等の活動の推進」を進めている事業所も 2 割近くあり、節電など省エネ行動が中心になっています。

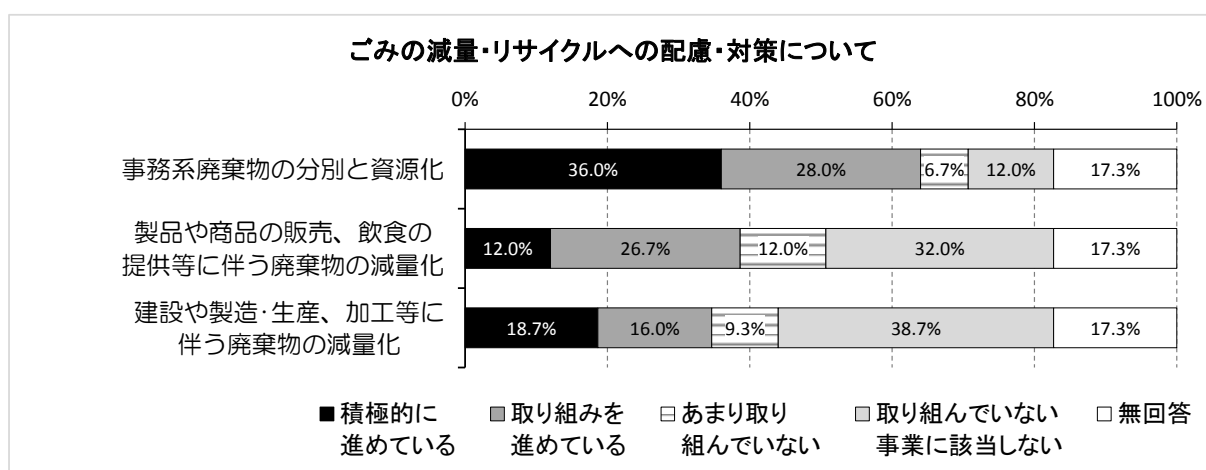


項目	回答数	割合
業務に支障のない範囲での消灯、自動ドア等の停止、エアコン等の適正使用など	58	77.3%
ノー残業デー、早朝出勤等の活動の推進	14	18.7%
エネルギー使用量の公表や削減目標など、計画的な省エネ活動の推進	6	8.0%
省エネ診断等による可能な範囲での設備改善	6	8.0%
物流に伴うエネルギー消費の削減に向けた地域の産物農産物、製造品等)の活用	3	4.0%
無回答	17	22.7%
回答者数		75

問 8 ごみの減量・リサイクルへの対応

事業所でのごみの減量・リサイクルへの対応として、「事務系廃棄物の分別と資源化」については、「積極的に進めている」と「取組を進めている」を合わせて6割近くの事業所が取り組んでいます。そのうち半数以上の事業所が積極的に進めているとしています。

また、「製品や商品の販売、飲食の提供等に伴う廃棄物の減量化」と「建設や製造・生産、加工等に伴う廃棄物の減量化」の取り組みについては、「取り組んでいない・事業に該当しない」事業所も3～4割ありますが、4割近くの事業所で取組を進めているとしています。



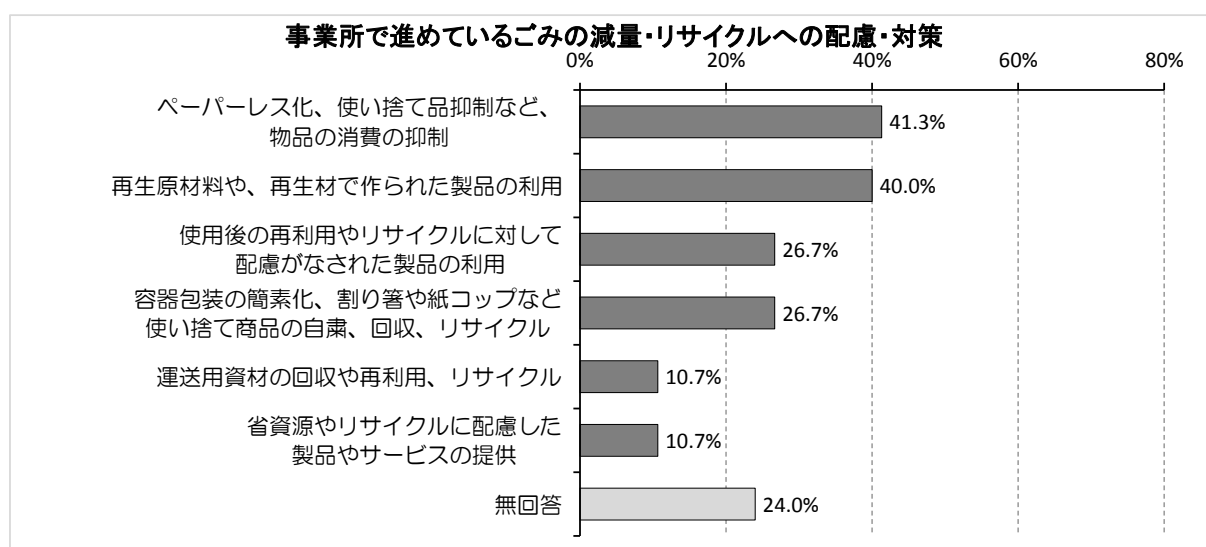
(回答者数=75) (上段：回答数、下段アミかけ部：回答割合)

項目	積極的に進めている	取組を進めている	あまり取り組んでいない	取り組んでいない・事業に該当しない	無回答	計
1 事務系廃棄物の分別と資源化	27	21	5	9	13	75
	36.0%	28.0%	6.7%	12.0%	17.3%	100.0%
2 製品や商品の販売、飲食の提供等に伴う廃棄物の減量化	9	20	9	24	13	75
	12.0%	26.7%	12.0%	32.0%	17.3%	100.0%
3 建設や製造・生産、加工等に伴う廃棄物の減量化	14	12	7	29	13	75
	18.7%	16.0%	9.3%	38.7%	17.3%	100.0%

問 9 ごみの減量・リサイクルに向けた対策・活動

事業所でのごみの減量・リサイクルに向けた対策としては、「ペーパーレス化、使い捨て品抑制など、物品の消費の抑制」と「再生原材料や、再生材で作られた製品の利用」が 4 割以上の事業所で実施しています。

次いで、「使用後の再利用やリサイクルに対して配慮がなされた製品の利用」や「容器包装の簡素化、割り箸や紙コップなど使い捨て商品の自粛、回収、リサイクル」の取り組みも 3 割近くの事業所で進めているとしています。

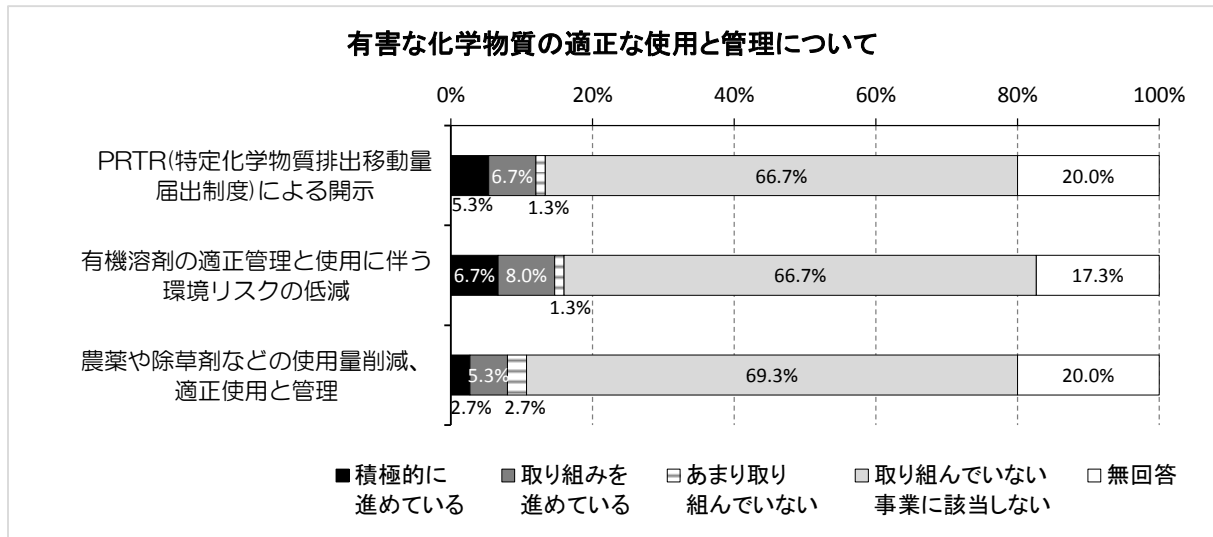


項目	回答数	割合
ペーパーレス化、使い捨て品抑制など、物品の消費の抑制	31	41.3%
再生原材料や、再生材で作られた製品の利用	30	40.0%
使用後の再利用やリサイクルに対して配慮がなされた製品の利用	20	26.7%
容器包装の簡素化、割り箸や紙コップなど使い捨て商品の自粛、回収、リサイクル	20	26.7%
運送用資材の回収や再利用、リサイクル	8	10.7%
省資源やリサイクルに配慮した製品やサービスの提供	8	10.7%
無回答	18	24.0%
回答者数		75

問 10 有害な化学物質の適正使用と管理への対応

事業所での有害化学物質等の取り組みとしては、今回の調査では無回答を除く「取り組んでいない・事業に該当しない」との事業所が7割近くありました。

「取り組んでいない・事業に該当しない」を除く、事業に該当する事業所では、ほとんどの事業所で、該当する項目については「積極的に進めている」や「取り組みを進めている」としています。



(回答者数=75)

(上段：回答数、下段アミかけ部：回答割合)

項目	積極的に進めている	取り組みを進めている	あまり取り組んでいない	取り組んでいない・事業に該当しない	無回答	計
1 PRTR(特定化学物質排出移動量届出制度)による開示	4 5.3%	5 6.7%	1 1.3%	50 66.7%	15 20.0%	75 100.0%
2 有機溶剤の適正管理と使用に伴う環境リスクの低減	5 6.7%	6 8.0%	1 1.3%	50 66.7%	13 17.3%	75 100.0%
3 農薬や除草剤などの使用量削減、適正使用と管理	2 2.7%	4 5.3%	2 2.7%	52 69.3%	15 20.0%	75 100.0%

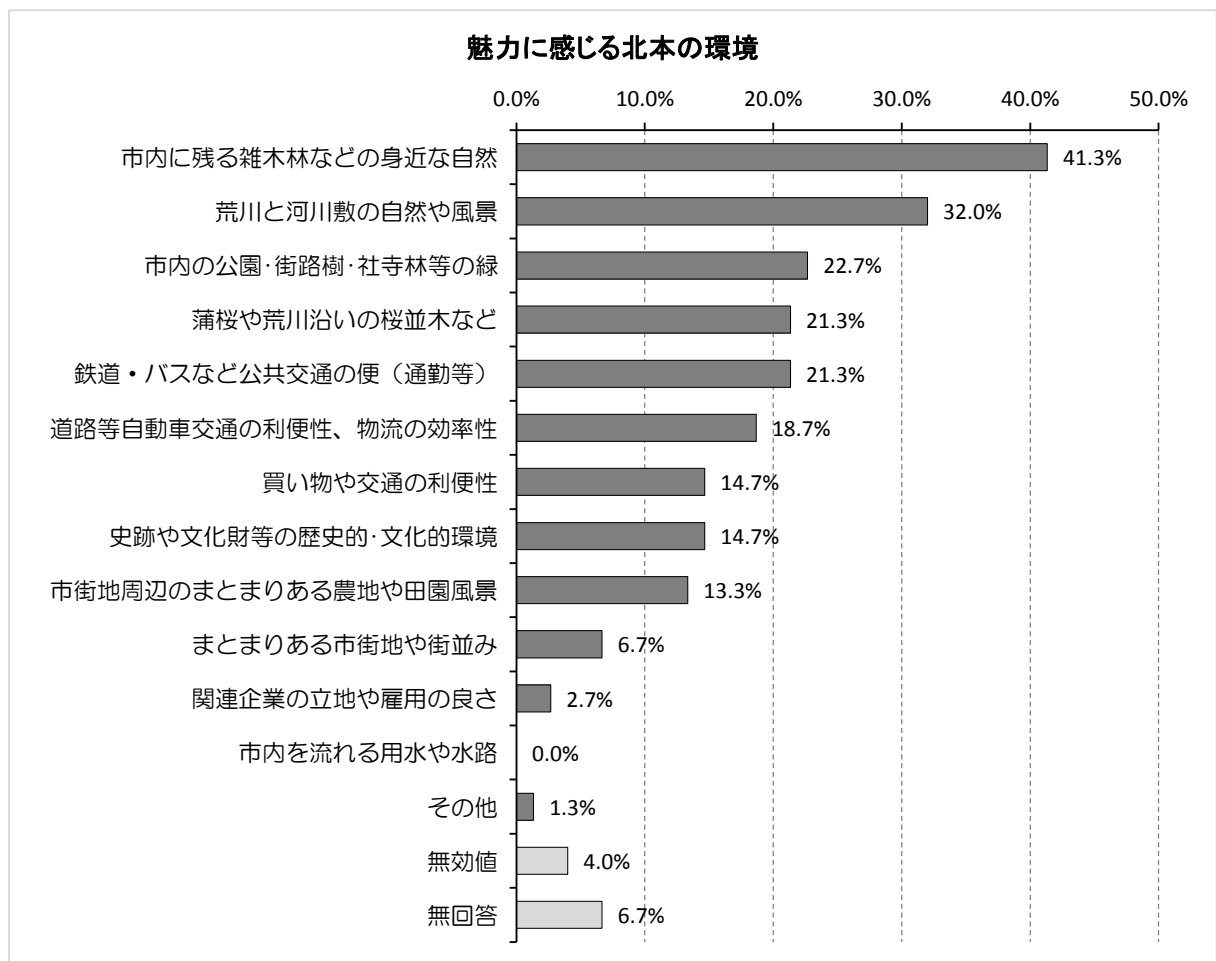
北本の環境を良くしていく取り組みについて

問 11 魅力を感じる北本市の環境

事業所が魅力を感じる北本市の環境としては、「市内に残る雑木林などの身近な自然」が 41.3%と最も高く、第2位として「荒川と河川敷の自然や風景」が 32.0%となっています。

これらに次いで、「市内の公園・街路樹・社寺林等の緑」や「蒲桜や荒川沿いの桜並木など」、「鉄道・バスなど公共交通の便（通勤等）」がそれぞれ2割以上となっています。

市民アンケートではほぼ同じ項目で、「北本市で最も大切にしていきたい環境」として聞いています。その結果と比較すると、「買い物や交通の利便性」や「鉄道・バスなど公共交通の便（通勤等）」を除く上位の項目は同じになっており、「市内に残る雑木林などの身近な自然」や「荒川と河川敷の自然や風景」、「市内の公園・街路樹・社寺林等の緑」が、市民・事業者共通の“北本の環境の魅力”として位置づけられるといえます。



また、H19 調査でも同じ設問形式で調査を行っています。H19 調査と比較すると、H19 調査では1位であった「蒲桜や荒川沿いの桜並木など」は、今回は4位となっていますが、「市内に残る雑木林などの身近な自然」や「荒川と河川敷の自然や風景」は、同様に上位となっています。

H19 調査と比べ今回の調査では、「市内の公園・街路樹・社寺林等の緑」が6ポイント上昇したほか、「鉄道・バスなど公共交通の便（通勤等）」と「道路等自動車交通の利便性、物流の効率性」が7～8ポイント上昇しています。これらは、公園などの整備や圏央道の開通など道路整備による環境の変化が影響していることも考えられます。

項目	回答数	割合	H19 調査
市内に残る雑木林などの身近な自然	31	41.3%	50.0%
市内の公園・街路樹・社寺林等の緑	17	22.7%	16.7%
荒川と河川敷の自然や風景	24	32.0%	36.7%
買い物や交通の利便性	11	14.7%	16.7%
市内を流れる用水や水路	0	0.0%	1.7%
まとまりある市街地や街並み	5	6.7%	5.0%
市街地周辺のまとまりある農地や田園風景	10	13.3%	10.0%
道路等自動車交通の利便性、物流の効率性	14	18.7%	11.7%
蒲桜や荒川沿いの桜並木など	16	21.3%	58.3%
鉄道・バスなど公共交通の便（通勤等）	16	21.3%	13.3%
史跡や文化財等の歴史的・文化的環境	11	14.7%	15.0%
関連企業の立地や雇用の良さ	2	2.7%	5.0%
その他	1	1.3%	0.0%
無効値	3	4.0%	
無回答	5	6.7%	1.7%
回答者数	75		回答者数 60

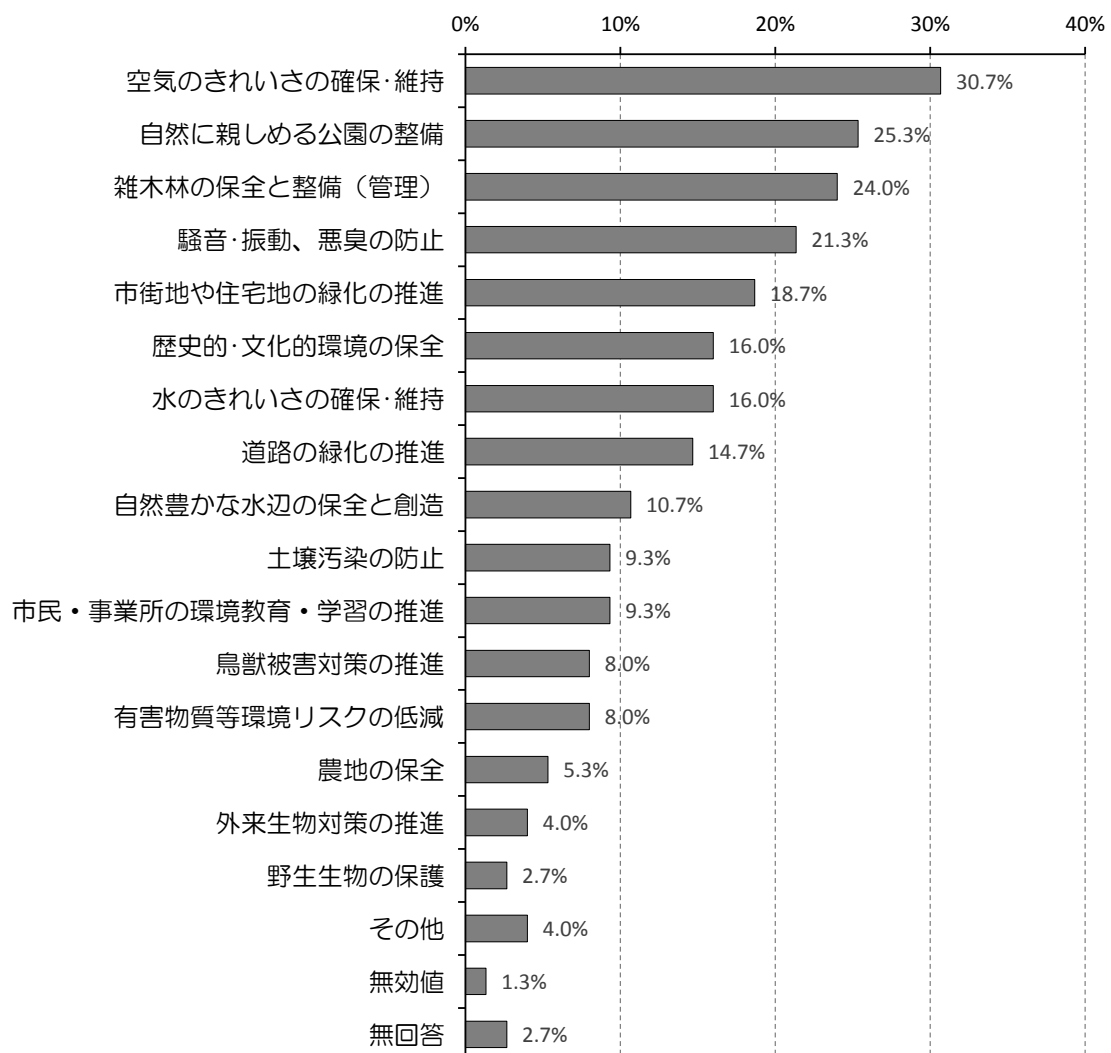
問 12 まちづくりに向けて優先すべき取組内容

事業者の視点から、これからのまちづくりに向けて優先すべき取り組む必要があると思われる内容について、市民アンケートとほぼ同じ設問形式、選択肢でたずねています。

優先的に取り組むべき項目として、「空気のきれいさの確保・維持」が 30.7%、次いで、「自然に親しめる公園の整備」25.3%、「雑木林の保全と整備（管理）」24.0%となっています。

全体的には市民と事業者とも、順位はことなりますがほぼ同じ傾向となっています。上位3つの項目は同じで、事業者では「空気のきれいさの確保・維持」が第1位でしたが、市民では第3位となっています。また、第2位と第3位の「自然に親しめる公園の整備」と「雑木林の保全と整備（管理）」は、市民では、第1位と第2位となっています。

まちづくりに向けて優先的に取り組むこと



項目	回答数	割合
雑木林の保全と整備（管理）	18	24.0%
自然豊かな水辺の保全と創造	8	10.7%
農地の保全	4	5.3%
自然に親しめる公園の整備	19	25.3%
市街地や住宅地の緑化の推進	14	18.7%
道路の緑化の推進	11	14.7%
野生生物の保護	2	2.7%
外来生物対策の推進	3	4.0%
鳥獣被害対策の推進	6	8.0%
歴史的・文化的環境の保全	12	16.0%
土壌汚染の防止	7	9.3%
有害物質等環境リスクの低減	6	8.0%
空気のきれいさの確保・維持	23	30.7%
水のきれいさの確保・維持	12	16.0%
騒音・振動、悪臭の防止	16	21.3%
市民・事業所の環境教育・学習の推進	7	9.3%
その他	3	4.0%
無効値	1	1.3%
無回答	2	2.7%
回答者数	75	

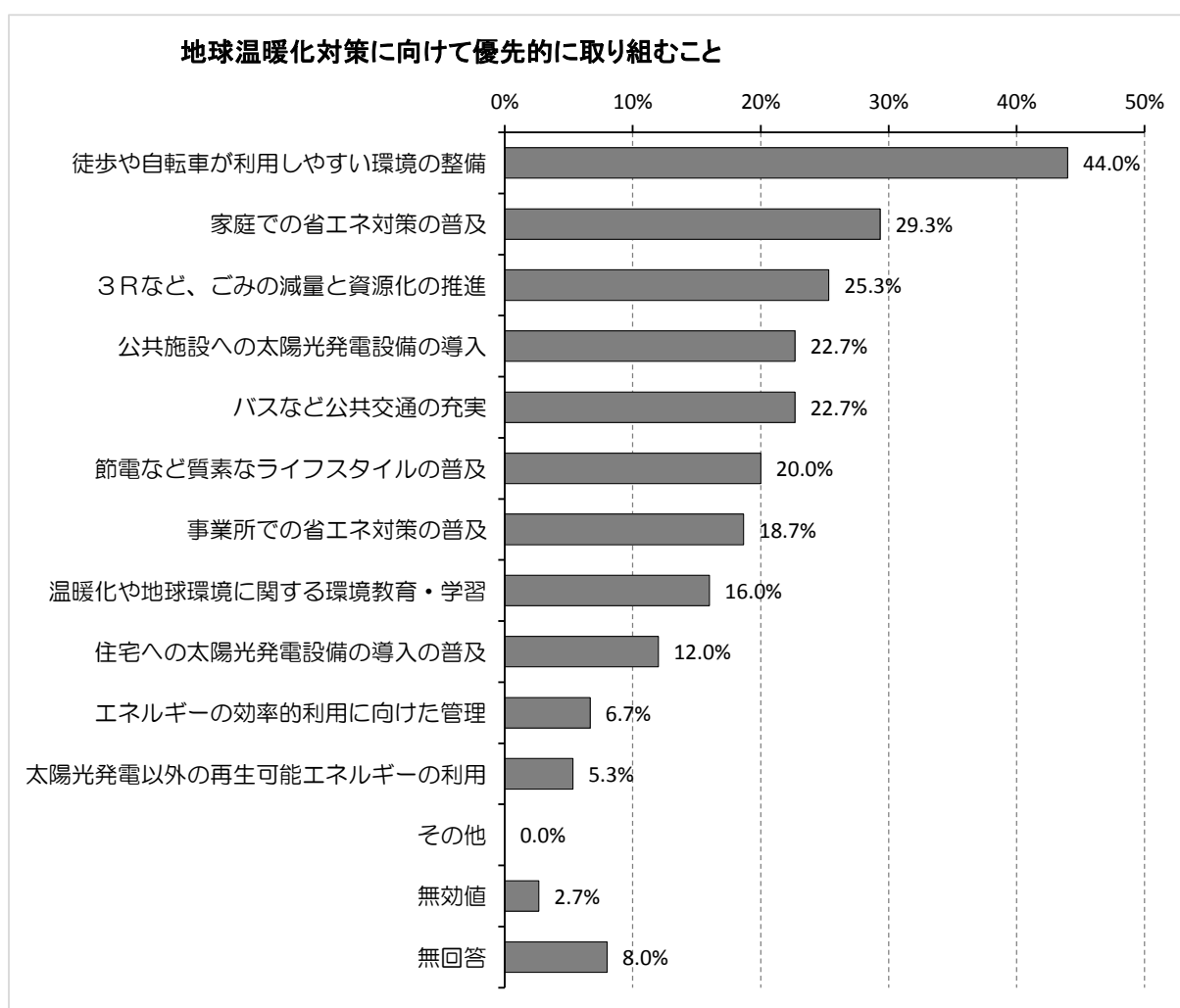
H19 調査でも同様の設問があり、上表と同じような項目で見ると、H19 調査では「自然環境の保全と創造」が最も高く、次いで、「公園の整備」、「豊かな都市景観の創造」、「環境教育・環境学習の推進」、「空気の清浄さの維持」となっており、同じ傾向が見られます。

問 13 地球温暖化対策に向けて優先すべき取組内容

事業者の視点から、地球温暖化対策に向けて優先して取り組む必要があると思われる内容について、市民アンケートとほぼ同じ設問形式、選択肢でたずねています。

優先的に取り組むべき項目として、「徒歩や自転車が利用しやすい環境の整備」が 44%と最も高く、次いで、「家庭での省エネ対策の普及」29.3%、「3R など、ごみの減量と資源化の推進」25.3%となっています。

市民アンケートと比較すると、第 1 位は「徒歩や自転車が利用しやすい環境の整備」で同じですが、市民では第 2 位が「節電など質素なライフスタイルの普及」となっていますが、事業者では第 6 位となっています。市民では第 3 位の「バスなどの公共交通の充実」は、事業者では 5 位となっています。

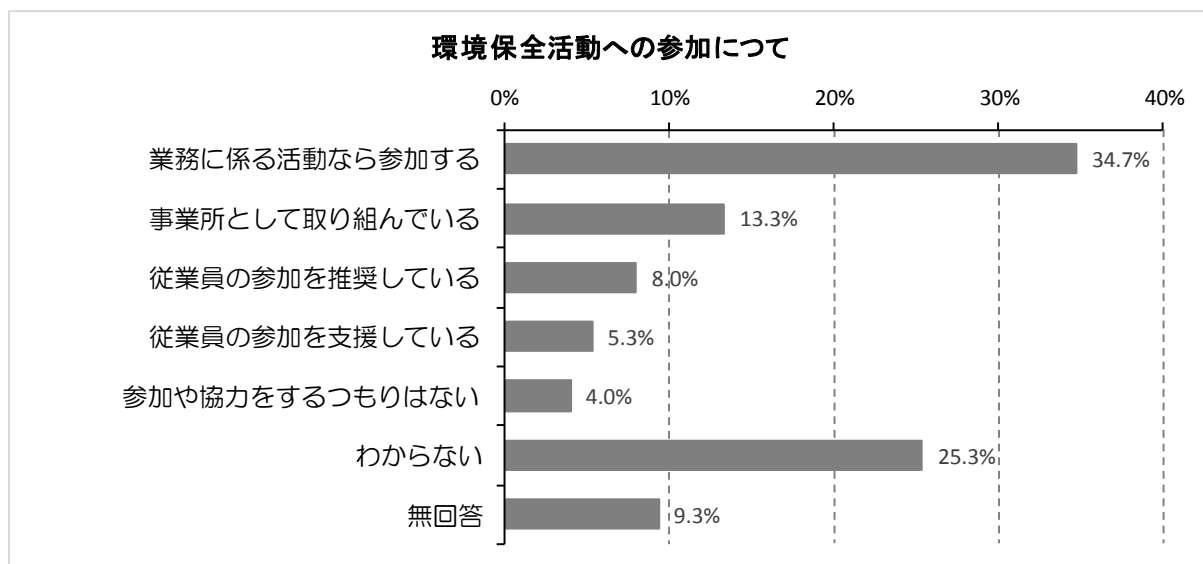


地球温暖化対策に向けて優先して取り組む必要がある取り組み

項目	回答数	割合
節電など質素なライフスタイルの普及	15	20.0%
家庭での省エネ対策の普及	22	29.3%
事業所での省エネ対策の普及	14	18.7%
公共施設への太陽光発電設備の導入	17	22.7%
住宅への太陽光発電設備の導入の普及	9	12.0%
太陽光発電以外の再生可能エネルギーの利用	4	5.3%
エネルギーの効率的利用に向けた管理	5	6.7%
3Rなど、ごみの減量と資源化の推進	19	25.3%
徒歩や自転車が利用しやすい環境の整備	33	44.0%
バスなど公共交通の充実	17	22.7%
温暖化や地球環境に関する環境教育・学習	12	16.0%
その他	0	0.0%
無効値	2	2.7%
無回答	6	8.0%
回答者数	75	

問 14 環境保全活動への参加について

環境保全活動への参加については、「業務に係る活動なら参加する」が 34.7%と最も多く、次いで「わからない」が 25.3%と 4 分の 1 の事業者が回答しています。今後、環境保全活動への事業者の参加や連携を図っていくうえで、大きな課題ともいえます。



項目	回答数	割合
事業所として取り組んでいる	10	13.3%
従業員の参加を推奨している	6	8.0%
従業員の参加を支援している	4	5.3%
業務に係る活動なら参加する	26	34.7%
参加や協力をするつもりはない	3	4.0%
わからない	19	25.3%
無回答	7	9.3%
回答者数		75

【自由記載】意見の内容

民間の子育支援を利用していただきたい。幼保連携策です。

我が社には事業所はありません。宜しく御願ひ致し致します。

新市長の考え方を早期に発表してほしい。セーフコミュニティは廃止したのか？
エネファーム導入の普及へ努力、災害に強いまち

道路の整備（うちの前の道路の振動がひどいです）

防犯カメラの設置を幹線道路につけてほしい。防犯灯も増設してほしい。
AEDの講習会を各地で開設してほしい。

幼児2人乗り（3人乗り）できる自転車に対する普及策がされていません。近隣市町は進めているところもあるのに、北本市はされていません。幼稚園送迎やちょっとした買物でも車を利用していまう状況を改善できないものでしょうか？クリーンで子育てしやすい北本を推進して下さい。

最近有害鳥（カラス）が多く見られる。何とかして欲しい。

あまり小さな店では、限度があるように思われる。

道路、歩行者、自転車が安心して安全に通行出来る環境を切望します。

具体的な目標が見えない。（北本市の環境にかかわる計画の）

市役所が立派になりました。電気代や冷暖房に費用がかかりそうです。今さら遅いですが、エコな建物ではないように思います。
